



高校通級 スタートパック

高校通級スタートパック

～ 生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導を目指して ～

目次

<はじめに>

高等学校において、通級による指導を導入する上での課題を明らかにし、その課題の解決を図るためのガイド「高校通級スタートパック」を作成しました。生徒一人一人の教育的ニーズに応じた指導のために、多くの先生方に活用していただければ幸いです。

1

通級による指導を 理解する

- 1 特別支援教育・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 通級による指導の制度・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
- 3 特別の教育課程の編成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5
- 4 個別の教育支援計画と個別の指導計画・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
- 5 自立活動の指導・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
- 6 評価, 単位認定の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 14

2

具体的指導内容を イメージする

- 1 通級による指導の導入モデル・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 自立活動の「個別の指導計画」の作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
(実態把握から指導内容の決定まで)
- 3 授業展開・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 20
- 4 教室環境整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 23
- 5 評価と単位認定・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 24
- 6 次年度の通級による指導に向けて・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 26

3

通級による指導の 展開例

- 1 感情のコントロールが苦手な生徒・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
- 2 相手の表情から気持ちを読み取ることが苦手な生徒・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 6
- 3 スケジュールや、物の管理が苦手な生徒・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 11
- 4 想定したとおりにならないと、精神的に不安定になる生徒・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 16

4

校内支援体制を整備する

- 1 校内支援体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 通級による指導開始までのプロセス・・・・・・・・・・3
- 3 中学校との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- 4 通級指導担当教員とホームルーム担任,教科担任との連携・・・6
- 5 通級指導担当教員と保護者との連携・・・・・・・・・・7
- 6 校内支援体制の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

5

新たな道を拓く 進路指導

- 1 進学に向けての支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 就職に向けての支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5

6

すぐに活用できる 資料

- 1 指導の記録シート
- 2 保護者連絡シート
- 3 生徒用リーフレット
- 4 保護者用リーフレット
- 5 保護者用スライド
- 6 校内研修用スライド 理解編
- 7 校内研修用スライド 具体的指導内容編
- 8 宮城県内相談機関リスト
- 9 学習指導要領における自立活動の内容
- 10 学校における合理的配慮の3観点11項目

<補助資料> 授業動画「感情のコントロールにつなげる学習」について

1

通級による指導を 理解する

1	特別支援教育	1
2	通級による指導の制度	3
3	特別の教育課程の編成	5
4	個別の教育支援計画と個別の指導計画	10
5	自立活動の指導	12
6	評価, 単位認定の方法	14

1 通級による指導を
理解する

1 特別支援教育

Keyword

共生社会 インクルーシブ教育システム 合理的配慮
連続性のある多様な学びの場 個別の教育的ニーズ

1 特別支援教育とは

通級による指導を理解するためには、まず特別支援教育について理解することが大切です。特別支援教育の理念は、以下の通りになります。

- 障害のある幼児児童生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取組を支援するという視点に立ち、幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導及び必要な支援を行うもの。
- 知的な遅れのない発達障害も含めて、特別な支援を必要とする幼児児童生徒が在籍する全ての学校において実施されるもの。
- 障害の有無やその他の個々の違いを認識しつつ様々な人々が生き生きと活躍できる共生社会の形成の基礎となるもの。

[特別支援教育の推進について（通知）（平成19年4月1日）]より作成

平成24年の文部科学省の調査では、知的発達に遅れはないものの学習面又は行動面で著しい困難を示すとされた通常の学級に在籍する児童生徒の割合は約 **6.5%**とされており、その他にも教育的支援を必要としている児童生徒が数多くいる可能性が述べられています。今や、特別支援教育に対する知識や理解は、校種に関わらず、全ての教員にとって必要なものとなっています。

障害が原因とみられる（可能性を含む）困難等により支援を必要とする生徒（以下、支援を必要とする生徒）が周囲の生徒と共に学ぶためにも、特別支援教育の充実が求められています。

2 インクルーシブ教育システムの構築

「共に学ぶ」はインクルーシブ教育システムを理解する上での重要なキーワードです。

「共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」（平成24年7月）では、以下についての重要性が述べられています。

- **合理的配慮**及びその基礎となる環境整備
- **多様な学びの場**の整備と学校間連携等の推進
- 教職員の専門性向上等

3 学校における「合理的配慮」とは

平成28年に施行された「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（障害者差別解消法）」で

は、障害者も含めた国民一人一人が、それぞれの立場において差別の解消に向けた具体的な取組を自発的に行うことを促しており、共生社会の実現を目指し合理的配慮を行うことなどを求めています。

このことを踏まえて、学校現場においては、一人一人の教育的ニーズに応じた合理的配慮の提供が求められており、支援を必要とする生徒が通常の学級で学習に参加するために必要な支援は何なのか、学校全体で考えていく必要があります。学校で行われている合理的配慮には以下のようなものがあります。

○ 授業における合理的配慮の例

- ・ 全体に指示をした後に個別に指示を繰り返す。分からないことはないか確認する。
- ・ 抽象的であいまいな指示をせず、具体的で端的な指示をする。視覚的情報も活用する。
- ・ 座席を前の方に配置し、黒板が見やすいようにする。
- ・ 穴埋め式のワークシートを作成し、文章を書く量を軽減する。
- ・ 教科書やプリントにルビを振ったり文節を区切ったりする。 等

○ 学校生活における合理的配慮の例

- ・ 一日のスケジュールを朝の会等で示し、見通しを持たせる。
- ・ 感情的になった際に、相談室や保健室を利用できるよう事前に決めておく。
- ・ 連絡事項の内容を1対1で確認する。大事な予定についてはメモ帳等に記入させる。 等

〔「インクルーシブ教育システム構築支援データベース」国立特別支援教育総合研究所〕より作成

※合理的配慮について詳しく知りたい場合は、平成30年度専門研究特別支援教育研究グループの研究成果物「ともまなびガイド」をご覧ください。

平成30年度 研究成果物「ともまなびガイド」

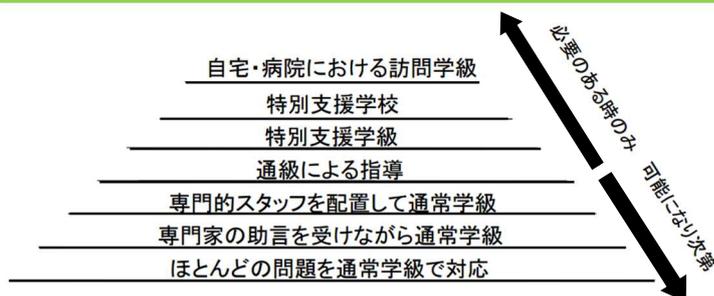
4 連続性のある多様な学びの場とは

障害のある子供と障害のない子供が同じ場で共に学ぶことを追求するとともに、個別の教育的ニーズのある子供に対し、自立と社会参加を見据えて、その時点で教育的ニーズに最も的確に答える指導を提供できる多様で柔軟な仕組みを整備することが重要であることや、**連続性のある多様な学びの場**を用意しておくことが必要であるとの考え方が示されました。

義務教育段階では、下図のように通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校といった、連続性のある多様な学びの場の整備が進んでいます。

平成30年度より高等学校における通級による指導が導入されたことによって、高等学校にも多様な学びの場の一つが新たにできたこととなります。このことによって、小中学校において通級による指導を受けてきた生徒に対して、高等学校でも引き続き、大部分は通常の学級での学習を受けつつ、一部特別な指導を受ける機会が提供されることとなり、小・中学校等からの学びの連続性を確保することにつながりました。

〈参考〉日本の義務教育段階の多様な学びの場の連続性



〔共生社会の形成に向けたインクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進(報告)(平成24年7月)参考資料4〕より

1 通級による指導を
理解する

2 通級による指導の制度

Keyword

指導の形態 障害に応じた特別の指導 特別の教育課程
指導の対象となる生徒 自立活動に相当する指導

1 指導の形態

通級による指導は、支援を必要とする生徒が各教科等の大部分の授業を通常の学級で受けながら、一部の授業について、「通級指導教室」といった特別な場で受ける指導形態のことです。「通級指導教室」では、個別指導を中心とした障害に応じた特別の指導を行います。指導の形態には、以下の3つがあります。

自校通級	生徒が在学する学校において指導を受ける。
他校通級	他の学校に週に何単位時間か定期的に通級し、指導を受ける。
巡回指導	通級による指導の担当教師が該当する生徒がいる学校に赴き、又は複数の学校を巡回して指導を行う。

2 指導の対象となる生徒

通級による指導の対象となる生徒については、以下のように規定されています。

言語障害者、自閉症者、情緒障害者、弱視者、難聴者、学習障害者、注意欠陥多動性障害者、その他障害のある者※で、この条の規定により特別の教育課程による教育を行うことが適当なもの

[学校教育法施行規則第140条]より

※「その他障害のある者」とは、肢体不自由者、病弱者及び身体虚弱者とされています。

これらの障害のある生徒のうち、通常の学級での学習におおむね参加でき、一部特別な指導を必要とする程度の者になります。通級による指導を実施するかどうかの判断においては、生徒自身や保護者の意向を確認しながら、医学的な診断の有無のみにとらわれないよう留意し、総合的に判断する必要があります。

3 指導の内容

高等学校における通級による指導では、障害による学習上又は生活上の困難の改善・克服を目的とした指導として、特別支援学校高等部学習指導要領第6章に示す自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行います。個々の障害に応じた特別な指導を行うため、生徒の実態把握に基づき、指導すべき課題を明確にすることによって、指導のねらい及び指導内容を設定し、自立活動の個別の指導計画を作成する必要があります。

通常の教科指導との大きな違いは、具体的な指導内容があらかじめ学習指導要領に定められていないということです。生徒の実態や教育的ニーズに応じて、指導内容を検討していくことが重要です。

特に必要があるときは、障害の状態に応じて、各教科の内容を取り扱いながら行うことができます。ただし、この場合には、当該教科の免許状を有する教員も参画して個別の指導計画の作成や指導を行うことが望

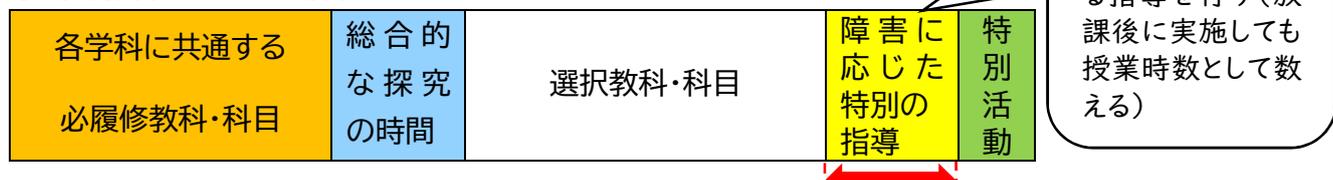
ましいとされています。単なる各教科の遅れを補充するための指導とはならないよう留意する必要があります。

4 特別の教育課程

通級による指導を行う場合には、学校教育法施行規則第140条及び第141条を根拠として、**特別の教育課程**を編成することができます。小学校、中学校、義務教育学校、高等学校又は中等教育学校においては、障害に応じた特別の指導を教育課程に加えるか、その一部に替えることができます。

高等学校では、**年間 7 単位を超えない範囲**で在学する高等学校等が定めた全課程の修了を認めるに必要な単位数のうちに加えることができます。

① 教育課程に加える場合



② 教育課程の一部に替える場合



通級による指導を教育課程に加える場合は、放課後等の授業のない時間帯に実施します。この場合、他の生徒と比べ、**対象生徒の授業時数が増加**することになるため、対象生徒の負担や心理的な抵抗感に配慮する必要があります。

通級による指導を教育課程の一部に替える場合は、**選択教科・科目の中の一部に替えて履修**することになります。通級による指導を受けたことにより、「替える」対象となる教科等を受けたこととみなすことはできません。

この場合、全体の授業時数は増加しませんが、他の生徒が選択科目の授業を受けている時間帯に通級による指導を受けることとなります。そのため、対象生徒の心理的抵抗感への配慮に加え、他の生徒への説明等が必要となります。なお、科目の名称を工夫して、生徒の心理的抵抗感に配慮している学校もあります。

一方、高等学校においては、**替えることのできない教科・科目等**があります。これらを踏まえて教育課程を編成する必要があります。

学科	替えることができない教科・科目等
普通科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必履修教科・科目 ○ 総合的な探究の時間及び特別活動
専門学科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必履修教科・科目 ○ 総合的な探究の時間及び特別活動 ○ 全ての生徒が履修する専門教科・科目
総合学科	<ul style="list-style-type: none"> ○ 必履修教科・科目 ○ 総合的な探究の時間及び特別活動 ○ 産業社会と人間

Key word

特別の教育課程 加える場合 替える場合
全日制普通科 専門学科 総合学科 定時制普通科

ここでは、高等学校における特別の教育課程について、編成する際の留意事項を学科や設置課程ごとに例示します。通級による指導を通常の教育課程に「加える」か「替える」か、また「替える」場合は何と「替える」かについて、生徒の進路希望や部活動の状況等を考慮に入れながら検討することが大切です。なお、障害に応じた特別の指導を選択教科・科目として設定することはできません。また、学校設定教科・科目としてソーシャルスキルに関する内容等が実施されている例がありますが、通級による指導として行う自立活動とは目的が異なり、障害に応じた特別の指導とは別の指導となります。

(1) 全日制普通科の場合

～全日制普通科の教育課程(例)～

1 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	必履修教科・科目																												探究の時間 総合的な 学習の時間	LHR	
2 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	必履修教科・科目														必履修以外の教科・科目														探究の時間 総合的な 学習の時間	LHR	
3 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	必履修教科・科目								必履修以外の教科・科目																						探究の時間 総合的な 学習の時間

全日制普通科において、通級による指導を実施する場合は**必履修教科・科目等**のほか、**総合的な探究の時間**に「替える」ことはできません。

～特別の教育課程(例)～

通級による指導を1年次は2単位時間、放課後に行い、2年次、3年次には2単位時間、通常の授業時間帯に行う場合

1 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
	必履修教科・科目																												探究の時間 総合的な 学習の時間	障害に応じた 特別の指導	LHR	
2 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	必履修教科・科目														必履修以外の教科・科目														探究の時間 総合的な 学習の時間	障害に応じた 特別の指導	LHR	
3 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30		
	必履修科目								必履修以外の教科・科目																						探究の時間 総合的な 学習の時間	障害に応じた 特別の指導

2単位時間
「加える」場合

2単位時間
「替える」場合

2単位時間
「替える」場合

(2) 専門学科の場合

～専門学科の教育課程(例)～

1 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	必履修教科・科目																		専門教科・科目										探究の時間 LHR	LHR
2 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	必履修教科・科目											必履修以外の教科・科目							専門教科・科目										探究の時間 LHR	LHR
3 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	必履修教科・科目							必履修以外の教科・科目										専門科目										探究の時間 LHR	LHR	

農業、工業、商業等、専門教育を主とする学科においては、通級による指導を**必履修教科・科目等**のほか、**総合的な探究の時間、全ての生徒に履修させる専門教科・科目**に「替える」ことはできません。専門教科・科目について「全ての生徒に履修させる単位数は、25単位を下らないもの」とされていますので、通級による指導を通常の教育課程に「替える」ことのできる選択教科・科目の数が他の学科に比べて少ないことに留意する必要があります。

～特別の教育課程(例)～

通級による指導を1年次、2年次は1単位時間、放課後に行い、3年次は2単位時間、通常の授業時間帯に行う場合

1 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	必履修教科・科目																		専門教科・科目										探究の時間 LHR	特別の指導 かきこむ時間	LHR
2 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
	必履修教科・科目											必履修以外の教科・科目							専門教科・科目										探究の時間 LHR	特別の指導 かきこむ時間	LHR
3 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	必履修教科・科目							必履修以外の教科・科目										専門教科・科目										探究の時間 LHR	障害に応じた 特別の指導		

↑ 1単位時間「加える」場合

↑ 1単位時間「加える」場合

↑ 2単位時間「替える」場合

(3) 総合学科の場合

～総合学科の教育課程(例)～

1 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	必履修教科・科目																										産業社会 と人間	総合的な 探究の時間	LHR		
2 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	必履修科目											必履修以外の教科・科目															総合的な 探究の時間	LHR			
3 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
	必履修教科・科目					必履修以外の教科・科目																									総合的な 探究の時間

総合学科においては、必履修教科・科目等のほか、総合的な探究の時間、「産業社会と人間」に「替える」ことはできません。

～特別の教育課程(例)～

通級による指導を1年次,2年次は2単位時間,放課後に行い,3年次は2単位時間,通常の授業時間帯に行う場合

1 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32											
	必履修教科・科目																										産業社会 と人間	総合的な 探究の時間	障害に応じた 特別の指導	LHR													
2 単位時間 「加える」場合																																											
					必履修教科・科目																										必履修以外の教科・科目												
2 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32											
	必履修教科・科目																										必履修以外の教科・科目															総合的な 探究の時間	障害に応じた 特別の指導
2 単位時間 「加える」場合																																											
					必履修教科・科目																										必履修以外の教科・科目												
3 年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30													
	必履修教科・科目					必履修以外の教科・科目																									総合的な 探究の時間	障害に応じた 特別の指導	LHR										
2 単位時間 「替える」場合																																											
					必履修教科・科目																										必履修以外の教科・科目												

(4) 定時制普通科・専門学科の場合

～定時制の教育課程(例)～

1年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	必履修教科・科目																		探究の時間	総合的なLHR
2年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	必履修教科・科目														必履修以外の教科・科目				探究の時間	総合的なLHR
3年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	必履修教科・科目										必履修以外の教科・科目								探究の時間	総合的なLHR
4年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	必履修教科・科目				必履修以外の教科・科目														探究の時間	総合的なLHR

「替える」ことができない教科・科目等

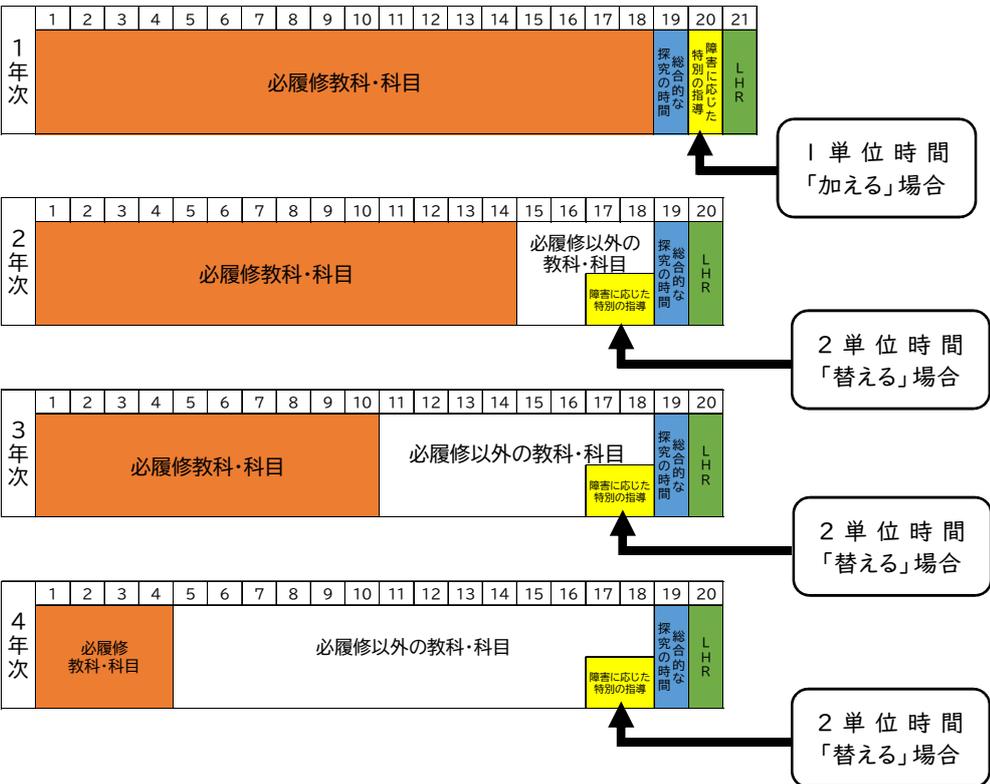
- <定時制普通科>
- 必履修教科・科目
 - 総合的な探究の時間

- <定時制専門学科>
- 必履修教科・科目
 - 総合的な探究の時間
 - 全ての生徒が履修する専門教科・科目

定時制の高等学校の修業年数は4年が原則となっていますが、「三修制」や「単位制」を取り入れている学校等、様々なタイプの学校があります。始業時間や終業時間が、昼間部や夜間部、多部制等でそれぞれ異なるため、通級による指導を通常の教育課程に「加えて」実施する場合は、通級による指導の実施に適切な時間帯を検討した上で、編成する必要があります。

～特別の教育課程(例)～

通級による指導を1年次は1単位時間、放課後に行い、2～4年次は2単位時間、通常の授業時間帯に行う場合



履修の例

- ① 3年間で3単位履修
- ② 2年間で2単位履修
- ③ 2年間で1単位履修
- ④ 3年間で1単位履修



① 3年間で3単位履修

- 1年次の4月から行う場合には、中学校からの支援内容を事前に引き継ぐ必要があります。中学校で通級による指導を受けてきた生徒に対して、継続的な指導を行うことができます。
- すぐに指導を開始するので、入学前に特別の教育課程の編成や指導内容、生徒や保護者との合意形成の回り方等について、十分に検討する必要があります。

② 2年間で2単位履修

- 2年次から開始する場合、1年次は生徒の学習・生活状況の把握を行い、生徒や保護者と合意形成を図ってから通級による指導の試行を行うことができます。このように実践している高等学校の例が全国にあります。

③ 2年間で1単位履修 ④ 3年間で1単位履修

- 年度途中から実施となる場合です。1年次と2年次で35単位時間、1年次と2年次、3年次で35単位時間というように、年次にわたる授業時数を合算して単位の修得の認定を行います。

1 通級による指導を
理解する

4 個別の教育支援計画と個別の指導計画

Keyword

個別の教育支援計画 個別の指導計画
PDCAサイクル

通級による指導を受けている生徒には「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」を作成・活用する必要があります。高等学校学習指導要領には、以下のように示されています。

通級による指導を受ける生徒については、個々の生徒の障害の状態等の実態を的確に把握し、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、効果的に活用するものとする。

[高等学校学習指導要領(平成30年告示)第1章総則第5款2(1)ウの一部]より

1 個別の教育支援計画

個別の教育支援計画については、高等学校学習指導要領解説総則編に以下のように示されています。

平成15年度から実施された障害者基本計画においては、教育、医療、福祉、労働等の関係機関が連携・協力を図り、障害のある生徒の生涯にわたる継続的な支援体制を整え、それぞれの年代における生徒の望ましい成長を促すため、個別の支援計画を作成することが示された。この個別の支援計画のうち、幼児児童生徒に対して、教育機関が中心となって作成するものを、個別の教育支援計画という。

[高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説総則編]より（下線は作成者による）

支援を必要とする生徒に対しては、保護者や医療、福祉、保健、労働等の関係機関と連携しながら、長期的な視点で支援を行っていくことが大切です。個別の教育支援計画を作成することによって、学校関係者だけでなく、保護者や関係機関とも生徒に関する情報共有を行うことができます。また、個別の教育支援計画を進学先や就職先へ引き継ぐことによって、生徒に対して継続した支援を行うことができます。

個別の教育支援計画に記載される内容例

- | | |
|---------------|---------------|
| ○ 学習の様子 | ○ 生活の様子 |
| ○ 本人・保護者の願い | ○ 学校での支援、指導内容 |
| ○ 合理的配慮の提供の状況 | ○ 関係機関との連携 |
| | 等 |

個別の教育支援計画は個別の指導計画を作成する際の材料の一つとなります。様式については各学校で検討して作成します。

※2章「具体的指導内容をイメージする」〈イメージ9～10〉に様式の例を載せています。

2 個別の指導計画

「個別の指導計画」については、高等学校学習指導要領解説総則編に以下のように示されています。

個別の指導計画は、個々の生徒の実態に応じて適切な指導を行うために学校で作成されるものである。個別の指導計画は、教育課程を具体化し、障害のある生徒など一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にして、きめ細やかに指導するために作成するものである。

[高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説総則編]より

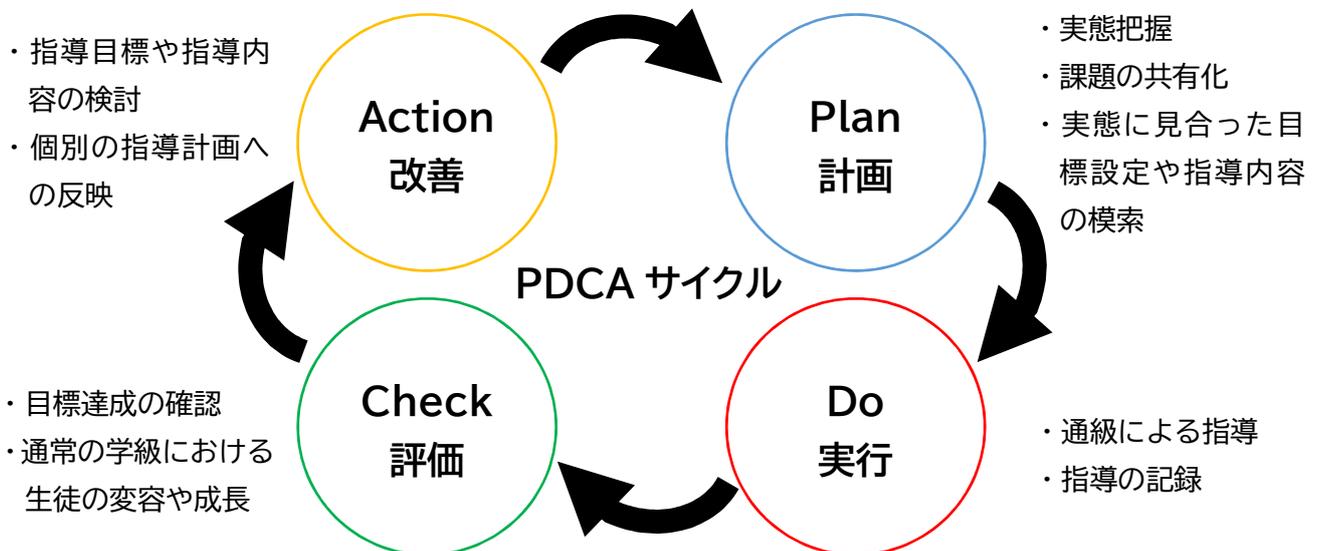
個別の指導計画には、生徒や保護者の願い、指導目標、指導内容、指導の評価、次年度への課題等を記載します。指導の経過の共有や、生徒に対する計画的・継続的な指導につなげることに活用できます。

通級による指導に係る単位の修得の認定は、個別の指導計画に記載される評価によって行われます。また、個別の指導計画の写しを、指導要録の様式に添付することで指導要録への記入に替えることができます。

個別の指導計画の評価・改善

個別の指導計画を作成し、その計画に基づいて通級による指導を行います。作成後は、学期ごとに設定した指導目標や指導内容が適切だったかを振り返り(評価)、改善していくことが望ましいです。

計画(Plan)－実践(Do)－評価(Check)－改善(Action)のPDCAサイクルによる見直しを行います。



個別の教育支援計画, 個別の指導計画の引継ぎ

個別の教育支援計画は、関係機関と共有したり、進学先の学校へ引き継いだりすることでその目的を果たすことができます。

一方で、その内容には多くの個人情報を含むため、本人や保護者の同意なく、第三者に提供することはできません。このため、計画を作成する際に、本人や保護者に対し、その趣旨や目的をしっかりと説明して理解を得、第三者に引き継ぐ旨についてあらかじめ同意を得ておく必要があります。また、あらかじめ同意を得ているとしても、実際に第三者に提供する際には、本人や保護者とともに引き継ぐ内容を確認することで、互いの考えや思いを共有することができ、よりよい引継ぎができます。

同様に、個別の指導計画を引き継ぐ際にも、個人情報の保護に配慮する必要があります。

[「発達障害を含む障害のある幼児生徒に対する教育支援体制ガイドライン」(H29.3 文部科学省)]より

Keyword

自立活動に相当する指導 自立活動の内容「6区分27項目」
「オーダーメイド」の指導

1 自立活動の指導とは

通級による指導については、高等学校学習指導要領に以下のように示されています。

障害のある生徒に対して、学校教育法施行規則第140条の規定に基づき、特別の教育課程を編成し、障害に応じた特別の指導（以下「通級による指導」という。）を行う場合には、学校教育法施行規則129条の規定により定める現行の特別支援学校高等部学習指導要領第6章に示す自立活動の内容を参考とし、具体的な目標や内容を定め、指導を行うものとする。その際、通級による指導が効果的に行われるよう、各教科・科目等と通級による指導との関連を図るなど、教師間の連携に努めるものとする。

[高等学校学習指導要領(平成30年告示)第1章総則第5款2(1)イ]より

通級による指導は、特別支援学校高等部学習指導要領を参考として自立活動に相当する指導をします。支援を必要とする生徒はその障害によって学習場面や日常生活において様々なつまづきや困難が生じるため、他の生徒と同様に、発達段階に即した教育をするだけでは十分とは言えません。個々の障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服するために行う指導が自立活動です。

生徒の実態は様々です。生徒の障害の状態や発達段階に応じて、必要な項目を「6区分27項目」から選定します。個々の生徒の指導目標や指導内容がそれぞれ異なることから、自立活動は「オーダーメイドの指導」と言われています。

自立活動の内容「6区分27項目」

区分	項目・指導内容
1 健康の保持	(1) 生活のリズムや生活習慣の形成に関すること ・生活のリズムの習得(体温の調節, 覚醒と睡眠等) ・生活習慣の形成(食事, 排泄等) ・健康な生活習慣の形成(衣服の調整, 室温の調整, 換気, 清潔の保持等)
	(2) 病気の状態の理解と生活管理に関すること ・病気の理解と自己管理(病気の予防, 服薬の理解や管理等)
	(3) 身体各部の状態の理解と養護に関すること ・部位の適切な保護 ・症状の進行の防止
	(4) 障害の特性の理解と生活管理に関すること ・自己の障害の理解 ・自己の行動や感情の調整
	(5) 健康状態の維持・改善に関すること ・健康の自己管理(適度な運動, 食生活と健康についての学習等)

2 心理的な安定	(1)	情緒の安定に関すること ・情緒のコントロール(気持ちの表現,クールダウンの方法等)
	(2)	状況の理解と変化への対応に関すること ・場所や場面の状況の理解 ・変化への対応の仕方の習得
	(3)	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること ・障害の状態への理解や受容 ・主体的に障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服しようとする意欲
3 人間関係の形成	(1)	他者とのかかわりの基礎に関すること ・人に対する信頼感 ・他者からの働き掛けの受容
	(2)	他者の意図や感情の理解に関すること ・他者の意図や感情の理解と場に応じた行動
	(3)	自己の理解と行動の調整に関すること ・自分の得意不得意や行動の特徴の理解 ・集団の中での状況に応じた行動
	(4)	集団への参加の基礎に関すること ・集団に参加するための手順やきまりの理解
4 環境の把握	(1)	保有する感覚の活用に関すること ・視覚,聴覚,触覚,嗅覚,固有覚,前庭覚などの活用
	(2)	感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること ・自己の感覚の過敏さや認知の偏りの理解,適切な対応
	(3)	感覚の補助及び代行手段の活用に関すること ・各種の補助機器の活用 ・他の感覚や機器での代行
	(4)	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること ・情報を収集,環境の状況を把握,適切な判断や行動
	(5)	認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関すること ・ものの機能や属性,形,色,音が変化する様子,空間・時間等の概念の形成
5 身体の動き	(1)	姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること ・姿勢保持(臥位,座位,立位等),運動と動作(上肢・下肢)
	(2)	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること ・補助器具等の補助的手段の活用
	(3)	日常生活に必要な基本動作に関すること ・基本的動作の習得(食事,排泄,衣服の着脱,洗面,入浴等の身辺処理) (書字,描画等の学習のための動作)
	(4)	身体の移動能力に関すること ・日常的に必要な移動能力の向上(自力での身体移動や歩行,歩行器,車いす等)
	(5)	作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること ・手指の巧緻性や持続性,作業を円滑に遂行する能力の向上
6 コミュニケーション	(1)	コミュニケーションの基礎的能力に関すること ・コミュニケーションの基礎的能力の習得(表情,身振り,機器の活用等)
	(2)	言語の受容と表出に関すること ・相手の意図の受容,自分の考えの伝達
	(3)	言語の形成と表出に関すること ・コミュニケーションを通じた言語の概念の形成
	(4)	コミュニケーション手段の選択と活用に関すること ・コミュニケーション手段の選択と活用(話し言葉,各種の文字・記号,機器等)
	(5)	状況に応じたコミュニケーション手段に関すること ・場や相手の状況に応じたコミュニケーションの展開

[特別支援学校教育要領・学習指導要領(平成30年告示)解説 自立活動編]より作成

Keyword

通級による指導の評価

単位の修得の認定

1 通級による指導の評価

通級による指導の評価は、学習した内容や成長の様子を、個別の指導計画に文章で記述します。

個別の指導計画に設定した指導目標や指導内容について定期的に評価を行います。評価は通級指導担当教員が中心となって行いますが、ホームルーム担任や特別支援教育コーディネーター、教科担任等と共通理解し、今後の指導の改善を図ることが大切です。

個別の指導計画への記入例

年間指導目標	自分に合った学習方法を習得し、漢字表記の文章を正しく読み書きできる。	
	前期	後期
指導目標	タブレット端末を活用して、漢字を正しく読み書きする方法に慣れる。	タブレット端末を活用して、漢字を正しく読み書きする方法を習得する。
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の構成要素に注目し、漢字を正しく読み書きする。 タブレット端末を活用し、漢字表記の文章を正しく読み書きできる方法を習得する。 	
評価	タブレット端末の音声アプリの使い方を示した手順表を見ながら操作し、漢字表記の文章を読み書きすることができた。通級による指導で学習した方法を使って教科の宿題に取り組み、期日を守って提出できたと通級指導担当教員にうれしそうに報告する回数が増えてきた。	タブレット端末の音声アプリの使い方を覚え、手順表がなくても操作し、漢字の読み書きを調べ、漢字を正しく用いて文章を書くことができるようになった。
年間評価	タブレット端末の活用方法を習得し、自分で分からない漢字を調べて課題に取り組む力が身に付いた。	

※指導要録等の記載については、「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」(平成31年3月)で以下のように示されました。

通級による指導を受けている児童生徒について、個別の指導計画を作成しており、通級による指導に関して記載すべき事項が当該指導計画に記載されている場合には、その写しを指導要録の様式に添付することをもって指導要録への記入に替えることも可能とするなど、その記述の簡素化を図ることとしたこと。

2 単位の修得の認定

高等学校学習指導要領では、通級による指導の単位の認定について次のように示されています。

学校においては、生徒が学校の定める個別の指導計画に従って通級による指導を履修し、その成果が個別に設定された指導目標からみて満足できると認められる場合には、当該学校の単位を修得したことを認定しなければならない。 [高等学校学習指導要領(平成30年告示)第1章総則第5款2(1)イ(ア)]より

学校においては、生徒が通級による指導を2以上の年次にわたって履修したときは、各年次ごとに当該学校の単位を修得したことを認定することを原則とする。ただし、年度途中から通級による指導を開始するなど、特定の年度における授業時数が、1単位として計算する標準の単位時間に満たない場合は、次年度以降に通級による指導の時間を設定し、2以上の年次にわたる授業時数を合算して単位の修得の認定を行うことができる。また、単位の修得の認定を学期の区分ごとに行うことができる。

[高等学校学習指導要領(平成30年告示)第1章総則第5款2(1)イ(イ)]より (下線は作成者による)

単位の認定については、個別の指導計画に設定された目標に基づき、1単位として計算する標準の単位時間(35単位時間)の通級による指導を受けた場合に1単位の履修が認定され、その目標が達成されたと校長が判断した場合には、単位の修得が認定されます。

通級による指導はどの年次においても開始できますが、高等学校学習指導要領には、「各年次ごとに当該学校の単位を修得したことを認定することを原則とする」とあります。

通級による指導を開始する時期については、対象となる生徒を判断する過程や、合意形成のための期間を想定しながら検討していく必要があります。

※ 他校通級の単位の認定については、以下のようになっています。

他校通級の場合も、障害に応じた特別の指導に係る特別の教育課程の編成は、生徒の在籍校の校長が行うものであること、在籍校での当該生徒の様子の変容や成長も踏まえて通級による指導の成果を評価する必要があること等に鑑み、生徒が在籍する学校の校長が、障害に応じた特別の指導に係る単位の修得を認定することとされています。これらのことから、他校通級が行われる学校においては、通級による指導の記録を作成するとともに、生徒が在籍する学校に対してその写しを提供することが必要になります。

[「改訂第3版 障害に応じた通級による指導の手引」平成30年 文部科学省]より

2

具体的指導内容をイメージする

1	通級による指導の導入モデル	1
2	自立活動の「個別の指導計画」の作成 (実態把握から指導内容の決定まで)	9
3	授業展開	20
4	教室環境整備	23
5	評価と単位認定	24
6	次年度の通級による指導に向けて	26

1 通級による指導の導入モデル

高等学校で通級による指導を開始するまでの流れについて、中学校で通級による指導を受けてきた生徒を例に見てみましょう。

小・中学校で通級による指導を受けてきた「通級マリさん」が全日制普通科の伊達杜高等学校に入学することになりました。マリさん自身と保護者は高等学校でも通級による指導を受けることを希望しています。

ここでは伊達杜高等学校で通級による指導を開始するまでの流れを、マリさんの入学前と入学後に分けて説明します。



通級 マリさん

※マリさんの例はあくまでも一例ですので、生徒や学校の実態により異なる点があります。

入学前(3月)	合格発表	
	中学校からの引継ぎ (中学校訪問・電話等) ➡ <イメージ2>	1学年担当教員, 1学年主任 特別支援教育コーディネーター <input type="checkbox"/> 中学校での生徒の様子と支援の確認 <input type="checkbox"/> 個別の教育支援計画・個別の指導計画等の引継ぎ
	生徒・保護者からの相談 (入学予定者説明会) ※学校により「合格者説明会」「新入生予備登校」など名称は異なります。 ➡ <イメージ2>	教務主任, 特別支援教育コーディネーター <input type="checkbox"/> アンケート「高校生活を充実させるための調査」※を保護者に配布 ※宮城県総合教育センター 平成28年度長期研修 特別支援教育グループ研究成果物 <input type="checkbox"/> 通級による指導の説明 <input type="checkbox"/> リーフレットの配布 <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との相談会(希望者)
	校内委員会の設置 ※伊達杜高等学校では既存の特別支援教育委員会の下部組織として、通級指導委員会を編成しました。 ➡ <イメージ3~4>	<特別支援教育委員会(既存の校内組織)> 校長, 教頭, 特別支援教育コーディネーター, 教務主任, 生徒指導主事, 通級指導担当教員, 養護教諭, ホームルーム担任, 学年主任等 <input type="checkbox"/> 役割の確認 <input type="checkbox"/> 引継ぎ事項の共有 <通級指導委員会> 教頭, 特別支援教育コーディネーター, 教務主任, 進路指導主事, 通級指導担当教員, ホームルーム担任, 学年主任
	入学式	教務主任, 特別支援教育コーディネーター <input type="checkbox"/> アンケートの回収 <input type="checkbox"/> 生徒・保護者との相談会(希望者)

1 中学校からの引継ぎ

伊達杜高等学校では、3月末の春休み期間に複数の教員で分担し、全ての合格者の出身中学校を訪問して生徒の情報の引継ぎを行いました。マリさんは高校入試の学力検査の際に、ルビ付き問題用紙の配慮申請を行って受験していたので、マリさんの出身中学校には特別支援教育コーディネーターも同行しました。

通級マリさんは入学試験の学力検査で配慮申請のあった生徒です。マリさんの学習や生活の様子、支援内容等について美田杜中学校から情報があるかもしれないので、特別支援教育コーディネーターも訪問に同行してください。



教頭

中学校の3学年主任から「マリさんは読み書き障害の診断を受けていること」「小・中学校において通級による指導を受けてきたこと」「個別の教育支援計画や個別の指導計画を引き継ぐことを保護者から同意を得ていること」等、話がありました。

引継ぎを終え、マリさんの学習面や生活面の様子、中学校が行った支援内容等を管理職に報告するとともに教務主任、1学年担当教員と情報を共有しました。

引継ぎ書類(例)

個別の教育支援計画 個別の指導計画 指導要録(入学以降) 等

引継ぎ事項(例)

学習の様子 生活の様子 中学校での支援内容 必要な合理的配慮 等

※ 個別の教育支援計画や個別の指導計画の引継ぎには保護者の同意が必要です。保護者から高等学校に提出される場合もあります。

2 本人・保護者からの相談(入学予定者説明会)

入学予定者説明会終了後、マリさんと保護者から相談の申し出があり、特別支援教育コーディネーターが話を聞きました。保護者からはマリさんが小学校4年生のときに読み書き障害の診断を受け、小・中学校において通級による指導を受けてきたこと、中学校で受けたような支援を高等学校でも受けさせてほしい等の相談がありました。マリさん本人からも、中学校の定期テストでは、ルビ付きの問題用紙を使っていたので、高校でも同様の配慮をしてほしいことや、通級による指導を受けて自分に合った学び方をもっと身に付けたいという訴えがありました。



通級 マリさん

私は読み書きが苦手です。中学校では通級による指導を受け、自分に合った読み書きの方法を学習してきました。高校は中学校より学習が更に難しくなるので、授業についていけるか心配です。できれば高校でも通級による指導を受けたいのですが…。

マリさんが高校生活を心配していることは分かりました。話してくれてありがとう。今後、マリさんが安心して学校生活を送ることができるよう他の先生方とも相談して考えていきますね。またお話を聞かせてください。マリさんも気になることがあったら、また相談に来てください。



特別支援教育
コーディネーター

3 校内委員会の設置(引継ぎ事項の確認)

マリさんを組織的な支援につなげられるように校内委員会(通級指導委員会)を組織し、それぞれの役割を確認しました。その後、マリさんの出身中学校から引き継いだ個別の教育支援計画や個別の指導計画を基に、マリさんの実態や中学校で受けた支援について情報共有し、伊達杜高等学校でのマリさんの支援について検討しました。

～マリさんの中学校からの引継ぎ資料～

個別の教育支援計画

令和△年6月7日作成

〇〇市立美田中学校

学年・組 (担任名)	1年 1組 (〇〇 〇〇)	2年 1組 (〇〇 〇〇)	3年 2組 (〇〇 〇〇)
本人氏名	通級 マリ	性別	女
保護者氏名	通級 守	住所・TEL	宮城県××市△△△△△△1-4
諸 検 査	検査年月日	検査名	実施機関
	H30.〇.〇	WISC-IV	〇〇〇病院
検査結果	FSIQ××, VCIOO, PRI△△, WMICD, PSIOO		
行動や認知の特性・課題	<ul style="list-style-type: none"> ・耳で聞いて理解する力が弱い。目で見て理解する力の方が優位であるが、標準程度である。 ・小学4年生のときに読み書き障害の診断を受けている。 ・穏やかな性格で特定の友達との関わりが多い。それ以外の友達に自分から進んで声を掛けることは少ない。 		
生活の様子	得意なこと 好きなこと	<ul style="list-style-type: none"> ・計算などのパターン化された学習。 ・美術で作品を作ること。 ・タブレット端末やパソコンを使用して文を書くこと。 	
	不得意なこと 苦手なこと	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や英単語の読み書きが苦手。漢字は小学6年生程度、アルファベット4文字程度の英単語をおおむね理解している。 ・話を聞いて理解することが苦手である。周囲の様子を見てから行動することが多い。 ・板書に時間が掛かってしまう。 	
本人・保護者の願い	本人	<ul style="list-style-type: none"> ・志望校を決め、合格できるように受験勉強を頑張りたい。 ・英語の勉強が分かるようになりたい。 	
	保護者	<ul style="list-style-type: none"> ・受験勉強を頑張ってもらいたい。 ・必要な支援を受けながら、希望する学校を受験できるようにしてほしい。 	
具体的な支援	家庭	学校	医療・その他関係機関
	<ul style="list-style-type: none"> ・一緒に新聞を読む機会を設けて、読めない漢字があったら読み方を教える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通級による指導を週1回行う。 ・指示は可視化する。 ・読めない漢字や英単語があったら読み方を教える。 	
合理的配慮	<ul style="list-style-type: none"> ・定期テストは、ルビ付き用紙を使用できるようにする。 ・教室の座席は前方にし、集中して授業を受けられるようにする。 		



特別支援教育
コーディネーター

マリさんは、読み書き障害の診断を受けており、中学校では週1回程度、通級指導教室で指導を受けていました。先日の入学予定者説明会では、高校での学習面について心配であるという相談がありました。

マリさんは、高校入試の学力検査でルビ付き問題用紙の配慮申請を行って受験しています。定期考査でも同様の支援を受けることを本人は希望しています。マリさんの合理的配慮についても検討する必要があるそうですね。



教務主任

個別の指導計画

令和〇年2月7日作成

学年・組	生徒氏名	作成者	学級担任
3年 1組	通級 マリ	森村 ミユ	清水 よしひこ

本人・保護者の願い	生徒:希望する高校に合格できるように勉強を頑張りたい。 保護者:受験勉強を頑張って欲しい。必要な支援を受けながら、希望する学校を受験できるようにしてほしい。		
年間指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 自分に合った学び方を習得し、小学校6年生程度の漢字を用いて、文を書くことができる。 自分に合った学び方を習得し、4文字程度の英単語を正しく用いて、文を書くことができる。 		
	前期	後期	
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の構成要素を意識しながら、漢字を正しく用いて、短文を作ることができる。 アルファベットの順番を意識しながら4文字程度の英単語を理解することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 文を聞き取り、習得した漢字を正しく用いて書くことができる。 習得した英単語を用いて、「文頭は大文字」「単語の間のスペース」等、正しいルールで英文を書く。 	
通級指導教室での指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を部品ごとに分解して細部まで見たり、部品を組み合わせて書いたりできるようにする。 タブレット端末を活用し、同音異義語に注意しながら、短文を作成できるようにする。 アルファベットカードを使って英単語を正しく並べられるようにする。また、絵カードやタブレット端末を活用し、英単語を意味や発音と結び付けながら理解できるようにする。 覚えた英単語を用いて短文を作ることができるようにする。 週1時間の指導を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 前期の学習を継続し、漢字や英単語の語彙を増やすことができるようにする。 同音異義語に注意しながら聞き取り、タブレット端末を活用し、文を作成できるようにする。 作成した単語カードを使って、正しい語順で英文を書くことができるようにする。 英文を書くときのルールをまとめた学習カードを活用し、ルールを確認しながら正しい英文を書く。 週1時間の指導を行う。 	
通常の学級での指導内容 又は、配慮事項	<ul style="list-style-type: none"> 単元が始まる前に、教科書の読めない漢字や英単語の読み方を教えて本人がルビを振るようになる。 教室の座席は前方にし、集中して授業を受けられるようにする。 板書は重要ポイントのみノートに書き写し、授業内容に集中できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 単元が始まる前に、教科書の読めない漢字や英単語の読み方を教えて本人がルビを振るようになる。 教室の座席は前方にし、集中して授業を受けられるようにする。 板書は重要ポイントのみノートに書き写し、授業内容に集中できるようにする。 	
評価	通級指導教室	<ul style="list-style-type: none"> 漢字を部品として学習することで、部品と既習の漢字を組み合わせ、6年生の漢字を40字程度正しく書くことができた。 英単語の学習では「bとd」「nとh」など形が似ているアルファベットに注意しながら、4文字程度の単語を30個程度覚えることができた。 単語カードを正しく並べて英文を作ることができた。 	
	通常の学級	<ul style="list-style-type: none"> 同音異義語の漢字や熟語の意味を考えながら、正しい漢字を用いて文を書くことができた。 英単語の意味を考えながら単語カードを正しい語順に並べ、英文を作ることができた。 英文を書き終わった後に確認する習慣が身に付き、学習カードがなくても「文頭は大文字」「単語の間のスペース」等、基本的なルールを守り、正しく英文を書くことが増えた。 	
次年度に向けて	本人が高等学校でも必要な支援や指導を継続して受けられるよう、引継ぎを確実にを行う。		

マリさんは漢字や英単語を書くことが苦手なようですが、タブレットやパソコンを活用することで、学習を効果的に行ってきたようです。高校でもICTを活用することで、マリさんの学習や生活を支えることができるかもしれません。



通級指導担当教員

マリさんの入学後の様子をホームルーム担任だけでなく、教科担任や部活動の顧問など、情報を共有して、必要な支援を検討していきましょう。



教頭

マリさんの例のように入学前に支援を必要とする生徒について把握することで、個に応じた有効な支援を継続して行うことができます。中学校は本人と保護者の同意が得られれば、生徒の情報を入学前に高等学校に提供することができます。中学校訪問や入学予定者説明会等で、支援を必要とする生徒に関する情報が得られた場合には、学年で情報の共有を図るとともに、特別支援教育コーディネーター等に情報を集約することで、組織的かつスムーズな支援につなげることができます。

なお、生徒が入学した後に支援を必要とすることが分かる場合もあります。

具体的指導内容をイメージする

<p>生徒の情報共有</p>	<p><職員会議> 全教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 中学校訪問や入学予定者説明会で得た情報を全教職員で共有 <input type="checkbox"/> 通級による指導について周知(校内研修※) <p>※「第6章すぐに活用できる資料」の校内研修用スライドを使用して実施</p>
<p>生徒の実態把握</p> <p>➡ <イメージ6～7></p>	<p>ホームルーム担任, 特別支援教育コーディネーター, 通級指導担当教員, 教科担任等</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 教科担任等にチェックリスト・記入用紙の配布 <input type="checkbox"/> 集まった情報の集約
<p>保護者との面談</p> <p>※4月のPTA総会等, 保護者が来校する機会を使って実施</p>	<p>ホームルーム担任, 特別支援教育コーディネーター, 通級指導担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 入学前に行ったアンケートの結果を基に, 保護者の心配していること等の聞き取り <input type="checkbox"/> 通級による指導の説明(保護者リーフレット) <input type="checkbox"/> 「通級による指導」実施の同意書を配布
<p>生徒用アンケートの実施</p> <p>※学校生活に慣れた頃に新入生全員を対象に実施</p>	<p>ホームルーム担任, 特別支援教育コーディネーター, 通級指導担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> アンケート「MYアシストシート」※を実施し, 学校生活を送る上で不安に感じていることを把握 <p>※宮城県総合教育センター 平成28年度長期研修 特別支援教育グループ研究成果物</p>
<p>生徒との個別面談</p> <p>※学校生活に慣れた頃に新入生全員を対象に実施</p>	<p>ホームルーム担任, 特別支援教育コーディネーター, 通級指導担当教員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> アンケートや実態把握した結果を基に, 話の聞き取り(担任) <input type="checkbox"/> 通級による指導について説明及び相談(特別支援教育コーディネーター, 通級指導担当教員)
<p>通級による指導の実施について検討・決定</p>	<p><特別支援教育委員会> 校長, 教頭, 特別支援教育コーディネーター, 教務主任, 生徒指導主事, 通級指導担当教員, 養護教諭, ホームルーム担任, 学年主任等</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 情報収集したものを基に通級による指導の必要性について検討
<p>特別の教育課程の編成</p> <p>➡ <イメージ7～8></p>	<p><通級指導委員会> 教頭, 特別支援教育コーディネーター, 教務主任, 進路指導主事, 通級指導担当教員, ホームルーム担任, 学年主任</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 特別の教育課程の原案を作成
<p>通級による指導の対象生徒の決定</p> <p>➡ <イメージ8></p>	<p><職員会議> 全教職員</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 通級による指導の実施について協議・決定(校長)

4 生徒の実態把握

新入生が学校生活に慣れた5～6月頃、マリさんの学校生活の様子を把握することにしました。特別支援教育コーディネーターがホームルーム担任や各教科担任、部活動顧問等、マリさんに関わる教職員に『特別な教育的支援を必要とする児童生徒のチェックリスト』を配布し、マリさんの学習面、行動面についてチェックをしてもらいました。その他気になることがある場合は、具体的に記述してもらい、回収した情報を『情報収集シート』にまとめました。

◇チェックリスト A 学習面(「聞く」「話す」「読む」「書く」「計算する」「推論する」)

	観 点	レベル			
		ない 0点	まれにある 1点	時々ある 2点	よくある 3点
聞 く	1 聞き間違いがある(「知った」「行った」と聞き間違える)			2	
	2 聞き間違いがある				3
	3 個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい				3
	4 指示の理解が難しい				3
話 す	5 話し合いが難しい(話し合いの流れが理解できず、ついていけない)			2	
	6 適切な速さで話すことが難しい(たどたどしく話す、とても早口である)	0			
	7 ことばにつまったりする	0			
	8 単語を羅列したり、短い文で内容的に乏しい話をする	0			
	9 思いつくままに話すなど、筋道の通った話をするのが難しい	0			
読 む	10 内容をわかりやすく伝えることが難しい	0			
	11 初めて出てきた語や音読あまり読まない語などを読み間違える				3
	12 文中の語句や行を抜かしたり、または繰り返しまだ足りない			2	
	13 音読が遅い				3
書 く	14 勝手読みがある(「いきました」「いきました」と読む)			2	
	15 文章の要点を正しく読みとめることが難しい			2	
	16 読みとく字を書く(字の形や大きさが整っていない、まっすぐに書けない)			2	
	17 独特の筆順で書く		1		
	18 漢字の細かい部分を書き間違える				3
計 算	19 句読点が抜けたり、正しく打つことができない	0			
	20 限られた量の作文や、決まったパターンの文章が書けない	0			
	21 学年相応の数の意味や表し方についての理解が難しい(三千四百七十七を300047や347と書く、分母の大きい方が分数の値として大きいと知っている)	0			
	22 簡単な計算が暗算でできない	0			
	23 計算をするのにとても時間がかかる	0			
推 論	24 答えを得るのにいくつかの手続きを要する問題を解くのが難しい(四角形の計算、2つの立式を必要とする計算)	0			
	25 学年相応の文章題を解くのが難しい				3
	26 学年相応の量と比較することや、量を表す単位を理解することが難しい(長さやかさの比較、「15cmは150mm」ということ)	0			
	27 学年相応の図形を描くことが難しい(丸や角なしの図形の描写、見取り図や展開図)	0			
	28 事物の因果関係を理解することが難しい	0			
計 算	29 目的に沿って行動を計画し、必要に応じてそれを修正することが難しい	0			
	30 早合点や、飛躍した考えをする		1		
	段階別の点数(評価点×該当数)	0点①	2点②	12点③	21点④
	総合計(①+②+③+④)				35点

◎6つの領域の内、少なくとも一つつの領域で合計12点以上をカウントした場合、学習面に問題があると思われる。

◇チェックリスト C 行動面(「対人関係やこだわり等」)

	観 点	レベル		
		いい 0点	多少 1点	はい 2点
1 大人びている、ませている		0		
2 みんなから、「〇〇博士」「〇〇教授」と思われている(例:カレンダー博士)		0		
3 他の子どもが興味を持たないようなことに興味があり、「自分だけの知識世界」を持っている		0		
4 特定の分野の知識を蓄えているが、丸暗記であり、意味をきちんと理解していない		0		
5 含みのある言葉や構みを言われても分からず、言葉通りに受けとめてしまうことがある		0		
6 会話の仕方が形式的であり、抑揚なく話したり、問合いが取れないことがある		0		
7 言葉を組み合わせ、自分だけにしか分からないような造語を作る		0		
8 独特な声で話すことがある		0		
9 誰かに何かを伝える目的がなくても、場面に関係なく声を出す(例:席を譲らず、黙込み、機を譲らず、叫ぶ)		0		
10 とても得意なことがある一方で、極端に不得手なものがある		0		
11 色々なことを話すが、その時の場面や相手の感情や立場を理解しない		0		
12 共感性が乏しい		0		
13 周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言ってしまう		0		
14 独特な目つきをすることがある		0		
15 友達と仲良くしたいという気持ちはあるけれど、友達関係をうまく築けない		0		
16 友達のそばにはいるが、一人で遊んでいる		0		
17 仲の良い友人がいない		0		
18 常識が乏しい		0		
19 球技やゲームをする時、仲間と協力することに考えが及ばない		0		
20 動作やジェスチャーが不器用で、ぎこちないことがある		0		
21 意図的でなく、顔や体を動かすことがある		0		
22 ある行動や考えに強くこだわることによって、簡単な日常の活動ができなくなることもある		0		
23 自分なりの独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる		0		
24 特定な物に執着がある		0		
25 他の子どもたちから、いじめられることがある		0		
26 独特な表情をしていることがある		0		
27 独特な姿勢をしていることがある		0		
段階別の点数(評価点×該当数)		0点①	点②	点③
総合計(①+②+③)				0点

◎ 合計22点以上をカウントした場合、対人関係やこだわり等の問題があると思われる。

◇チェックリスト B 行動面(「不注意」「多動性-衝動性」)

	観 点	レベル				領域ごとの合計
		ない 0点	時々ある 0点	しばしばある 1点	いつもある 1点	
不 注 意	1 学校での勉強で、細かいところまで注意を払わなかったり、不注意な間違いをしつたりする				1	1点
	2 課題や遊びの活動で注意を集中し続けることが難しい					
	3 前と向かって話しかけられているのに、聞いていないようにみえる					
	4 指示に従えず、また仕事を最後までやり遂げない					
	5 学習課題や活動を順序立てて行うことが難しい					
	6 集中して努力を続けなければならない課題(学校の勉強や宿題など)を避ける					
	7 学習課題や活動に必要な物をなくしてしまう					
	8 気が散りやすい					
	9 日々の活動で忘れっぽい		1			
多 動 性	10 手足をそわそわ動かしたり、着席していても、もじもじしたりする					1点
	11 授業中や座っているべき時に席を離れてしまう					
	12 きちんとしていなければならない時に、過度に走り回ったりよじ登ったりする					
	13 遊びや余暇活動に大人しく参加することが難しい					
	14 じっとしていない、または何かに振り立てられるように活動する					
	15 過度にしゃべる					
	16 質問が終わらない内に出し抜けて答えてしまう					
	17 順番を待つのが難しい					
	18 他の人がしていることをささげたり、じゃましたりする					
段階別の点数(評価点×該当数)		点①	1点②	点③	1点④	
総合計(①+②+③+④)					2点	

※①②を0点に、③④を1点にして計算する。

※少なくとも一つつの領域で合計6点以上をカウントした場合「不注意」「多動性-衝動性」に問題があると思われる。

※「ときどきある」「しばしばある」等の観点は、程度差を示す。

『特別な教育的支援を必要とする児童生徒のチェックリスト』は宮城県教育委員会 特別支援教育課ホームページや宮城県総合教育センターのホームページ(令和元年度長期研修 特別支援教育グループ研究成果物)からダウンロードができます。

複数の教員で生徒の実態を捉えることが大切です。



特別支援教育
コーディネーター

通級による指導 情報収集の実施について

○月 △日 担当(林)

(1年 C 組 通級マリ)さんについて、通級による指導を行うために、学校生活の様子について情報を収集しています。チェックリストの記入をお願いします。また、具体的な様子やその他、気になる事項がありましたら下に記入してください。よろしくをお願いします。

担当教科・科目() 記入者()

できていること 得意なこと	
できていないこと 苦手なこと	
その他	

通級による指導 情報収集シート ㊟

令和〇年5月20日

年	組	氏 名	ホームルーム担任	通級指導担当	特別支援教育 コーディネーター
1	C	通級 マリ	林	松本	山田

教科等	担当者	できていること、得意なこと	できていないこと、苦手なこと
国語総合	佐藤	・分からない漢字にルビを振ったり、長い文章には/を引いて区切ったりと、自分で読みやすいよう工夫している。	・形の似た漢字の読み間違いがみられる。 ・文章表現に平仮名が多く、形の似た漢字に書き間違いがある。
世界史 A	鈴木		・板書を写すことに時間が掛かる。 ・授業では図や表から分かったことを発表できるが、小テストでは書くことができない。
数学 I	高橋	・個別に目の前で解き方を示すと、因数分解することができた。	・因数分解では「b」と「d」を見間違えたミスをしてしまうことがある。 ・文章問題が苦手である。
化学基礎	田中		・元素記号に間違いが多い。
生物基礎	伊藤	・教科書の写真を見ながら、細胞の構造を丁寧にスケッチすることができる。	・板書を写すことに時間が掛かる。漢字を間違えて書いていることがある。
体育(保健)	渡辺	・順番を待っている間、友達の動きを集中して見ていた。自分の番が来ると上手にハードルを跳ぶことができていた。	・ノートを確認すると、途中までしか書かれていない。(保健)
美術 I	山本	・静物画では、時間が掛かるが丁寧に作品を仕上げていた。	
コミュニケーション 英語 I	中村		・英単語を発音のとおりローマ字読みで書いてしまうことがある。 ・英文の読解が苦手である。
家庭総合	小林	・完成図や説明書の図を見て、エプロンを完成することができた。	
社会と情報 総合的な探究 の時間	加藤 林	・パソコン、タブレットの操作に慣れている。	・教師の指示の後、周囲の様子を見てから活動に取り組み始める。
学級での様子	林	・遅刻や欠席をすることはない。 ・身だしなみが整っている。	・教科担当から課題の提出が遅くなることが多いと指摘がある。
保健室	佐々木	・時々、昼休みに頭が痛いとき来室する。熱はなく、睡眠時間や食事について訪ねると丁寧な言葉遣いで答える。少し話をすると、授業が始まる前に自分から教室に戻る。	
部活動 (美術部)	山口	・休まず部活動に参加し、時間いっぱい集中して絵を描いている。 ・同じ部活の友達数名と趣味の話を楽しむ様子が見られる。	

5 特別の教育課程の編成

通級による指導を開始する前に、通級マリさんの特別の教育課程を編成する必要があります。通常の教育課程に、障害に応じた特別の指導をどのように位置付けるかを通級指導委員会で検討し、原案を作成しました。

① 伊達杜高等学校の1年生の教育課程(必修科目はオレンジで表示)

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
1 年 次	国語総合		現代社会			数学Ⅰ			化学基礎		生物基礎		体育		保健		音楽Ⅰ	美術Ⅰ	コミュニケーション 英語Ⅰ		家庭基礎		社会と 情報		探究的 時間	総合的 な LHR			

② マリさんの特別の教育課程

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
1 年 次	国語総合		現代社会			数学Ⅰ			化学基礎		生物基礎		体育		保健		音楽Ⅰ	美術Ⅰ	コミュニケーション 英語Ⅰ		家庭基礎		社会と 情報		探究的 時間	総合的 な LHR	特別の 指導 35単位 時間	LHR		



教務主任

本校の1年生の教育課程は①のように必修教科・科目で編成されているので、通級による指導を通常の教育課程に「替えて」行うことはできません。夏休み明けから放課後に週2回実施する場合、マリさんの特別の教育課程は②のようになります。今年度中に35単位時間を実施し、目標に達すれば1単位修得することができます。

中学生のとき、マリさんの通級による指導は週1回でしたので、本人の負担になりそうです。夏休み前に週1回、放課後に試しに行うことが必要かと思われます。



通級指導担当教員



特別支援教育
コーディネーター

その場合、通級による指導を放課後に行うことになるので、部活動などに支障が出るかもしれませんが…。

マリさんは美術部に所属しています。美術部は週2回活動をしているので、部活動のない日でしたら通級による指導を行うことができますと思います。マリさんや保護者と相談してみます。



ホームルーム
担任



教 頭

それでは、マリさんと保護者の同意が得られた場合、②の特別の教育課程で進めていきましょう。今後、手続きを踏んで校長先生にマリさんの特別の教育課程を決定していただきましょう。

通級による指導を通常の教育課程に「加える」場合、他の生徒が部活動等を行っている放課後に別室で学習することに抵抗感のある生徒がいると思われます。また、選択教科・科目に「替える」場合は学級全員が受ける授業に一人だけ別の授業を受けることに抵抗感のある生徒もいると思われます。「加える」場合、「替える」場合、それぞれにおいて生徒の自尊感情に配慮して通級による指導を行う必要があります。

6 通級による指導開始の決定

マリさんの通級による指導について、職員会議で協議しました。教職員からマリさんの通級による指導の必要性について理解が得られ、校長は通級による指導を実施することを認めました。



校 長

マリさんにとって読み書きの困難さに応じた指導が必要であることを全教職員で共有できました。1年C組の通級マリさんの特別の教育課程及び通級による指導の実施を認めます。通級指導担当教員だけでなく、校内支援体制を整備し、学校全体で取り組んでいきましょう。

2 具体的指導内容をイメージする

2 自立活動の「個別の指導計画」の作成

教職員から収集した情報や中学校から引き継いだ個別の教育支援計画や個別の指導計画を基に話し合いを行い、マリさんの自立活動の「個別の指導計画」を作成します。伊達杜高等学校では、個別の指導計画の様式を以下のように作成しました。

具体的指導内容をイメージする

伊達杜高等学校 自立活動の「個別の指導計画」

学年・番号	生徒氏名	ホームルーム担任	作成者
1年 C組 27番	通級 マリ	林	松本, 吉田
作成日	前期評価日	後期・学年末評価日	
令和 年 月 日	令和 年 月 日	令和 年 月 日	

生徒の願い	在学中	学校生活や卒業後の希望等、生徒と保護者それぞれの願いを記載します。個別面談等を通して生徒や保護者の願いを把握し、それも踏まえて指導内容を設定します。
	卒業後	
保護者の願い	在学中	
	卒業後	
伸ばしたいこと 改善したいこと		生徒の実態について記載します。学習上や生活上の困難だけでなく、生徒の強みや長所等についても記載します。

年間指導目標	1年間で目指す姿を年間指導目標として設定します。
--------	--------------------------

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
指導項目	年間指導目標を達成するために自立活動の内容6区分27項目から必要な項目を選定します。					

通級指導教室での指導内容	選定した指導項目同士を関連付けて具体的な指導内容を設定します。生徒が主体的に学習課題に取り組み、成就感を味わうことができます。
学級における配慮事項	通級による指導と関連付けながら学級における配慮事項について記載します。

		前期	後期
評価	指導目標	<p>年間指導目標を基に学期ごとに目指す姿を短期の指導目標として設定します。長期的な観点に立った指導目標とともに、短期的な観点に立った指導目標を定めることが自立活動の指導の効果を高めることにつながります。</p>	
	通級指導教室	<p>学期の終了後、指導目標に対する評価を生徒の様子の変容や成長を踏まえて記載します。指導目標や指導内容が適切であったかを振り返り、後期の指導目標と指導内容を設定します。</p>	
	通常の学級	<p>通級指導教室以外の場における評価を記載します。</p>	
年間評価		<p>年間指導目標に対する評価を記載します。</p>	
出席状況	出席 時間 / 授業時数 時間	出席 時間 / 授業時数 時間	出席 時間 / 授業時数 時間
	出席 時間 / 授業時数 時間		
次年度に向けて	<p>次年度への引継ぎ事項を記載します。</p>		

(1)実態把握の段階(流れ図①～流れ図②-3)

流れ図① 実態把握のために必要な情報を収集する段階

マリさんの実態を把握するために必要な情報を収集します。これまで5月に行った「特別な教育的支援を必要とする児童生徒のチェックリスト」や「情報収集シート」〈イメージ6～7〉,マリさんの出身中学校から引き継いだ「個別の教育支援計画」や「個別の指導計画」〈イメージ3～4〉を参考にします。これらの書類から、障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよき、課題等についての情報を収集します。

流れ図②-1 収集した情報を自立活動の区分に即して整理する段階

「特別な教育的支援を必要とする児童生徒のチェックリスト」や「情報収集シート」を使って教職員から集めた生徒の情報を整理します。生徒のできることとできないことを自立活動の6区分27項目〈理解12～13〉に即して整理しました。6区分で示しているのは障害名のみで判断して特定の指導内容に偏ることがないように、生徒の全体像を捉えて整理するためです。どの区分にも属さない情報は、その他の欄に記入します。



特別支援教育
コーディネーター

情報収集シートにまとめた情報を、自立活動の6区分に即して分けてみましょう。国語総合では分からない漢字にルビを振ったり、長い文章にスラッシュ(/)を引いて区切ったりして読んでいます。漢字や文章を正しく読むことができるように工夫しているので、「4 環境の把握」の(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関することに関連していると思われます。

「4 環境の把握」にも関連していると思いますが、マリさん自身が読み書きの困難さについて理解し、学びやすいよう工夫しているので「1 健康の保持」の(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関することに関連していると思いました。



通級指導担当教員



ホームルーム
担任

情報が一つの区分だけに該当するとは限らないのですね。養護教諭から「時々、休み時間に頭が痛い」と保健室に来室している。」との情報があるのですが、体調面なので「1 健康の保持」に関係がありそうですが、「熱もなく、少し話をすると教室に戻っていく」ので、「2 心理的な安定」により関連していると思います。

私も同じように思いました。「特別な教育的支援を必要とする児童生徒のチェックリスト」を見てみますと、「チェックリストA学習面」の「個別に言われると聞き取れるが、集団場面では難しい」と「漢字の細かい部分を書き間違える」をチェックした先生が多いようです。「チェックリストC行動面」は全ての項目にチェックがありませんでした。対人関係やこだわり等の困難は見られないようです。



特別支援教育
コーディネーター

6区分	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
区分の説明	生命を維持し、日常生活を行うために必要な健康状態の維持・改善を身体的な側面を中心として図る観点	自分の気持ちや情緒をコントロールして変化する状況に適切に対応するとともに、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服する意欲の向上を図り、自己のよさに気付く観点	自他の理解を深め、対人関係を円滑にし、集団参加の基盤を培う観点	感覚を有効に活用し、空間や時間などの概念を手掛かりとして、周囲の状況を把握したり、環境と自己との関係を理解したりして、的確に判断し、行動できるようにする観点	日常生活や作業に必要な基本動作を習得し、生活の中で適切な身体の動きができるようにする観点	場や相手に応じて、コミュニケーションを円滑に行うことができるようにする観点
できること	<ul style="list-style-type: none"> 教科書にルビを振ったり、長い文章にスラッシュ(/)を引いて区切ったりと、読みやすいよう工夫している。 生活リズムが整っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業が始まる前に教室に戻る。 		<ul style="list-style-type: none"> 写真や実物を見ながら丁寧にスケッチすることができる。 完成図や説明書を確認しながら、エプロンを完成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> パソコンやタブレット端末の操作に慣れている。 友達の動きを模倣し、三段跳びをすることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 同じ部活の友達数名と趣味の話を楽しむことができる。 教師の質問に丁寧な言葉遣いで答える。
できないこと	<ul style="list-style-type: none"> 教科担任から課題の提出が遅くなるという指摘がある。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章を書く時、分かっている漢字も平仮名で書いてしまう。 教師の指示の後、周囲の様子を見てから活動に取り組み始める。 時々、頭が痛いと言って休み時間に保健室に来室する。 		<ul style="list-style-type: none"> 個別の指示は聞き取れるが、一斉の指示を理解することは難しい。 形の似た漢字の読み書きを間違える。 英単語をローマ字読みで書いてしまう。 文章問題が苦手である。 板書の書き写しに時間が掛かる。 		
その他	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻や欠席はない。 部活動(美術部)に休まず参加し、集中して絵を描いている。 					

※「特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 自立活動編」第6章に示された6区分27項目の解説について詳しく知りたい場合は、令和元年度専門研究特別支援教育研究グループの研究成果物「通級指導教室サポートパック」をご覧ください。



流れ図②-2 収集した情報を学習上又は生活上の困難やこれまでの学習状況の視点から整理する段階

学習上又は生活上の困難の視点、これまでの学習状況の視点といった、②-1とは別の視点で情報を整理します。中学校からの引継ぎ事項や生徒や保護者の願いも記入しながら情報を整理していきます。学習上又は生活上の困難だけではなく、既にできていることや支援があればできること等からも考えてみましょう。



ホームルーム
担任

マリさんの保護者とは4月末のPTA総会の後に高校生活や卒業後について話をすることができました。5月下旬にマリさんと個別に話をすると、「高校生活に少しずつ慣れてきたが、授業の進み方が中学校より早く、内容も難しいと感じている。頑張って勉強についていきたい」と言っていました。

マリさんは集団場面で指示を聞いて理解することは難しいようですが、完成図などを見て作品を完成させることは比較的得意なようです。



特別支援教育
コーディネーター

中学校からの 引き継ぎ事項	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校4年生のときに読み書き障害の診断を受けている。 ・耳で聞いて理解する力が弱い。目で見て理解する力の方が優位であるが、標準程度である。 ・漢字の読み書きは小学校6年生程度、アルファベット4文字程度の英単語を理解している。 ・単元の学習が始まる前に教師の支援を受け、読めない漢字や英単語にルビを振る。 ・定期テストはルビ付きの用紙を使用していた。 ・教室の座席は前方にし、集中して授業を受けられるようにしていた。 ・特定の友達との関わりが多い。それ以外の友達に自分から進んで声を掛けることは少ない。
在学中の 生徒の願い 保護者の願い	<p>本人：高校生活に慣れ、勉強したり友達をつくったりしながら成長したい。</p> <p>保護者：新しい環境に慣れ、楽しく学校生活を過ごしてほしい。</p>
収集した情報 の整理	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校で指導を受けた学習方法を生かし、教科書の分からない漢字にルビを振る等、自分で読みやすいように工夫することができる。 ・形の似た漢字やアルファベットに間違いが多い。 ・分かっている漢字も平仮名で文章を書いてしまう。 ・英単語を発音のとおりローマ字で書いてしまうことがある。 ・個別の指示は聞き取れるが、一斉の指示を理解することは難しい。 ・教師の指示の後、周囲の様子を見てから活動に取り組む。 ・実物や教科書の写真を見ながら丁寧にスケッチすることができる。 ・完成図や説明書の図を確認してエプロンを完成することができる。 ・板書の書き写しに時間が掛かる。 ・課題の提出が遅れることが多い。 ・頭痛を訴えて保健室に来室し、養護教諭と話をすることが時々ある。 ・教師の質問に丁寧な言葉遣いで答えることができる。 ・同じ部活の友達と趣味の話を楽しむことができる。

流れ図②-3 収集した情報を〇年後の姿の観点から整理する段階

生徒の生活年齢や学校で学ぶことのできる残りの年数を視野に入れて整理します。その際にマリさん本人や保護者の将来の希望を踏まえ、マリさんの卒業後の姿をイメージし、卒業までにどのような力を、どこまで育てるとよいかを検討します。

卒業後の 生徒の希望 保護者の希望	<p>生徒：デザイン関係の仕事とパティシエに興味があるが、まだ悩んでいる。</p> <p>保護者：本人に合った職業や進学先を決定してほしい。</p>
〇年先の姿の 観点から整理	<ul style="list-style-type: none"> ・本人に合った学び方で漢字や英単語を少しずつ覚えていくことで、学習全般における理解へとつなげていけると考える。 ・タブレット端末を活用しながら学習することで書くことへの抵抗感を減らすとともに、社会に出ても活用できる力を身に付けさせる。

(2) 指導すべき課題の整理(流れ図③～流れ図⑤)

流れ図③ 指導すべき課題の抽出と背景要因の検討

①から②-3で整理した情報の中から課題となることを抽出します。その際、マリさんの抱える課題には様々な要因が隠れていると考え、そこに目を向けてみましょう。



特別支援教育
コーディネーター

マリさんは形の似た漢字に書き間違いが多いですが、絵や実物を正しくスケッチすることができるので、書くことの不器用さはないように思われます。もしかしたら漢字の細部まで注意して見ていないのかもしれないですね。

私もそう思います。他にも、漢字や英単語の読み方や書き方をなかなか覚えられないといった記憶の弱さもあるのではないかと思います。



通級指導担当教員

指導すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個別に目の前で解き方を示すと、因数分解することができた。 ・教師の指示の後、周囲の様子を見てから活動に取り組み始める。 ・完成図や説明書の図を確認しながら、エプロンを完成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・形の似た漢字に書き間違いが多い。 ・英単語を発音のとおりローマ字読みで書いてしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・文章表記に平仮名が多い。 ・英文の内容の理解が難しい。 ・文章問題が苦手である。
背景要因	<ul style="list-style-type: none"> ・聞いた言葉をなかなか覚えられず、一斉指導での説明では理解できないのではないかな。 ・説明を聞くより、完成図や手本を見ると理解することができるのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字や英単語を全体像として捉えているが細部まで注意が届いていないのではないかな。 ・文字の形を覚えることが苦手なのではないかな。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の間違いを恐れているのではないかな。 ・覚えている漢字や英単語が少ないため、漢字を用いて文章を書いたり、内容を正しく読み取ったりすることができていないのではないかな。

流れ図④ 生徒の強みや長所の抽出

生徒の強みや長所について抽出します。背景要因や強みにも目を向けることが、生徒の困難を改善していくための指導内容を考えるヒントになります。

生徒の強みや長所	<ul style="list-style-type: none"> ・習得した学び方を生かして学習に取り組むことができる。 ・友達の動きを模倣したり、完成図等を見て製作したりすることができる。 ・パソコンやタブレット端末の基本的な操作に慣れている。
----------	--

流れ図⑤ 中心的な課題の設定

③で抽出した指導すべき課題同士がどのように関連しているのかを整理し、中心的な課題を導き出します。中心的な課題とは、その生徒の課題の根本となるものです。

中心的な課題	<ul style="list-style-type: none"> ・全体の中から注目すべき場所を選択して見るができるようになる。(心・環) ・学習に使用する漢字や英単語を理解し、語彙を増やす。(健・心・環) ・自分に合った学び方を習得し、漢字や英単語を正しく使って文章を読み書きすることができる。(健・心・環)
--------	--

(3) 年間指導目標の設定から具体的指導内容の設定(流れ図⑥～流れ図⑨)

流れ図⑥ 年間指導目標の設定

⑤で設定した中心的な課題に基づいて指導目標を設定します。年間指導目標は、自立活動の「個別の指導計画」に記載されるとともに、学期ごとの指導目標を決める際のもとなるものです。年間指導目標のような長期的な目標や、学期ごとの短期的な目標を定めることが、自立活動の指導の効果を高めることにつながります。

年間指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分に合った学び方を習得し、中学校1年生程度の漢字、綴りの似た英単語を正しく読み書きすることができる。(健・心・環) ・自分に合った学び方を習得し、漢字表記の文章を正しく読み書きすることができる。(健・心・環)
--------	---

流れ図⑦ 年間指導目標の達成のために必要な項目の設定

年間指導目標を達成するために必要な項目を自立活動の内容6区分27項目の中から選定します。選定する際は、指導すべき課題全てについてではなく、年間指導目標に関わるものだけを選びます。

流れ図⑧ 具体的指導内容の設定

⑦で選定した項目同士を関連付けて具体的な指導内容を設定します。設定に当たっては、主体的に取り組む指導内容、改善・克服の意欲を喚起する指導内容、発達の進んでいる側面を更に伸ばすような指導内容、自ら環境を整える指導内容、自己選択・自己決定を促す指導内容、自立活動を学ぶことの意義について考えさせるような指導内容などを踏まえて検討します。また、④で抽出した生徒の強みや長所を生かすような指導内容にすると、生徒の主体性や自己肯定感の高まりが期待できます。最後に、⑧の指導内容と⑦で選択した項目を線でつなげます。



特別支援教育
コーディネーター

マリさんが読み書きの困難を乗り越える方法を身に付けることを目指して、「環境の把握(3)」と「心理的な安定(3)」、「健康の保持(4)」を関連付け、タブレット端末を活用して分からない漢字を読んだり書いたりする方法を学習すると良いと思われます。

マリさんは中学校ではタブレット端末を使って学習しているので、良い方法だと思います。専門学校への進学を希望しており、卒業後にも読み書きする機会が多いと予想されますので、タブレット端末の様々な活用方法を身に付けさせたいですね。また、漢字や英単語の学び方を指導するので、通級による指導が効果的に行えるよう教科担当教員と連携しながら行っていきたいです。



通級指導担当教員

6区分	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	情緒の安定に関する事	他者とのかかわりの基礎に関する事	保有する感覚の活用に関する事	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関する事	状況の理解と変化への対応に関する事	他者の意図や感情の理解に関する事	感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	言語の受容と表出に関する事
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関する事	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	自己の理解と行動の調整に関する事	感覚の保持及び代行手段の活用に関する事	日常生活に必要な基本動作に関する事	言語の形成と活用に関する事
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		集団への参加の基礎に関する事	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	身体の移動能力に関する事	コミュニケーションの手段の選択と活用に関する事
(5)	健康状態の維持・改善に関する事			認知の行動の手がかりとなる概念の形成に関する事	作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	状況に応じたコミュニケーションに関する事

<p>指導内容 (週2回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の全体の特徴を捉えた後、構成要素に分解したり再構成したりして漢字を正しく読み書きすることができるようにする。 → 指導例<イメージ20> 学級の授業で書いたノートを生徒と一緒に見直し、漢字が正しく使われるかを確認できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 注意すべき点を具体的に視覚化することで、綴りの構成要素に注目し、英単語を正しく書くことができるようにする。 → 指導例<イメージ21> 	<ul style="list-style-type: none"> タブレット端末を活用し、分からない漢字を読んだり書いたりする方法を習得できるようにする。 → 指導例<イメージ22>
-----------------------	--	---	--

流れ図⑨ 学級における配慮事項の検討

最後に⑨では、通常の学級における配慮事項について検討します。



ホームルーム担任

マリさんは書くことに困難があるので、板書を書き写すことに時間が掛かってしまいます。書き写すことだけで精一杯となってしまえば学習内容を理解できなくなってしまいます。教科学習での板書を書き写す量を減らしてはどうでしょうか。

マリさんにとって必要な配慮であると思います。その配慮を行うためには、「チョークで囲んだ大事なポイントだけ書き写す」等、マリさんや教科担任とルールを決めることが必要になりますね。課題の提出に関しても配慮が必要かと思われます。



通級指導担当教員

<p>学級における 配慮事項</p>	<ul style="list-style-type: none"> 定期考査ではルビ付きの用紙を使用する。 教科書の読めない漢字や英単語は教師が読み方を教えて、本人がルビを振るようにする。 「チョークで囲んだ所は大事なポイントなので、そこだけ書き写す」というルールを決め、書き写す文字の量を減らしたり、板書の写真をプリントして渡し、ノートに貼ったりできるようにする。 家庭で取り組む課題は、タブレット端末やパソコンを使って書き、印刷したものをノートに貼って提出することも認める。(どちらの方法で行うかは本人に選択させる。)
------------------------	--

話し合ったことを自立活動の「個別の指導計画」にまとめました。この作成した個別の指導計画を基に通級による指導を行っていきます。

自立活動の「個別の指導計画」

伊達杜高等学校

学年・番号	生徒氏名	ホームルーム担任	作成者
1年 C組 27番	通級 マリ	林	松本, 吉田
作成日	前期評価日	後期・学年末評価日	
令和〇年6月15日	令和〇年9月15日	令和△年2月15日	

生徒の願い	在学中	高校生活に慣れ、勉強したり、友達をつくったりしながら成長したい。
	卒業後	デザイン関係の仕事とパティシエに興味があるが、まだ悩んでいる。
保護者の願い	在学中	新しい環境に慣れ、楽しく学校生活を過ごしてほしい。
	卒業後	本人に合った職業や進学先を決定してほしい。
伸ばしたいこと 改善したいこと	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書にある分からない漢字にルビを振る、長い文章にスラッシュ(/)を引く等、習得した学び方を生かして文章を読むことができる。(健・環) ・友達の動きを模倣したり、完成図等を見て製作したりすることができる。(心・環) ・パソコンやタブレット端末の基本的な操作に慣れている。(心・環) ・全体の中から注目すべき場所を選択して見ることができるようになる。(心・環) ・学習に使用する漢字や英単語を理解し、語彙を増やす。(健・心・環) ・自分に合った学び方を習得し、漢字や英単語を正しく使って文章を書くことができる。(健・心・環) 	

年間指導目標	<p>(1)自分に合った学び方を習得し、中学校 1 年生程度の漢字、綴りの似た英単語を正しく読み書きすることができる。</p> <p>(2)タブレット端末の使い方を習得し、漢字表記の文章を正しく読み書きすることができる。</p>
--------	--

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
指導項目	1—(4)	2—(1) 2—(3)		4—(2) 4—(3) 4—(4) 4—(5)		

通級指導教室での指導内容	<p>(1)漢字の構成要素に注目し、漢字を正しく読み書きする。</p> <p>(2)綴りの構成要素に注目し、英単語を正しく読み書きする。</p> <p>(3)タブレット端末を活用し、漢字表記の文章を正しく読み書きできる方法を習得する。</p>
学級における配慮事項	<p>(1)定期考査ではルビ付きの用紙を使用する。</p> <p>(2)教科書の読めない漢字や英単語は教師が読み方を教えて、本人が振り仮名を付けるようにする。</p> <p>(3)「チョークで囲んだ所は大事なポイントなので、そこだけ書き写す」というルールを決め、書き写す文字の量を減らしたり、板書の写真をプリントして渡し、ノートに貼ったりできるようにする。</p> <p>(4)家庭で取り組む課題が多い時は、タブレット端末やパソコンを使って書き、印刷したものをノートに貼って提出することも認める。(どちらの方法で行うかは本人に選択させる。)</p>

		前期	後期	
指導目標		<ul style="list-style-type: none"> 漢字の構成要素を意識し, 中学校1年生程度の漢字を正しく読み書きすることができる。 英単語の綴りの構成要素を意識し, 英単語を正しく読むことができる。 タブレット端末を活用して, 漢字を正しく読み書きする方法に慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の構成要素に注目し, 中学校1年生程度の漢字を正しく読み書きすることができる。 英単語の綴りの構成要素を注目し, 英単語を正しく書くことができる。 タブレット端末を活用して, 漢字を正しく読み書きする方法を習得する。 	
	評価	通級指導教室	<div style="border: 1px solid black; background-color: #f8d7da; padding: 10px; display: inline-block;"> <p>➡ 通級による指導の評価等を記載した個別の指導計画は, 「5 評価と単位認定」〈イメージ24~25〉に掲載しています。</p> </div>	
		学級		
年間評価				
出席状況	出席 時間 / 授業時数 時間	出席 時間 / 授業時数 時間	出席 時間 / 授業時数 時間	
	出席 時間 / 授業時数 時間			

次年度に向けて	
---------	--

学習内容① 「漢字の構成要素に注目する学習」

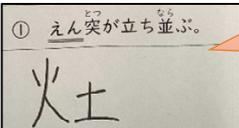
▶指導に当たって

- ・ **活動1・2** マリさんは漢字を全体像として捉え、細部まで注意して見ていないという特性があるため、漢字を部首等の構成要素に分解し、特徴を捉えられるようにする。その際、タブレット端末に撮った漢字を指で色分けしたり、漢字カードを切ったりと、物の操作を通して構成要素に注目させる。
- ・ **活動3** 活動1・2で分解した要素を漢字パズルとして組み立てる操作を通して、漢字の構成を認識できるようにする。
- ・ **活動4** 漢字の構成要素の一部を消したのを見て足りない部分を書くことで、構成要素を認識できるようにする。段階的に書く部分を増やし、漢字を覚えられるようにする。

▶本時のねらい

- ・ 漢字が構成する部首やパーツに注目し、構成要素を分解したり、再構成したりする。(健・心・環)

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点
導入	1.はじめの挨拶をする。 2.授業の流れを確認する。 3.本時の目標を決める。	・授業前に、生徒の表情や最近の出来事等、生徒の様子を確認し、学習に取り組む。 ・授業の流れを板書し、活動内容について見通しを持たせる。
展開	4. 活動1 タブレット端末で撮った漢字を見て、漢字の部首等に注目し、部分ごとに色分けをする。  T「この漢字の中に、知っている漢字や部首はありますか。」 S「火と西と・・・。」 T「この漢字を分けるとしたら、いくつに分けられそうですか。」 S「3つです。」 T「まともりごとに色分けしてみましょう。」 5. 活動2 漢字を構成要素ごとに分解する。 ・漢字カードを切って構成要素に分解する。 ・分解したパーツを使って部首を確認する。 6. 活動3 活動2でできた物を使用し、漢字パズルに取り組む。  7. 活動4 漢字の部分に注目し再構成する。  T「足りない部分を書いて漢字を完成させましょう。」	・生徒の未習得の漢字や教科の授業で使用している漢字等、学習で取り上げる漢字を生徒と相談して決める。 ・本時はタブレット端末に標準搭載しているメモアプリを使って学習したが、卒業後に進学を希望していることから、本人と相談の上、ノートアプリを活用する方法を徐々に身に付けさせていく。 ・必要に応じて、活動1で行ったパーツを色分けした漢字を見て確認したり、カードに線を引いたりする等の手立てを行う。 ・生徒が漢字の意味を理解していない場合は図や写真等を提示しながら読み方を確認したり、学習した漢字に関するテーマで話をしたりすることで、イメージしやすくする。 ・完成したら、活動1で行ったパーツを色分けした漢字を見て正しく構成できたかを確認したり、読み方を確認したりする。 ・「完成した漢字パズルを視写する」→「一部が不足した漢字を書く」→「漢字の読みを聞いて書く」等、生徒の習得に合わせて難易度を段階的に変え、理解へとつなげる。
終末	8.学習を振り返り、自己評価する。	・本時の生徒の頑張りを認め、次時への意欲喚起を行う。

学習内容② 「英単語の綴りの構成要素に注目する学習」

▶指導に当たって

- ・ **活動1** 中学校から引き継いだ「個別的教育指導計画」から「絵カードを手掛かりに英単語を理解することができた」というマリさんの強みを生かし、絵カードを手掛かりに英単語の綴りと読み方、意味を結びつけられるようにする。また、英単語の綴りを覚えるため、「make」の読みを「マケ」と読む等、綴りと発音が不規則な単語を誤って読んでいる。そこで綴りと発音が不規則な構成要素「ce」を持つ単語 (rice, face, voice) を取り上げることとした。
- ・ **活動2** 活動1の英単語を比較する活動を通して、英単語の綴りの構成要素「ce」に注目させ、「ス」と読むことを理解させる。
- ・ **活動3** 活動1, 2で取り上げた英単語を分解したり、分解したものを並べて単語にしたりと、カードの操作を通して綴りを覚えられるようにする。最初は、英単語カードを見本にパズルを完成することから始め、英単語の一部を隠す、カードを見ないで行う等、スモールステップで単語を理解させる。
- ・ **活動4** 覚えた単語の読み書きをし、学習を定着させるとともに理解度を確認する。

▶本時のねらい

- ・ 英単語の綴りに注目し、「ce」が「ス」と読むことを理解し、読むことができる。(心・環)
- ・ 「ce」が付いた英単語 (rice, face, voice) を書くことができる。(心・環)

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点
導入	1.はじめの挨拶をする。 2.授業の流れを確認する。 3.本時の目標を決める。	・前時に学習した英単語を復習しながら学習の見通しを持たせる。
展開	4. 活動1 英単語の読み方や意味を知る。 ・英単語カードを見ながらプリントに振り仮名を付け、発音する。 	・「ce」や「ch」、「ir」等、同じ綴りの部分がある英単語を集め、生徒に音韻と綴りのつながりを意識させながら理解できるようにする。 T「この単語は voice と書いて『ボイス』と読み、意味は声です。『ボイス〇〇』や『〇〇ボイス』といった『ボイス』が付く言葉を知っていますか？」 S「私のスマートフォンに『ボイスメモ』があります。」 T「それはどういうものですか？」 S「しゃべったことを録音できるものです。」 T「声をメモできるからボイスメモっていうのですね。」
	5. 活動2 英単語の綴りに注目しながら比較し、共通する部分に気付く。   	・生徒がなかなか見付けることができない場合はカードの枚数を減らす、アルファベットに色を塗る等、綴りの構成要素に注目しやすくする。 T「この英単語の中に、すべてに共通する文字はありますか？」 S「『c』が同じです…。あ！『e』もです。」 T「そうですね。これらの単語には『ce』が入っていますね。この単語の中の『ce』は「ス」と読みます。」
	6. 活動3 英単語カードをアルファベットに分解し、パズルを作成する。その後アルファベット正しく並べて英単語を完成させる。 	・単語を覚えたら「教師と競争する」「生徒が先生役となり教師が並べたカードを採点する」等、遊びの要素を取り入れ、楽しみながら学習に取り組められるようにする。 T「私も、パズルをやってみたいです。今度はマリさんが先生になって合っているか確認してください。」 S「私が先生になるのですか。やってみます！」
	7. 活動4 覚えた英単語を用いて英文を読んだり書いたりする。	
終末	8.学習を振り返り、自己評価する。	・本時の活動で理解したことを今後の学習につなげられることを確認する。

学習内容③ 「タブレット端末を活用した文章を読み書きする学習」

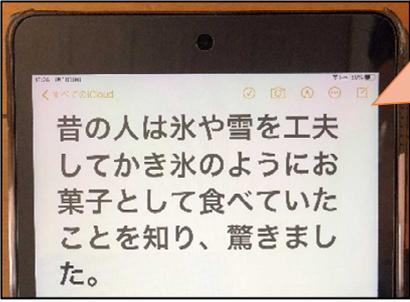
▶ 指導に当たって

- ・ **活動1** これまで読み方が分からない漢字については、教員に教えてもらってルビを振り、学習に取り組んできたが、タブレット端末の音声読み上げ機能を活用し、自分で読み方を調べる方法を身に付けさせる。マリさんはパティシエになりたいという夢があるため、題材を「アイスの歴史」とした。
- ・ **活動2** マリさんは漢字を思い出すまでに時間が掛かったり、間違えたりするが、自分の考えをしっかりと話すことができるというよさがある。そこでタブレット端末の音声文字を変換するアプリを活用して漢字を用いた文章で感じたことや考えたことを表現し、タブレット端末を見ながら手書きをする学習方法を身に付けさせる。
- ・ **活動3** 本時の活動を振り返りながら、今回学習した方法を生活に般化できる場面を検討させることで、積極的に活用しようとする態度を育てる。

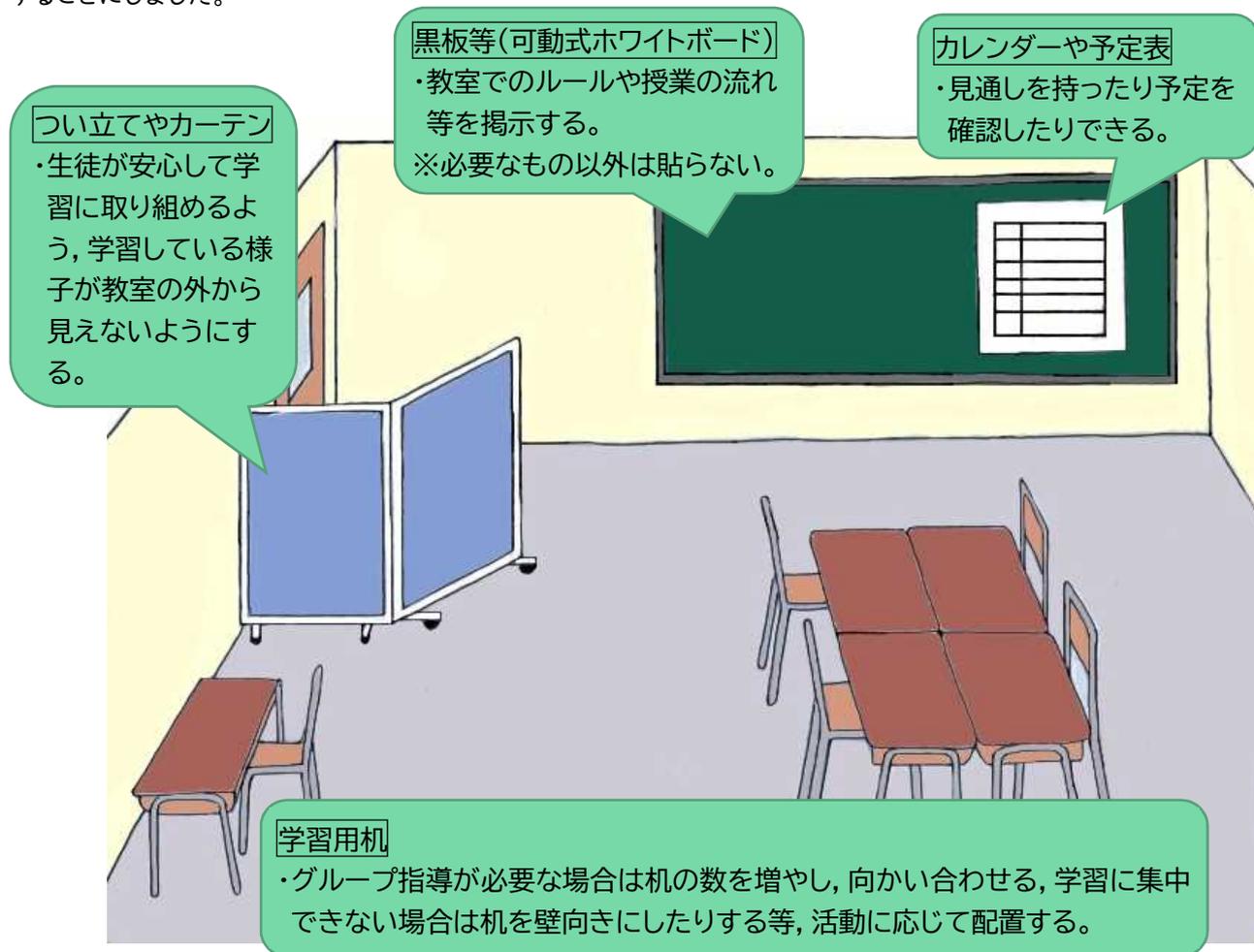
▶ 本時のねらい

- ・ タブレット端末を活用して、漢字表記の文章を正しく読み書きする方法を知る。(健・心・環)

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点
導入	1.はじめの挨拶をする。 2.授業の流れを確認する。 3.本時の目標を決める。	・授業の流れを板書し、活動内容について見通しを持たせる。
展開	4. 活動1 タブレット端末を活用して文章の漢字の読み方を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> アイスクリームの歴史 アイスクリームは昔、天然の氷や雪に乳製品や果汁をかけて食べることから始まりました。氷や雪は食品を腐敗させないため…… </div>	・タブレット端末のアプリの使い方を、写真を用いた手順表で示す。 <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #fff9e6;"> T「今日は『アイスの歴史』を読み、感想文を書いてみましょう。」 (生徒が文章を読み始めると…) S「『腐敗』って何て読むのですか？」 T「分からないときはどうやって調べますか？」 S「(少し考えて)パソコンとかタブレット端末を使うとできそうですが、方法はわかりません。」 T「それでは、タブレット端末を使って自分で読み方を確認してみましょう。」 </div>
	5. 活動2 タブレット端末の音声アプリを使用して、感想文を入力した後、タブレット端末を見ながら視写をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;">  </div>	・教師が手本を示して使い方を示す。 <div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #fff9e6;"> T「『アイスクリームの歴史』の感想文を書きましょう。マリさんは文章を書くときに何か困った事はありますか？」 S「漢字をなかなか思い出せず、平仮名ばかりの文になってしまいます…。」 T「マリさんは自分の気持ちをしっかりと話すことができるので、音声アプリで漢字を使った文章を書いてみましょう。」 </div>
	6. 活動3 活動2の方法が使える時、使えない時を考える。 <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 使えるとき ・宿題 ・本を読むとき(読み方) </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 使えないとき ・テスト </div> </div>	<div style="border: 1px solid orange; border-radius: 15px; padding: 10px; background-color: #fff9e6;"> T「タブレット端末を使って文章を書いた感想は？」 S「話した言葉が漢字で表されるので便利です。」 T「普段の生活で使えそうな場面はありますか？」 S「宿題をするときにも使えそう！」 T「やってみたら、感想を教えてください。」 </div>
終末	7.学習を振り返り、自己評価する。	・本時の生徒の頑張りを認め、次時への意欲喚起を行う。

伊達杜高等学校では、通級指導教室の設置場所について特別支援教育委員会で検討しました。マリさんの特性や自尊感情に配慮するため、教室の外からの音が入りにくく、他の生徒の目が届きにくい場所に設置することにしました。



マリさんの指導に関しては、机を複数用意して教師との距離感を意識した座席配置を行っています。今後、タブレット端末や学習したものを印刷できるプリンター等を準備していきます。マリさんと相談しながら、リラックスして学べる環境づくりを心掛けます。



通級指導担当教員

個々の生徒の特性に応じた環境や備品等を整備することが大切です。また、空き教室がない場合は学校事情によりますが、特別教室を使用する、生徒が使用しない時間に学校図書館を使用する、予約が入っていない日にカウンセリングルームで行う等、工夫が必要です。

～教室環境整備例～

- 口頭の指示だけでは理解するのが困難な生徒に、指示を視覚化する。
- 光や音に敏感な生徒に、教室を暗くしたり音を遮断したりする。
- つい立てやソファを設置し、気持ちを落ち着かせるクールダウンスペースとする。
- プリンタがあると、PC やタブレット端末を使った授業の際にすぐに印刷できる。
- レターケースに印刷したプリント類を入れておき、いつでも使えるようにしておく等。

[障害に応じた通級による指導の手引 解説と Q & A]より作成

前期と後期、通級による指導を行い、それぞれの指導目標に対するマリさんの達成状況を個別の指導計画に文章で記載し、評価しました。学年末の成績会議（単位認定会議）で、マリさんの通級による指導の単位認定について話し合いを行いました。

自立活動の「個別の指導計画」

伊達杜高等学校

学年・番号	生徒氏名	ホームルーム担任	作成者
1年 C組 27番	通級 マリ	林	松本、吉田
作成日	前期評価日	後期・学年末評価日	
令和〇年6月15日	令和〇年9月15日	令和△年2月15日	

生徒の願い	在学中	高校生活に慣れ、勉強したり、友達をつくったりしながら成長したい。
	卒業後	デザイン関係の仕事とパティシエに興味があるが、まだ悩んでいる。
保護者の願い	在学中	新しい環境に慣れ、楽しく学校生活を過ごしてほしい。
	卒業後	本人に合った職業や進学先を決定してほしい。
伸ばしたいこと 改善したいこと	<ul style="list-style-type: none"> 教科書にある分からない漢字にルビを振る、長い文章にスラッシュ(/)を引く等、習得した学び方を生かして文章を読むことができる。(健・環) 友達の動きを模倣したり、完成図等を見て製作したりすることができる。(心・環) パソコンやタブレット端末の基本的な操作に慣れている。(心・環) 全体の中から注目すべき場所を選択して見るようになる。(心・環) 学習に使用する漢字や英単語を理解し、語彙を増やす。(健・心・環) 自分に合った学び方を習得し、漢字や英単語を正しく使って文章を書くことができる。(健・心・環) 	

年間指導目標	(1)自分に合った学び方を習得し、中学校 1 年生程度の漢字、綴りの似た英単語を正しく読み書きすることができる。 (2)タブレット端末の使い方を習得し、漢字表記の文章を正しく読み書きすることができる。
--------	---

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
指導項目	1—(4)	2—(1) 2—(3)		4—(2) 4—(3) 4—(4) 4—(5)		

通級指導教室での指導内容	(1)漢字の構成要素に注目し、漢字を正しく読み書きする。 (2)綴りの構成要素に注目し、英単語を正しく読み書きする。 (3)タブレット端末を活用し、漢字表記の文章を正しく読み書きできる方法を習得する。
学級における配慮事項	(1)定期考査ではルビ付きの用紙を使用する。 (2)教科書の読めない漢字や英単語は教師が読み方を教えて、本人が振り仮名を付けるようにする。 (3)「チョークで囲んだ所は大事なポイントなので、そこだけ書き写す」というルールを決め、書き写す文字の量を減らしたり、板書の写真をプリントして渡し、ノートに貼ったりできるようにする。 (4)家庭で取り組む課題が多い時は、タブレット端末やパソコンを使って書き、印刷したものをノートに貼って提出することも認める。(どちらの方法で行うかは本人に選択させる。)

		前期	後期
指導目標		<ul style="list-style-type: none"> 漢字の構成要素を意識し、中学校1年生程度の漢字を正しく読み書きすることができる。 英単語の綴りの構成要素を意識し、英単語を正しく読むことができる。 タブレット端末を活用して、漢字を正しく読み書きする方法に慣れる。 	<ul style="list-style-type: none"> 漢字の構成要素に注目し、中学校1年生程度の漢字を正しく読み書きすることができる。 英単語の綴りの構成要素に注目し、英単語を正しく書くことができる。 タブレット端末を活用して、漢字を正しく読み書きする方法を習得する。
評価	通級指導教室	<ul style="list-style-type: none"> 夏休み明けから週2回放課後に指導を開始したが、休むことなく学習にも意欲的に取り組むことができた。 漢字の学習では、構成要素に注目する学習を積み重ねることで、複数の漢字から正しいもの選択し、書くことができた。 複数の英単語を比較し、「ce」や「ke」等の共通要素に気付き、英単語を正しく発音することができた。 タブレット端末の音声アプリの使い方を示した手順表を見て操作し、漢字表記の文章を読み書きすることができた。通級による指導で学習した方法を使って教科の宿題に取り組み、期日を守って提出できたと通級指導担当教員に嬉しそうに報告する回数が増えてきた。 	<ul style="list-style-type: none"> 冬季に体調不良で2時間欠課したが、それ以外は休むことなく、真面目に課題に取り組むことができた。 教科書から覚えたい漢字を自ら選択し、タブレットを活用して構成要素の細部まで注目して見ることができた。その構成要素を分解したり再構成したりする学習を重ねることで、漢字を正しく書ける漢字が増えた。 前期に学習したものに加え、「sh」「ge」「ir」等の共通要素を持つ単語を覚えることができた。 タブレット端末の音声アプリの使い方を覚え、手順表がなくても操作し、漢字の読み書きを調べ、漢字を正しく用いて文章を書くことができるようになった。
	通常の学級	<ul style="list-style-type: none"> 入学当初は主に学習面において強い不安を感じていたようであるが、通級による指導を受け始め、学校生活全般において表情が明るくなり、体調不良を訴えることが減った。また、課題も期日を守って提出することができるようになった。 	<ul style="list-style-type: none"> 前期は分からない漢字の読み方を教科担任に聞いてルビを振っていたが、タブレット端末を使って調べ、予習や課題に取り組むようになった。
年間評価		<ul style="list-style-type: none"> 後期に体調不良で2時間欠課した以外は休むことなく、意欲的に学習に取り組むことができた。 漢字の構成要素を分解したり、再構成したりする学習を通して、細部まで注意して読み書きするようになり、形の似た漢字を正しく読んだり視写する際に間違えることが少なくなった。 英単語の綴りと読み方が結びつくことで、「nice」や「make」等、既習の構成要素を持つ英単語を正しく読み書きすることができるようになった。 タブレット端末の活用方法を習得し、自分で分からない漢字を調べて課題に取り組む力が身に付いた。 	
出席状況		出席 11 時間 / 授業時数 11 時間	出席 30 時間 / 授業時数 32 時間
		出席 41 時間 / 授業時数 43 時間	

次年度に向けて	<p>本人は次年度も通級による指導を受けることを希望している。今年度は通級による指導を週2回放課後に実施していたが、家庭の事情から次年度は放課後の実施が難しく、通常の授業時間帯に行うため、より一層自尊感情に配慮しながら指導を行っていく必要がある。</p>
---------	---

通級指導担当教員やホームルーム担任は、マリさんの通級による指導の履修状況や年間指導目標から見た達成度等について説明をし、協議しました。教職員からマリさんの通級による指導の単位認定について理解が得られ、校長は単位の修得を認定しました。



校長

マリさんが通級による指導を受け、十分な成果が見られたことが分かりました。1年C組の通級マリさんは通級による指導を1単位修得したことを認定します。

2 具体的指導内容をイメージする

6 次年度の通級による指導に向けて

夏休みに入り、ホームルーム担任は通級マリさんと保護者に対して、次年度の通級による指導について話をするために教育相談を実施しました。これまでの通級による指導を振り返り、通級による指導を受けて良かったことや困っていること等を話しました。教育相談でのマリさんと保護者の意見は以下のとおりでした。その後、マリさんの次年度の特別の教育課程について検討しました。

面談記録					
1年C組	通級 マリ	面談日	7月30日	ホームルーム担任	林
1 通級による指導を試行して 本人:漢字や英単語の学習方法が分かりやすく、覚えやすかった。 保護者:高校に入学した頃より表情が明るくなって安心した。					
2 次年度の通級による指導について 本人:進学に向け、更に勉強を頑張りたいので次年度も通級による指導を希望する。 1年生の時は放課後に通級による指導を行ったが、2年生では家庭の事情により放課後に受けることができない。 保護者:次年度も通級による指導を受けるかについては本人の意思を尊重したい。					
3 卒業後の進路について 本人:将来パティシエになりたいので、製菓の専門学校への進学を希望している。 保護者:本人と具体的な話をしていない。					

～伊達杜高等学校の2年生の教育課程(例)～

2 年 次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	世界史A	地理A	地学基礎 物理基礎	体育	保健	現代文B	古典A	数学II	コミュニケーション 英語II	英語表現I	音楽II 美術II	ビジネス 基礎	探究的 時間	LHR																

～マリさんの特別の教育課程(例)～

2 年 次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
	世界史A	地理A	地学基礎 物理基礎	体育	保健	現代文B	古典A	数学II	コミュニケーション 英語II	英語表現I	音楽II 美術II	ビジネス 基礎	探究的 時間	LHR																

通常の教育課程の一部に「替える」場合、
いずれかの教科・科目と「替える」。

マリさんは通級による指導を2年生でも継続して受けることを希望しています。担当としても、次年度も通級による指導を週2回程度行うことが必要であると思われます。しかし、ご家庭の事情で放課後に通級による指導を受けることが難しいようです。



通級指導担当教員



教務主任

2年生になると必修以外の教科・科目もあるので、通級による指導に「替える」ことができます。その場合、「古典A」や「英語表現I」、「音楽II/美術II」、「ビジネス基礎」のいずれかを通級による指導に「替える」ことは可能です。

選択科目と「替える」場合、他の生徒も教室移動をしているので、自分だけが別の授業を受けるという抵抗感に配慮することができます。しかし、マリさんは美術部に所属していますので、もしかしたら、「美術Ⅱ」を履修したいと思っているかもしれません。マリさんと保護者に、通級による指導を「加える」か「替える」かについて、「替える」場合は何と「替える」のかについて確認する必要があります。



ホームルーム
担任

ホームルーム担任と通級指導担当教員はマリさんと再度教育相談を行い、通級による指導を「加える」場合と「替える」場合について具体的に説明をした後、マリさんの希望を確認しました。



通級 マリさん

自分だけ他の授業を受けることに少し心配はありますが、絵を描くことが好きなので、選択科目の「美術Ⅱ」は履修したいです。

マリさんは、2年生では「古典A」を通級による指導に「替える」ことにしました。その場合のマリさんの特別の教育課程は以下のとおりになります。「古典A」のように全員が履修する科目と「替える」場合、マリさん以外の生徒は「古典A」を受けることになり、マリさんだけが別の教室で通級による指導を受けることになります。

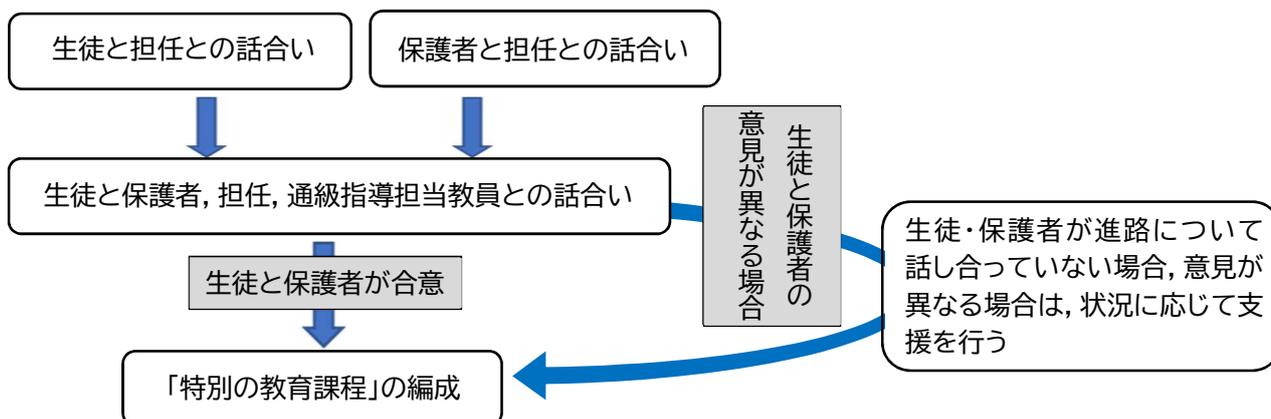
通級による指導を受ける生徒自身が自分だけ別の授業を受けることや「古典A」の履修ができないことを理解し、納得した上で実施することが必要です。さらに選択科目と「替える」場合、「数学Ⅱ」のようにⅠ、Ⅱ、Ⅲが付いた科目の扱いには注意が必要です。「数学Ⅱ」を履修しなければ「数学Ⅲ」を履修することができないため、2年次においては3年次の選択を見通す必要があります。

～マリさんの2年次における特別の教育課程～

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30
2年次	世界史A		地理A		地学基礎 物理基礎		体育 保健			現代文B		古典A 障害に応じた特別の指導		数学Ⅱ			コミュニケーション 英語Ⅱ		英語表現Ⅰ				音楽Ⅱ 美術Ⅱ		ビジネス基礎		探究の時間	LHR		

この後、マリさんと保護者の意思を文書（希望調査用紙）で確認し、次年度の通級による指導の実施や特別の教育課程について合意を図りました。

マリさんのケースではスムーズに合意が図られましたが、親子での話し合いが十分にされていない場合、考えが異なったりすることから合意形成がスムーズにいかない場合もあります。その場合には、状況に応じて支援を行います。



3

通級による指導の 展開例

- 1 感情のコントロールが苦手な生徒・・・・・・・・・・・・・1
- 2 相手の表情から気持ちを読み取ることが苦手な生徒・・・・・・・・・・6
- 3 スケジュールや、物の管理が苦手な生徒・・・・・・・・・・・・・11
- 4 想定したとおりにならないと、精神的に不安定になる生徒・・・・・・・・16

1 感情のコントロールが苦手な生徒

生徒の実態



高等学校2年生のAさんは、明るく活発だが自分の気持ちを言葉で表すことが苦手な生徒である。自分の行動を他の生徒にからかわれたときに、始めは我慢しているが、かっとなつてしまい相手に暴言を吐いたり物に当たったりする。興奮すると落ち着くまでに時間が掛かり、肩で息をしながら相手をにらみ続けることもある。担任の教師に何があったのか聞かれたときには、自分の行動を一つ一つ時系列に沿って振り返ることができる。教師の指導を素直に聞き入れているが、また同じようなトラブルを起こしてしまう。

運動部に所属しており、体を動かすことは得意である。サッカーの授業では率先してプレーに参加している。勝ち負けにこだわったり不正が許せなかったりすることがあり、相手との接触やルールのことについて言い合いになることもある。しかし、運動が苦手な生徒に対してプレーのアシストをする姿も見られる。

最近、友達との関わり方について悩んでいる姿が見られる。学習にも消極的になり、居眠りをして注意をされる場面も増えてきている。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・体を動かすことは得意。	・自分の行動からかわれたときに、かっとなることがある。	・頑なにルールを守ろうとする。 ・同じ失敗を繰り返す。			・自分の気持ちを言葉に表すことが苦手。

年間指導目標

- 自分がどんなときに怒りを感じるのかを理解し、怒りをコントロールするための具体的な方法を身に付けることができる。
- 自分の気持ちを伝えるための、コミュニケーションの方法を身に付けることができる。

必要な項目の選定・指導内容の決定

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	情緒の安定に関する事	他者とのかかわりの基礎に関する事	保有する感覚の活用に関する事	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関する事	状況の理解と変化への対応に関する事	他者の意図や感情の理解に関する事	感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	言語の受容と表出に関する事
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関する事	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	自己の理解と行動の調整に関する事	感覚の保持及び代行手段の活用に関する事	日常生活に必要な基本動作に関する事	言語の形成と活用に関する事
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		集団への参加の基礎に関する事	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	身体の移動能力に関する事	コミュニケーションの手段の選択と活用に関する事
(5)	健康状態の維持・改善に関する事			認知の行動の手がかりとなる概念の形成に関する事	作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	状況に応じたコミュニケーションに関する事

具体的な指導内容	自分がどんなときに怒りを感じるのかを理解する。	怒ったときの代替行動について考える。	自分の気持ちを伝えるための方法を学ぶ。
----------	-------------------------	--------------------	---------------------

学級における配慮

- ・怒りを感じその場から離れる際、職員室や保健室等の決められた場所へ移動できるよう配慮する。
- ・生徒のクールダウンの方法について、教科担任同士で共通理解しておく。

学習内容①「自分がどんなときに怒りを感じるのかを理解する学習」

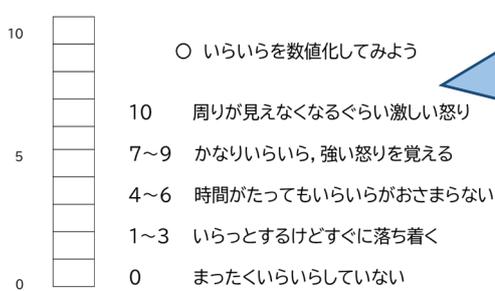
▶指導に当たって

- ・生徒の話聞く時間を意図的に設けることで、生徒の気持ちを受容するとともに、今までどんなときにいらいらしたり、かっとなったりしたのか想起させながら、自己理解を促す。
- ・怒りを数値化することで、自分の感情を客観視させるとともに、同じ怒りでもそのときの場面や状況によって怒りの度合いが違うことを理解させる。
- ・怒りを感じたときの対処方法を考えさせながら、自分が実践できることを練習させることで、実生活に生かせるようにする。

▶本時のねらい

- ・自分がどんなときに怒りを感じるのかを理解する。(健・心・人)
- ・怒りを感じたときの具体的な対処方法を考える。(健・心・人)

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点						
導入	1.最近の出来事について話す。 2.本時の目標を確認する。	・最近の出来事を聞いたり、生徒の頑張りを褒めたりしながら生徒を受容することで、活動に入りやすい雰囲気づくりをする。						
展開	<p>3.どんなときにいらいらしたり、かっとなったりするのかを考える。</p> <p>T「今までどんなときにいらいらしたり、かっとなったりしたことがありますか。」 S「サッカーの試合で相手がファウルをしたのに認めなかった。」 S「自分が間違ったときに指摘されたりからかわれたりした。」 S「勉強の内容が分からなかったとき。」</p> <p>4.場面ごとの怒りを数値化する。</p>  <p>○ いらいらを数値化してみよう</p> <p>10 周りが見えなくなるくらい激しい怒り 7~9 かなりいらいら、強い怒りを感じる 4~6 時間がたってもいらいらがおさまらない 1~3 いらっとするけどすぐに落ち着く 0 まったくいらいらしていない</p> <p>5.怒ったときの具体的な対処方法を考える。</p> <table border="1" data-bbox="255 1635 798 1814"> <tr> <td>心の中で1から6まで数える</td> <td>その場から立ち去る</td> <td>手をぎゅっと握る</td> </tr> <tr> <td>心の中で歌を歌う</td> <td>水を飲みに行く</td> <td>深呼吸を6回する</td> </tr> </table>	心の中で1から6まで数える	その場から立ち去る	手をぎゅっと握る	心の中で歌を歌う	水を飲みに行く	深呼吸を6回する	<p>・自分がどんなときに怒りを感じるのかを把握させることで、自己理解を促す。</p> <p>・そのときの状況を思い出して興奮する可能性もあるので、緊張を緩和させながら話を聞くようにする。</p> <p>・「怒りの感情そのものは悪いことではない。自分の感情に気づき、早めに対処できるようになることが大切。」ということ伝える。</p> <p>・自分の怒りを数値化することで、自分を客観視させる。</p> <p>T「いらいらしたり、かっとなったりしたことを数値にすると、どのくらいですか。」 S「勉強が分からないときは2。イライラしたけどすぐに落ち着けた。」 S「からかわれるのが8くらい。一番頭にくる。」 S「からかわれても最初は我慢するけど、10になったら物に当たってしまいます。」</p> <p>T「怒りの気持ちをコントロールするのにどんな方法ならできそうですか。」 S「深呼吸を6回することはできそうかな・・・。」</p> <p>・初めに生徒に対処法を考えさせる。必要に応じて教師が例示した中から自分のできそうなことを選ばせ、学校や家での生活場면을想定しながら練習させる。</p>
心の中で1から6まで数える	その場から立ち去る	手をぎゅっと握る						
心の中で歌を歌う	水を飲みに行く	深呼吸を6回する						
終末	6.本時の学習を振り返り、自己評価をする。	<p>・自己評価カードに記入させながら、今後の生活について考えさせる。</p> <p>・数値化したワークシートはファイルに綴っておき、復習や教科担任、ホームルーム担任との情報共有の際に活用する。</p> <p>・本時の生徒の頑張りを認め、次時への意欲喚起を行う。</p>						

学習内容② 「怒ったときの代替行動について考える学習」

▶指導に当たって

- ・トラブルが起きた場面を図式化しながら、客観的に出来事を整理させていく。
- ・前時までに自分がどういうときにトラブルを起こしやすいのか理解する学習を行う。それを生かしながら、本時は同じ行動を繰り返さないための代替行動と一緒に考えていく。

▶本時のねらい

- ・怒りを感じたときの原因について知り、うまく対処するための方法を考える。(健・心・人)

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点
導入	1.前時までの学習や学校生活を振り返る。 2.本時の目標の確認をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・怒ったときに深呼吸をしたり手を握ったりするなど、通級による指導で学んだことを、普段の生活で実践できていた際にはそのことを認め、自己肯定感を高める。 ・前時までの学習を想起しながら、怒りを感じた際の対処方法を練習する。
展開	<p>3.怒りを感じた場面を整理する。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>T 「この前、友達に暴言を吐いてしまい、先生に注意されたことがありましたね。そのときのことを教えてくださいませんか。」 S 「授業中に間違っただけを言ったら、友達がこっちを見ながらニヤニヤして…」</p> </div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>T 「友達はAさんのことを笑っていたのですか。」 S 「実は違ったんです。でも、馬鹿にされたと思ったからかっとなって物を投げてしまったんです。その後は先生に注意されてしまって…。黙って聞いていたけど、嫌な気持ちでした。」</p> </div> <p>4.怒ったときの替わりとなる行動について考える。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p>T 「この中で自分を変えることができるのはどこですか？」 S 「友達のニヤニヤは変えられないかも…。」 S 「物を投げるは『我慢する』にできそうです。」 S 「怒られないけど嫌な気持ちのままかも。」</p> </div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px;"> <p>T 「『我慢する』を『何で笑っているのか聞く』にしてみよう。」 S 「そうすると、嫌な気持ちにならないかも。」 T 「理由を聞くのも大切ですね。」</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・本生徒は出来事を順序に沿って振り返ることができる。そこで、生徒の発言をホワイトボードに書いていながら時系列に整理し、怒りを感じた場面を可視化する。 ・生徒の行動を否定せず、そのときの気持ちを受容しながら話を聞く。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・意見が出ない場合は、怒ったときの対処方法を想起させる。 <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> </div>
終末	5.本時の学習を振り返り、自己評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・自分なりの解決方法を考えることができたことを認める。

学習内容③ 「自分の気持ちを伝えるための方法を知る学習」

▶ 指導に当たって

- ・よい例, 悪い例を示しながら話の聞き方を練習させることで, 適切なコミュニケーションがとれるようにする。
- ・自分の気持ちの伝え方を, 友達とのやり取りを想定しながらロールプレイをすることで, 自分の感情や行動を調整する力を身に付けさせる。

▶ 本時のねらい

- ・相手の気持ちを考えた聞き方や思いどおりにならなかったときの伝え方を身に付ける。(心・人・コ)

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点
導入	1.前時までの復習や学校生活を振り返る。 2.本時の目標の確認をする。	・怒りを感じたときの行動に変化がみられた場合はそのことを認め, 学習意欲を高める。
展開	3.今までのコミュニケーションを振り返る。	・生徒の気持ちを受容しながら話を聞く。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> T 「友達と話をしているのにどうしたらよいか分からず相手を見なかった。」 S 「話をされているのにどうしたらよいか分からず相手を見なかった。」 S 「嫌な気持ちになったとき, なんて言ったらよいか分からず, 物を投げてしまった。」 </div> 4.相手の気持ちを考えた聞き方について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> ○ 相手の方に体を向ける。 ○ 相手の方を見る。 ○ 相手の話にうなづく。 ○ 相づちを打つ。 </div> 5.思いどおりにならなかったときの返答の仕方について知る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> 友達とプールに行こうと約束していましたが, 前日の晩「急に家の用事ができて行けなくなった。ごめん。」とキャンセルされてしまいました。 </div>	・良い例を一つ一つ行わせ, その都度評価する。 ・体を背ける, 途中で話を遮る等の聞き方を教師が演示し, どのような気持ちになるか体験させる。
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> T 「『残念だけでしょうがないね。次はいつ行けそう?』はどうですか。」 S 「この言い方なら友達も嫌な気持ちにならないかも。」 T 「急に予定が変わったり, 思いどおりにならなくなったりしたらまずは『残念だなあ』と尝试してみましょう。」 </div>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> T 「このときどのような気持ちになりますか。」 S 「前日にキャンセルされたら, 頭にくるかもしれない。」 T 「これまでどのように返していましたか。」 S 「『むかつく! もう誘わないからな!』と怒鳴っていた。友達は嫌だったかも。別な言い方がないかな。」 </div> ・身近に起きそうな具体例を示しながら, 気持ちの伝え方について考えさせる。 ・ロールプレイを行う。生徒の実演が難しい場合は, 教師がモデルとなってやってみせる。 ・他にも言い方を変えた方がよい言葉があるか考える。 ・今までの生徒の言動については追及しない。
終末	6.本時の学習を振り返り, 自己評価をする。	・自分の今までの行動を振り返ったり, 相手の気持ちを考えたりするなどできたことを認める。



生徒の実態

高等学校の1年生Bさんは、その場の状況や相手の気持ちを読み取ることが苦手な生徒である。

小学校では授業のチャイムが鳴っても教室の後ろの方でクルクル回っていたり、整列の際にその場を離れたりするなどの姿が見られ、その場の状況に合わせた行動ができていなかったそうである。また、自分の興味がない話題になると、「つままない。」「それの何が楽しいの?」と思ったことをそのまま口にし、友達と口論になっていた。5年生より通級による指導を受けることになり、主に集団でのルールや人との関わりについて学んでいた。

中学校入学後も対人関係を上手く築けなかったため、特別支援教育コーディネーターが、放課後を活用して個別にコミュニケーションの指導を行ってきた。また、外部機関を利用しながら人との関わりについて学んできた。外部機関では、視覚優位であるBさんの特徴を生かし、写真や場面絵を使ってのコミュニケーションの学習や、表情のカードを使って気持ちを読み取る学習を行ってきた。

高等学校でのBさんは、学習態度は真面目でテストの点数もよい。しかし、対人関係では、自分の興味のある話を一方的に話し、相手が困った顔をしていても気付かないため、双方向の会話を続けることが難しい。本人は友達を作りたいと思っているが、なかなかうまくできず困っている。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	・真面目に学習に取り組むことができる。	・人と協力したり、話を合わせたりすることが苦手。 ・その場の状況に合わせた行動ができていなかった。 ・相手が困った顔をしていても気付かない。			・自分の興味のない話題では途中で口を挟む。 ・相手の反応に関係なく、自分の興味のあることを一方的に話す。

年間指導目標

- 相手の言葉や表情などから、相手の意図や感情を読み取ることができる。
- 場面の様子に合わせて適切に相手の話を聞いたり、話したりすることができる。

必要な項目の選定・指導内容の決定

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	情緒の安定に関する事	他者とのかかわりの基礎に関する事	保有する感覚の活用に関する事	姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関する事	状況の理解と変化への対応に関する事	他者の意図や感情の理解に関する事	感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関する事	言語の受容と表出に関する事
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関する事	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	自己の理解と行動の調整に関する事	感覚の保持及び代行手段の活用に関する事	日常生活に必要な基本動作に関する事	言語の形成と活用に関する事
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事		集団への参加の基礎に関する事	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事	身体の移動能力に関する事	コミュニケーションの手段の選択と活用に関する事
(5)	健康状態の維持・改善に関する事			認知の行動の手がかりとなる概念の形成に関する事	作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	状況に応じたコミュニケーションに関する事

具体的な指導内容	やり取りを行う際の具体的な場面を設定し、会話をする際のルールを身に付けていく。	決められたテーマで双方向の会話を続けることを通して、適切な会話の方法を学ぶ。	いろいろな表情の写真や場面絵を見ながら、相手の感情を読み取る。
----------	---	--	---------------------------------

学級における配慮

- ・他者との適切な会話が難しいので、ペアトークを授業の中で取り入れて、会話を続けることを練習させる。
- ・グループで話し合う際に、やり取りができていないか確認しながら、個別に声を掛ける。

学習内容①「会話をするときのルールを身に付ける学習」

▶ 指導に当たって

- ・ 今までの自分のコミュニケーションの取り方について客観視させることで、自己理解を図っていく。
- ・ 会話をしている動画や教師の演示を見てコミュニケーションについて考える等、生徒の実態に合った活動を設定しながら、会話のルールを身に付けさせていく。

▶ 本時のねらい

- ・ 会話をするときのルールを知り、実践することができる。(人・コ)

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点																					
導入	1.最近の学校生活の様子について話す。 2.本時の目標の確認をする。	・最近の学校生活で楽しかったことを聞いたり、友達とどんな会話をしたか聞いたりすることで、緊張を緩和させてから活動に入る。																					
展開	3.今までの自分のコミュニケーションの取り方について振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p style="text-align: center;">コミュニケーションチェック表</p> <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 70%;"></th> <th style="width: 15%; text-align: center;">できている</th> <th style="width: 15%; text-align: center;">できていない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>順番に話をする</td> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></td> <td style="text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>途中で口を挟まない</td> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></td> <td style="text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>分からなかったらもう一度聞く</td> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></td> <td style="text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>相手の意見を否定しない</td> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></td> <td style="text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>聞いている時は相手の方を見る</td> <td style="text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/></td> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>親しい人でなければ、踏み込んだ話をしない</td> <td style="text-align: center;"><input type="checkbox"/></td> <td style="text-align: center;"><input checked="" type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table> </div> 4.グループ活動で同級生と会話をするときのルールを知る。 <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0; background-color: #e6f2ff;"> <p>T「グループ活動の様子を見て、気付いたことを教えてください。」</p> <p>S「話合いの順番を守っています。」</p> <p>S「自分と違う意見でも、最後まで聞いています。」</p> </div> 5.学んだことを生かしながら、教師と会話をする。		できている	できていない	順番に話をする	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	途中で口を挟まない	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	分からなかったらもう一度聞く	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	相手の意見を否定しない	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	聞いている時は相手の方を見る	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	親しい人でなければ、踏み込んだ話をしない	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	・チェック表を使いながら振り返りを行うことで、自己理解につなげていく。(生徒の実態によって、撮影した生徒の姿を見せる、上手にコミュニケーションをとれなかった場面を想起させるなどの方法も考えられる。) <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0; background-color: #e6f2ff;"> <p>T「今までのコミュニケーションを振り返ってみましょう。」</p> <p>S「チェックしてみると、できていないことが多いぞ。」</p> <p>S「相手を見るのは、気持ちを知るのに大事だって勉強したな。少しずつできてきているかもしれない。」</p> <p>T「学習したことを生かそうとしていますね。素晴らしいです。」</p> </div> ・視覚優位であるという生徒の実態を生かし、グループでの会話のやり取りを録画したものを見せたり、教師が良い例や悪い例をやって見せたりしながら、コミュニケーションの方法について考えさせる。 ・できていないことを一度にさせるのではなく、チェック表の中から何をできるようにしたいかを生徒に決めさせ、順番に行っていく。
	できている	できていない																					
順番に話をする	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>																					
途中で口を挟まない	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>																					
分からなかったらもう一度聞く	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>																					
相手の意見を否定しない	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>																					
聞いている時は相手の方を見る	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																					
親しい人でなければ、踏み込んだ話をしない	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>																					
終末	6.本時の学習を振り返り、自己評価をする。	・本時の学習で気付いたことを自己評価カードに書かせる。自分の関わり方を振り返ることができたことを褒め、次時の学習への意欲を高める。																					

学習内容② 「適切な会話の方法を身に付ける学習」

▶ 指導に当たって

- ・ 会話を続けられそうなテーマや興味のあるテーマを教師が設定し、生徒に選ばせることで、主体的に学習に取り組むことができるようにする。
- ・ 実際の生活場面を想定して会話を行うので、同じような課題を持つ生徒との少人数学習を設定する。

▶ 本時のねらい

- ・ 設定されたテーマに合わせて、1対1で会話を続けることができる。(人・コ)

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点						
導入	1.前時までの復習をする。 2.本時の目標の確認をする。	・友達との関わり方や最近のグループ活動の様子を聞き、頑張っている姿を認めながら本時の学習に入る。						
展開	<p>3.テーマを設定して会話をする。</p> <p style="text-align: center;">「テーマの例」</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="width: 33%;">好きな食べ物</td> <td style="width: 33%;">マイブーム</td> <td style="width: 33%;">将来の夢</td> </tr> <tr> <td>最近うれしかったこと</td> <td>昨日家で行ったこと</td> <td>ほしいもの</td> </tr> </table> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>T 「Bさんは何の食べ物が好きですか。」 S 「ハンバーグが好きです。」 T 「なぜハンバーグが好きなのですか。」 S 「お母さんに作ってもらったハンバーグがとてもおいしかったからです。」 T 「先生は、ハンバーグは嫌いだな。すしの方がいいよ。」 S 「…。」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>T 「今のやり取りで思ったことはありますか。」 S 「否定されると嫌な気持ちになるし、会話が続かなくなりました。」</p> </div> <p>4.実際の生活場面を設定し、会話の続け方を練習する。 【A】 同級生同士の会話 ・グループ活動での会話 ・休み時間の会話 等 【B】 就職先での会話 ・上司とのやり取り ・接客の応対の仕方 等</p>	好きな食べ物	マイブーム	将来の夢	最近うれしかったこと	昨日家で行ったこと	ほしいもの	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>T 「この中から話したいことを決めて、先生と会話をしましょう。どのテーマがいいですか。」 S 「好きな食べ物がいいな。」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「会話のルール」で学んだ話し方や聞き方を確認してから活動に入る。 ・ 相手が話した内容を取り上げて質問をするよう伝える。分からない場合は教師が例示する。 ・ 実際のやり取りの様子を、タブレット端末等で撮影し、振り返りを行いながら話し合う。撮影した映像は学習後に消去する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ コミュニケーションの取り方は相手によって違うことを確認する。相手に合わせた言葉遣いが必要なことを確かめてから活動を行う。 ・ 同級生同士でのやり取りが難しい場合は、まずは教師が生徒役になり、会話を行う。 ・ 将来自分が就きたい職業に就いたという設定とし、やり取りを行う。
好きな食べ物	マイブーム	将来の夢						
最近うれしかったこと	昨日家で行ったこと	ほしいもの						
終末	5.本時の学習を振り返り、自己評価をする。	・ルールを守りながら会話できたことを認め、次時の学習への意欲を高める。次回は同級生と実際にやり取りをすることを伝える。						

学習内容③ 「表情から相手の感情を読み取る学習」

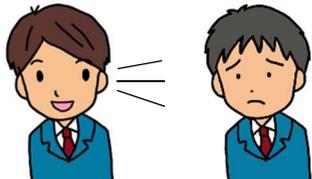
▶ 指導に当たって

- ・ 外部機関で行ってきた学習を継続するために、表情カードを使って視覚的に相手の感情を捉えさせる。その後、写真を使いながら顔の細かいところに注目させていく。
- ・ 生徒の周りで起きそうな場面を提示し、その場に応じた行動や発言の仕方を学ぶ。

▶ 本時のねらい

- ・ 表情から相手の感情を読み取ることができる。(人・コ)

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点
導入	<p>1. 前時までの学習や学校生活の振り返りをする。 2. 表情カードを使って感情を読み取る。</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ルールを守りながら会話をする姿が見られた際にはそのことを認め、行動の定着を図っていく。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>T 「まずは、中学校まで行ってきた、表情カードを使っての気持ちの読み取りを行いましょう。」 S 「これは今までやってきているから得意です。」</p> </div>
展開	<p>3. 本時の目標の確認をする。 4. 写真を使って感情を読み取る。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">A </div> <div style="text-align: center;">B </div> <div style="text-align: center;">C </div> </div> <p>5. 動画を見て、相手の気持ちやその場に応じた行動や発言の仕方を学ぶ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <div style="display: flex; justify-content: center; align-items: center;">  </div> <p style="text-align: center;">地理の授業中、パソコンを使ってグループで調べ学習をしていました。 調べている最中にパソコンの構造や組み立て方等を友達に思いつくまま話したら、友達は相手をしてくれませんでした。 友達はなぜ、相手をしてくれなかったのでしょうか。どういう行動をとればよかったのでしょうか。</p> </div>	<div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>T 「次は写真を見てみましょう。Aの写真はどんな気持ちでしょう。」 S 「写真の方は気持ちが分かりづらいな…。どこを見たらいいのかな。」 T 「表情だけでなく、相手の仕草なども見るといいですよ。」</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 仕草や顔の細かな変化にも注目することで、相手の気持ちを読み取ることができることを伝える。 ・ 生徒の周りで起きそうな場面を提示し、相手の気持ちと表情カードをマッチングさせたり、実際のやり取りをロールプレイしたりする。 <div style="border: 1px solid blue; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>T 「以前の学習で会話を続ける学習をしましたね。なぜこの場合は続けることができなかったのでしょうか。」 S 「調べることと関係のない話をしているから？」 T 「そうですね。その場に関係のない話をする则会話が續かないかもしれませんね。相手の表情はどうなっているでしょう。」 S 「少し困っているように見えます。」 T 「そうかもしれませんね。そういうときは、会話の内容を変えたり、話しかけるのをやめたりしましょう。」</p> </div>
終末	6. 本時の学習を振り返り、自己評価をする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 相手の感情に気付くことができたことを認める。



生徒の実態

高等学校2年生のCさんは、忘れ物やなくし物が多く、課題等の提出物も遅れがちである。整理整頓が苦手でロッカーの中には教科書やノート、プリント、体育着等が無造作に詰め込まれている。

口頭での指示は聞きもらすことが多いため、次の日の予定を黒板に書いて示したり、連絡事項を書いてメモを渡したりするなどの支援を個別に行っているが、黒板を見なかったり、メモをなくしたりすることがある。

自宅では保護者が物の管理や整理整頓を支援してきたが、高校入学後は自立させたいと思い、本人に任せていた。その結果、Cさんの部屋は散らかり放題になり、友達に借りた物が見つからず、トラブルになったこともあった。

休み時間や放課後には、仲の良い友達と3人でアニメやアイドルの話をよくしており、スマートフォンの待ち受けを好きなアイドルの画像にしたり、おそろいの手帳にアニメのキャラクターのステッカーを貼ったりし、3人で常に持ち歩いている。ただ、スケジュールの管理が苦手なため、約束を度々忘れてしまい友達を怒らせてしまう。このままでは友人関係が壊れてしまうのではないかと不安に思っている。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・整理整頓が苦手で、整理整頓の習慣が身に付きにくい。	・友人関係が壊れてしまうのではないかと不安を感じるようになっている。	・約束を忘れてしまい、友達を怒らせることがある。	・忘れ物やなくし物が多く、提出物も遅れがちである。 ・指示の聞き漏らしが多い。 ・スケジュール管理ができない。		・仲の良い友達と会話することができる。

年間指導目標

- 整理整頓の必要性を理解し、自分に合った方法で整理整頓を行うことができる。
- スケジュールや物を管理する方法を考え、実践することができる。

必要な項目の選定・指導内容の決定

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関すること	情緒の安定に関すること	他者とのかかわりの基礎に関すること	保有する感覚の活用に関すること	姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	コミュニケーションの基礎的能力に関すること
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関すること	状況の理解と変化への対応に関すること	他者の意図や感情の理解に関すること	感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること	言語の受容と表出に関すること
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関すること	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	自己の理解と行動の調整に関すること	感覚の保持及び代行手段の活用に関すること	日常生活に必要な基本動作に関すること	言語の形成と活用に関すること
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること		集団への参加の基礎に関すること	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	身体の移動能力に関すること	コミュニケーションの手段の選択と活用に関すること
(5)	健康状態の維持・改善に関すること			認知の行動の手がかりとなる概念の形成に関すること	作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	状況に応じたコミュニケーションに関すること

具体的な指導内容	いくつかの整理整頓の方法から、自分に合った方法を選び実践する。	忘れ物をしないようにするための方法を考え、決めた方法を実践する。	スケジュールを管理し、予定どおり実行する方法を身に付ける。
----------	---------------------------------	----------------------------------	-------------------------------

学級における配慮

- ・提出物などの大切な物は、決まった場所に入れるよう声掛けをする。
- ・板書された連絡事項は写真に撮ってよいことにする。

学習内容① 「自分に合った整理整頓の仕方を身に付ける学習」

▶ 指導に当たって

- ・これまでの物の管理の状況をチェックし、整理整頓の必要性に気付かせる。
- ・整理整頓の仕方を教師とともに考え、自分に合った方法で実行できるようにする。

▶ 本時のねらい

- ・整理整頓の必要性を理解し、教師とともに自分に合った整理整頓の方法を考える。(健・心)

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点																					
導入	1.物を忘れてたりなくしたりして困ったことがあるか振り返る。 2.本時の目標を確認する。	・生徒がどんなことに困っているのかを聞き取り、それを基に本時の課題へとつなげる。																					
展開	<p>3.今までの整理整頓の仕方について振り返る。</p> <p style="text-align: center;">整理整頓チェック表</p> <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th></th> <th>ある</th> <th>ない</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>物を探すのに時間がかかる</td> <td style="text-align: center;">✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>同じ物をいくつも持っている</td> <td style="text-align: center;">✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ロッカーの中が散らかっている</td> <td style="text-align: center;">✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>机の中が散らかっている</td> <td></td> <td style="text-align: center;">✓</td> </tr> <tr> <td>物を捨てることができない</td> <td style="text-align: center;">✓</td> <td></td> </tr> <tr> <td>散らかっていて集中できない</td> <td></td> <td style="text-align: center;">✓</td> </tr> </tbody> </table> <p>4.ロッカーの整理整頓の仕方を考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <ul style="list-style-type: none"> ・教科書とノートは教科ごとにセットにし、ブックスタンドを使って立てておく。 ・プリントは分類し、ラベルを貼った透明なケースに入れる。 ・ジャージは、袋の中に入れる。 </div> <p>5.整理整頓をする時間を決める。</p> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 15px; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>T 「整理整頓を続けるために、ロッカーをきれいに する日を決めておきましょう。」 S 「週末に確認するといいかもかもしれません。」</p> </div>		ある	ない	物を探すのに時間がかかる	✓		同じ物をいくつも持っている	✓		ロッカーの中が散らかっている	✓		机の中が散らかっている		✓	物を捨てることができない	✓		散らかっていて集中できない		✓	<div style="border: 1px solid blue; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>T 「チェックシートを使って、今までの物の管理の仕方について振り返ってみましょう。」 S 「机はあまり物を入れないからきれいだけど、ロッカーの中が散らかっているわ。」 S 「物がどこにあるか分からなくて、探すのに時間がかかることもあります。」 T 「自分の物を多く入れているのはどこですか。」 S 「ロッカーです。教科書やプリントもすべてそのまま入れっぱなしです。」 T 「では、ロッカーを整理する方法を覚えれば、学校で物を探す時間や物をなくすことも減りそうですね。」</p> </div> <div style="border: 1px solid blue; border-radius: 20px; padding: 10px; margin: 5px 0;"> <p>T 「教科書やプリントなどをどのようにして しまうか一緒に考えましょう。」 S 「教科書は積んでしまうことが多いです。」 T 「タイトルが分かる向きにして立てておくと、すぐに取り出せますよ。実際にやってみましょう。」</p> </div> <p>・ブックスタンドを教師が用意し、ノートや教科書を実際に立てさせながら、自分が取り組みやすい方法を確認させていく。</p> <p>・学校でよく使う物の整理整頓の方法を生徒と一緒に考える。使わない物については、家に持って帰るか、捨てるか一緒に決める。</p> <p>・いつ整理整頓をするか生徒に決めさせる。整理整頓ができているか声掛けをしたり、確認をしたりする。</p>
	ある	ない																					
物を探すのに時間がかかる	✓																						
同じ物をいくつも持っている	✓																						
ロッカーの中が散らかっている	✓																						
机の中が散らかっている		✓																					
物を捨てることができない	✓																						
散らかっていて集中できない		✓																					
終末	6.本時の学習を振り返り、自己評価をする。	<p>・置き場所を決めたら写真を撮り、ロッカーの内側に貼っておくことで、どこに何を置くのか写真で確認しながらそのとおりに置くことができるようにする。</p> <p>・次時の活動で、実際にロッカーを整理整頓することを伝える。</p>																					

学習内容② 「忘れ物を減らす学習」

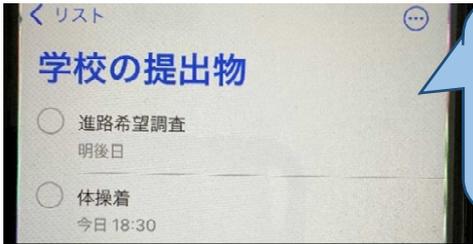
▶指導に当たって

- ・友達との話に夢中になる等、他のことに意識が向いてしまうと提出物や準備物等は忘れてしまうといった注意力の弱さが見られるので、忘れ物を減らす方法を教師がいくつか提案し、取り組みやすいものを選択させる。
- ・生徒が選択した方法（スマートフォンのボイスメモやリマインダー機能）を教師と一緒に使い、使い方を理解させる。一定期間試行した後、フィードバックさせ、より生徒が取り組みやすいように改善していく。

▶本時のねらい

- ・提案された、いくつかの忘れ物を減らす方法の中から取り組みやすいものを選択し、試行する。（健・環）

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点
導入	<p>1.前時までの復習をする。</p> <p>2.学校生活を振り返り、本時の目標を確認する。</p>	<p>・前時に学習した整理整頓について、その後の生徒の取組をロッカーの様子を実物や写真と一緒に確認する。</p>
	<p>T「最近、何か忘れ物をしてしまったり、予定を間違えてしまったりしたことはありましたか。」 S「昨日まで締め切りだった進路希望調査の用紙を忘れてしまいました。他にもあったかも・・・。」 T「何か忘れ物をしないように気を付けていることはありますか。」 S「前は忘れないようにメモ帳に書いていたけど、見るのを忘れちゃうことが多かったし、メモ帳自体をなくしてしまったので、今は特にないです。」 T「そうでしたか。それでは今日は忘れ物を減らす方法について学習しましょう。」</p>	
展開	<p>3.忘れ物を減らす方法を確認し、その中から取り組みやすいものを選択する。</p>	
	<p>○スマートフォンのボイスメモやリマインダー機能（予定通知機能）等を活用する。 ○手帳に記入し、決まった時間に必ず確認する。 ○ホワイトボードを置き、メモをした付箋を貼る。 ○大切な物は決まった所に入れる。 ○友達や家族に必要な物を伝え、忘れそうなどきは声を掛けてもらう。</p>	<p>T「忘れ物を減らすにはこういうやり方があります。」（順番に紹介する） S「忘れ物を減らす工夫は様々あるんですね。」 T「Cさんが取り組めそうな方法は何ですか。」 S「スマートフォンはなくなったことがないので、良い方法だと思います。」 T「それでは、スマートフォンを使って学習しましょう。」</p>
	<p>4.選択した方法（スマートフォンのボイスメモやリマインダー機能）を体験する。</p>	<p>・教師が手本を見せたり、写真を用いた手順表を用いたりして使い方を伝える。</p>
		<p>T「二つを試してみて、どうでしたか。」 S「リマインダー機能は時間を設定すると音で教えてくれるので便利だと思いました。操作もあまり難しくなかったです。」 T「スマートフォンを使った他のやり方を知っていますか。」 S「確か・・・友達はカレンダーアプリを使っていたと思います。」 T「次回の学習でそのやり方もやってみましょう。」</p>
	<p>5.プリント等の提出物を管理する方法を確認する。</p> <p>(1)クリアファイルを用意する。 <input type="checkbox"/> 目に付きやすい色(赤) <input type="checkbox"/> お気に入りの絵が付いているもの</p> <p>(2)使い方 ・大事な提出物は必ずそのファイルに入れる。 ・帰宅後、同じ時間に鞆から出して確認する。 <input type="checkbox"/> 帰宅直後 <input type="checkbox"/> 夕食前 <input type="checkbox"/> 夕食後</p>	<p>T「提出するプリントは、ファイルを決めて、それに入れるようにしましょう。ファイルは何にしますか。」 S「鞆に入っているものに見つけられるようにしたいので赤色のファイルにします。」 T「それはいいですね。ファイルは毎日決まった時間に確認するといいですよ。」 S「夕食前の午後7時がいいかな・・・。」 T「その方法で少しの期間試してみましよう。取り組んだ感想を次回の学習のときに教えてください。」</p>
終末	<p>6.本時の学習を振り返り、自己評価をする。</p>	<p>・生徒と相談して決めた方法を保護者に伝え、協力を得られるようにする。</p>
		<p>・次回の学習で取り組んだ結果や感想を確認することを伝える。</p>

学習内容③「スケジュールを管理する学習」

▶指導に当たって

- ・友達との約束を忘れてしまいトラブルになることが度々あるため、操作に慣れているスマートフォンを使用し、スケジュールを管理する方法を身に付けさせる。学習した方法を習得させられるよう、スケジュールを管理するための手順を確認させる。

▶本時のねらい

- ・スケジュールを管理するための方法や手順を理解し、試行する。(心・環)

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点
導入	<p>1.前時までの復習や学校生活の振り返りをする。</p> <p>T「ファイルやスマートフォンのリマインダー機能を使ってプリントを管理してみましたか。」 S「やってみました。ファイルを確認する時間を忘れてしまうことが多いのですが、アラームで教えてくれるので、思い出して確認しています。忘れ物が前より減りました。」 T「使い方で困ったことはありませんでしたか。」 S「すぐに慣れました。でも…忘れ物は減ったのですが、先日、友達と一緒に買い物に行く約束をしたのに、時間を間違えて待たせてしまいました。友達は許してくれたのですが、あれから自分の中で気まづくなってしまって。」 T「そうでしたか。それでは今日はカレンダーアプリを使って予定を管理する方法を学習しましょう。」</p>	
展開	<p>2.本時の目標を確認する。</p> <p>3.カレンダーアプリを使ってスケジュールを管理する方法を体験する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> </div> <p>T「今日は無料のカレンダーアプリを使ってみましょう。カレンダーには日付だけではなく、時間や場所等の情報も入力でき、スケジュールを通知してくれる機能もあります。大事なことは赤で表示することもできます。」 S「赤で表示すると一目でわかりますね。」 T「予定は、1日、1週間、月ごとに見やすく変更することができますよ。」 S「私は1週間ごとのカレンダーが見やすいです。」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> </div> <p>4.スケジュールを管理するための手順を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(1)予定を決めるとき</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 予定を決めるときは必ずカレンダーでスケジュールを確認する。 <input type="checkbox"/> 予定が決まったらすぐにカレンダーアプリに、日にち、時間、場所等を入力する。 <p>(2)毎日スケジュールを確認する習慣を身に付けるには</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 提出物ファイルを確認する時間にカレンダーアプリを見て、明日の予定を確認する。 <input type="checkbox"/> 通知機能を使って確認する。 </div> <p>T「カレンダーアプリの使い方を覚えるだけではなく、記録したスケジュールを確認する習慣を身に付けることが大切です。まずは1日1回決まった時間に確認することから始めましょう。通知機能を使って確認することができますよ。」 S「提出物のファイルを夜の7時に確認しているので、同じ時間にカレンダーも確認します。今度の休みに友達と約束をしているので、早速やってみます。」</p>	<p>・教師が手本を見せたり、写真を用いた手順表を用いたりして使い方を伝える。</p>
終末	<p>5.本時の学習を振り返り、自己評価をする。</p>	<p>・次回の学習で取り組んだ結果や感想を確認することを伝える。</p>

生徒の実態



高等学校の2年生Dさんは、小学校入学前にアスペルガー症候群と診断されている。Dさんは、勉強が得意で理系の大学の中でも難関と言われる〇〇大学を目指している。知識も豊富にあり、化学に関する専門的な話をすることが好きで、理科の教師に積極的に関わっている。自分が興味のある話をしてくれる教師には関わろうとするが、その他の教科の教師とは自ら関わろうとはしない。

数学の授業中、問題が解けずに「分からない!」と言って大泣きし、なかなか泣き止まない姿が見られた。また、満点だと思っていたテストの点数が90点だと知ると、「このままじゃ〇〇大学に入れない!」と言って教室から飛び出してしまった。飛び出した後、教師が探しにいったところ、トイレに閉じこもって泣いていた。

学校生活の他の場面でも、自分の想定したとおりに物事が進まないと大泣きしたり、その場から飛び出してしまうたりする姿が見られる。Dさんと保護者それぞれと面談を行った際、Dさんからは「自分は何をやってもだめ。もう大学にも入れない。高校も辞めたい。」という話があり、保護者からは「最近、こだわりが強くなっている。将来、自分で生活していけるのか。」という不安の声も聞かれた。

収集した情報を自立活動の区分に即して整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
・完璧ではないことが許せない。(物事を0か100かで捉えている。)	・想定したとおりにならないと大泣きしたり、その場から飛び出したりする。	・自己肯定感が下がっている。	・その場の状況に応じた行動ができていない。	/	・好きな教科の教師に積極的に関わることができる。

年間指導目標

- ・不安になったときの対処方法や、困ったときに援助を求める方法を身に付けることができる。
- ・物事の捉え方によって感情や行動が変化することを理解することができる。

必要な項目の選定・指導内容の決定

	1 健康の保持	2 心理的な安定	3 人間関係の形成	4 環境の把握	5 身体の動き	6 コミュニケーション
(1)	生活のリズムや生活習慣の形成に関すること	情緒の安定に関すること	他者とのかかわりの基礎に関すること	保有する感覚の活用に関すること	姿勢と運動・動作の基本的技能に関すること	コミュニケーションの基礎的能力に関すること
(2)	病気の状態の理解と生活管理に関すること	状況の理解と変化への対応に関すること	他者の意図や感情の理解に関すること	感覚や認知の特性についての理解と対応に関すること	姿勢保持と運動・動作の補助的手段の活用に関すること	言語の受容と表出に関すること
(3)	身体各部の状態の理解と養護に関すること	障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること	自己の理解と行動の調整に関すること	感覚の保持及び代行手段の活用に関すること	日常生活に必要な基本動作に関すること	言語の形成と活用に関すること
(4)	障害の特性の理解と生活環境の調整に関すること		集団への参加の基礎に関すること	感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関すること	身体の移動能力に関すること	コミュニケーションの手段の選択と活用に関すること
(5)	健康状態の維持・改善に関すること			認知の行動のまがかりとなる概念の形成に関すること	作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること	状況に応じたコミュニケーションに関すること

通級による指導の展開例

具体的な指導内容	不安になったときの対処法を身に付ける。	自分の想定外のことが起きたときの気持ちの切り替え方を学ぶ。	物事の捉え方によって感情や行動が変わることを学ぶ。
----------	---------------------	-------------------------------	---------------------------

通常の学級における配慮

- ・泣き出したり飛び出したりする前に声を掛け、気持ちの切り替えを促す。出て行く際に教師に伝えてから行くようにする等、約束やルールを決めておく。
- ・生徒が決めた対処方法や援助方法を担任と通級指導担当教員で共有し、生徒が困った際に援助を行う。

学習内容① 「不安になったときの対処方法を身に付ける学習」

▶ 指導に当たって

- ・不安になったときの具体的な対処方法について教師と一緒に考える。
- ・自分で対処できない場合は援助を求めることも対処方法の一つであることや、助けがあれば解決できる場合があることを理解させる。

▶ 本時のねらい

- ・不安になったときにどのようにして対処するとよいのか理解することができる。(健・心・人)

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点									
導入	1.最近の学校生活の様子について話す。 2.本時の目標の確認をする。	・生徒の好きなことや興味のあるものに関する話題にすることで、雰囲気を和ませてから活動に入る。									
展開	<p>3.これまで不安になった場面を想起する。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>T 「Dさんはどんなときに不安になりますか。」 S 「思ったとおりにならないときに不安になります。」 T 「例えば？」 S 「予定が変わったり、勉強が分からなかったりしたときです。」 T 「友達のことか思ったとおりにならなかったことはありますか。」 S 「他の人が、自分がやってほしいことと別なことをしたときです。」 T 「そういうとき、どうしましたか。」 S 「どうしたらいいか分からなくて、困っています。教室を飛び出すこともあって・・・」 T 「それは大変でしたね。それでは、自分が困らないよう、それ以外の対処の方法と一緒に考えていきましょう。」</p> </div> <p>4.不安になったときの対処方法を考え、リストを作成する。</p> <div style="text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>対処方法リスト</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 20%;">どんなとき</th> <th style="width: 40%;">自分で対処できる場合</th> <th style="width: 40%;">自分で対処できない場合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>授業中、自力で問題が解けないとき</td> <td>・元素記号を心の中で言う。 ・深呼吸をする。 ・数を数える。</td> <td>・先生を呼ぶ。 ・保健室に行き、気持ちを落ち着かせる。</td> </tr> <tr> <td>友達とトラブルになったとき</td> <td>・水を飲みに行く。 ・やわらかいマスコットを握る。</td> <td>・その場から離れて気持ちを落ち着かせる。</td> </tr> </tbody> </table> </div> <div style="margin: 10px 0;"> <p>T 「授業中やその他の場面で困ったときにどうするか決めて、リストにしてみましょう。」</p> <p>T 「不安になったときに、自分で落ち着くことができる方法を考えましょう。私の場合はやわらかいマスコットを握ると落ち着きますよ。」 S 「私は化学が好きなので、元素記号を順番に言うと落ち着きます。」</p> <p>S 「授業中に問題が解けなくて困った場合はどうしたらいいでしょうか・・・。」 T 「その教科の先生を呼んで困っていることを伝えましょう。一人で解決できない場合は誰かに助けを求めましょう。助けを求めることは悪いことではなく、一人で解決できない場合の対処方法の一つです。」</p> <p>・先生を呼べない場合の合図を決めておき、教科担任と共有する。</p> </div> <p>5.リストの中から自分に合った対処方法を決める。</p> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>T 「作成したリストの中から自分に合った方法を決めましょう。」 S 「まずは授業中に不安になったら元素記号を唱えるようにします。マスコットはポケットの中に入れておきたいと思います。」 T 「分かりました。それでは、実際にやってみてどうだったか後で教えてください。」</p> </div>	どんなとき	自分で対処できる場合	自分で対処できない場合	授業中、自力で問題が解けないとき	・元素記号を心の中で言う。 ・深呼吸をする。 ・数を数える。	・先生を呼ぶ。 ・保健室に行き、気持ちを落ち着かせる。	友達とトラブルになったとき	・水を飲みに行く。 ・やわらかいマスコットを握る。	・その場から離れて気持ちを落ち着かせる。	
どんなとき	自分で対処できる場合	自分で対処できない場合									
授業中、自力で問題が解けないとき	・元素記号を心の中で言う。 ・深呼吸をする。 ・数を数える。	・先生を呼ぶ。 ・保健室に行き、気持ちを落ち着かせる。									
友達とトラブルになったとき	・水を飲みに行く。 ・やわらかいマスコットを握る。	・その場から離れて気持ちを落ち着かせる。									
終末	6.学習の振り返りと自己評価をする。	・本時の学習で気付いたことを自己評価カードに書かせる。次時の学習の見通しを持たせる。									

学習内容② 「気持ちの切り替え方について考える学習」

▶ 指導に当たって

- ・ 失敗や想定したとおりにならないことを過度に嫌がる。そこで日常生活の中で他者が失敗した場面を設定し、適切な行動を教師と一緒に考えることで気持ちを切り替えて行動する方法を理解させ、失敗に対する不安感を軽減させる。

▶ 本時のねらい

- ・ 想定したとおりにならなかったときの気持ちの切り替え方を知る。(健・心・環)

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点																				
導入	1. 前回学習した不安を軽減する方法について話す。 T 「前回学習した、不安を減らす方法を試してみましたか。」 S 「不安を感じたときに元素記号を心の中で唱えています。そうすると気持ちが少し楽になります。」 T 「それは良かったですね。他の方法も試してみましたか。」 S 「柔らかいマスコットを触って見たのですが、あまり効果はなかったです。元素記号を唱えたり深呼吸をしたりすることが自分に合っていました。」 T 「そうだったのですね。D さんに合う方法が見つかって良かったですね。」																					
展開	2. 本時の目標を確認する。 3. 想定したとおりにならない場面での気持ちの切り替え方を考える。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <こんなときどうする？> 高校2年生の K さんは、大好きなアニメ映画が公開されたので、日曜日に映画館に行こうと決めました。前日に上映時間を調べたり、着ていく服を用意したりと準備は万端でした。しかし、楽しみにしすぎて夜なかなか眠れませんでした。当日の朝、起きたときには予定していた上映時間が過ぎてしまいました。K さんは「今日は最悪な 1 日だ！」と、落ち込んでいます。 ○あなたはKさんに何と言ってアドバイスしますか。 </div> 4. 3で挙げられたことを図に表し、考え方や感情によってどのような結果がもたらされるか考える。 Kさんの1日を考えよう <table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 25%; text-align: left;"><出来事></th> <th style="width: 25%; text-align: left;"><考え方></th> <th style="width: 25%; text-align: left;"><感情・行動></th> <th style="width: 25%; text-align: left;"><結果></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>① 寝坊をしない</td> <td>→ 映画を見ることができる</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>② 寝坊をする</td> <td>→ 映画は見られない</td> <td>→ 「次の回で見られるかも。」と調べて出掛ける</td> <td>→ 次の回の映画を見ることができる</td> </tr> <tr> <td>③ 寝坊をする</td> <td>→ 映画は見られない</td> <td>→ 「映画はあきらめよう。」と他にやりたいことを考える</td> <td>→ 他に好きなことをして過ごした</td> </tr> <tr> <td>④ 寝坊をする</td> <td>→ 映画は見られない</td> <td>→ 「最悪な1日だ。」と落ち込む</td> <td>→ 何も手に付かず終わる</td> </tr> </tbody> </table>	<出来事>	<考え方>	<感情・行動>	<結果>	① 寝坊をしない	→ 映画を見ることができる			② 寝坊をする	→ 映画は見られない	→ 「次の回で見られるかも。」と調べて出掛ける	→ 次の回の映画を見ることができる	③ 寝坊をする	→ 映画は見られない	→ 「映画はあきらめよう。」と他にやりたいことを考える	→ 他に好きなことをして過ごした	④ 寝坊をする	→ 映画は見られない	→ 「最悪な1日だ。」と落ち込む	→ 何も手に付かず終わる	T 「K さんにどのようにアドバイスしますか。」 S 「私だったら、『まず、落ち着こう。』と声を掛けて、深呼吸したり飲み物を飲んだりするようアドバイスします。」 T 「前回学習した事をしっかり覚えていますね。まず気持ちを落ち着かせることが大事です。気持ちが落ち着いてきたら、次はどうしますか。映画はこの時間しか見ることができないのですか。」 S 「もしかしたら、他の上映があるかもしれないので調べて、あつたら出掛けるようアドバイスします。」 T 「次にもチャンスがあることを伝えてあげるのはですね。もし、この日の上映が他になくて見られなかったら、この日は最悪な日になってしまうのかな・・・。」 S 「映画を見ることができないのは残念ですが、他に好きなことをしたら楽しい日になると思います。」 T 「いい考えですね。私なら散歩をしますが、D さんだったら何をしますか。」 S 「私は好きな本を読みます。」
<出来事>	<考え方>	<感情・行動>	<結果>																			
① 寝坊をしない	→ 映画を見ることができる																					
② 寝坊をする	→ 映画は見られない	→ 「次の回で見られるかも。」と調べて出掛ける	→ 次の回の映画を見ることができる																			
③ 寝坊をする	→ 映画は見られない	→ 「映画はあきらめよう。」と他にやりたいことを考える	→ 他に好きなことをして過ごした																			
④ 寝坊をする	→ 映画は見られない	→ 「最悪な1日だ。」と落ち込む	→ 何も手に付かず終わる																			
終末	5. 本時の学習を振り返り、自己評価をする。	・ 本時の学習における良い気付きを認め、自信を付けさせる。																				

学習内容③ 「物事の捉え方によって感情や行動が変わることを理解する学習」

▶ 指導に当たって

- ・ 学校生活の中から、感情的になってしまった場面を想起させ、そのときの考え方、感情や行動を聞き取って図に表す。
- ・ 同じ出来事でも、それをどのように捉えるかによって感情や行動が変わるということに気付かせる。

▶ 本時のねらい

- ・ 感情や行動はそのときの考え方によって変わることを理解する。(心・人)

指導過程

段階	学習内容	指導上の留意点
導入	1.前時までの復習をする。 2.本時の目標の確認をする。	・失敗をしながらも成功することができた教師の体験を紹介する。
展開	3.不安になったときの出来事を想起し、その際の感情や行動を振り返る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>T 「以前、テストの点数が思っていたよりも低くて不安になったことがあると言っていました、そのときのことを教えてください。」 S 「数学のテストで90点だったとき教室を飛び出しました。その後トイレでずっと泣いていて…。」 T 「90点のテストを見て、何を考えましたか。」 S 「〇〇大学に入れなくて思いました。あと私はだめなやつだった。」 T 「その後、悲しい気持ちになったんですね。」</p> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>出来事 数学のテストで90点</p> </div> <div style="margin-right: 10px;">▶</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>考え方 ・大学に入れない ・だめなやつ</p> </div> <div style="margin-right: 10px;">▶</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>感情・行動 ・悲しい ・飛び出す</p> </div> <div style="margin-right: 10px;">▶</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>結果 数学の授業に参加できなかった</p> </div> </div> <p>4.考え方の見直しをする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>T 「〇〇大学はどのくらいの点数を取れば入れるのか、大学のホームページや入試の情報を調べてみましょう。」 T 「入りたい学部の入試は数学だけですか。」 S 「私の好きな化学もあります。合格ラインは〇〇〇点です。」 T 「Dさんは化学が得意ですからね。他の教科もこの調子で頑張れば、〇〇大学を目指せそうですね。」</p> </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>T 「さっきの図を使って考え方を見直してみましょう。『あと10点はどんな間違いをしたんだろう』に変えたらどうなりますか。」 S 「<やしいので、何が分からなかったのか調べると思います。」 T 「弱点が分かってよかった。苦手なところを勉強しようなどにも変えられそうですね。学習にも参加できますよ。」</p> </div> <div style="display: flex; align-items: center; margin: 10px 0;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>出来事 数学のテストで90点</p> </div> <div style="margin-right: 10px;">▶</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>考え方 あと10点はどんな間違いをしたんだろう</p> </div> <div style="margin-right: 10px;">▶</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-right: 10px;"> <p>感情・行動 ・<やしい ・苦手なところを勉強しよう</p> </div> <div style="margin-right: 10px;">▶</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>結果 数学の授業に参加できた</p> </div> </div>	<p>・生徒から聞き取りを行いながら、出来事、考え方、感情や行動をそれぞれ図に表していく。</p> <p>・図を使いながら、悲しくなったり飛び出したりしてしまったのは、否定的な考え方から出たものだということを伝える。</p> <p>・一つの考え方だけではなく、いろいろな考え方があることに気付かせる。</p> <p>・考え方によって感情や行動が変わるということに気付かせる。</p>
終末	5.本時の学習を振り返り、自己評価をする。	・いろいろな考え方があることに気付けたことを認め、自信を付けさせる。

4

校内支援体制を 整備する

- 1 校内支援体制・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
- 2 通級による指導開始までのプロセス・・・・・・・・・・3
- 3 中学校との連携・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・5
- 4 通級指導担当教員とホームルーム担任,教科担任との連携・・・・・・・・6
- 5 通級指導担当教員と保護者との連携・・・・・・・・・・7
- 6 校内支援体制の整備・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・8

通級による指導は、直接指導をする通級指導担当教員のみが役割を担うのではなく、組織的な校内支援体制づくりが大切です。校内支援体制の中心となる組織が校内委員会です。通級による指導に関する校内委員会は、管理職や通級指導担当教員、特別支援教育コーディネーター、生徒指導主事、教務主任、学年主任、ホームルーム担任、養護教諭等の他に、卒業後の進路に向けて進路指導主事が加わることが考えられます。

この章では特別支援教育に関わる校内委員会（特別支援教育委員会等の名称で各学校に設置されている）を中心とした校内支援体制について説明します。第2章の例のように、既存の特別支援教育委員会の下部組織として、通級指導委員会等の小委員会を置いている学校もあります。

(1)校内委員会の役割

- 児童等の障害による学習上又は生活上の困難の状態及び教育的ニーズの把握。
- 教育上特別の支援を必要とする児童等に対する支援内容の検討。
(個別の教育支援計画等の作成・活用及び合理的配慮の提供を含む。)
- 教育上特別の支援を必要とする児童等の状態や支援内容の評価。
- 障害による困難やそれに対する支援内容に関する判断を、専門家チームに求めるかどうかの検討。
- 特別支援教育に関する校内研修計画の企画・立案。
- 教育上特別の支援を必要とする児童等を早期に発見するための仕組み作り。
- 必要に応じて、教育上特別の支援を必要とする児童等の具体的な支援内容を検討するためのケース会議を開催。
- その他、特別支援教育の体制整備に必要な役割。

〔発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン〕平成 29 年 文部科学省]より

(2)校内支援体制例



- 特別支援学校
センター的機能
- 福祉施設, 医療機関
支援の方法について助言
- 就労支援機関
就労に関しての連携・協力
- SSW, SC
家庭との連携
支援の方法について助言
- 保護者
生徒に関して情報共有

(3)校内委員会の構成例

	校内委員会における主な役割
校長	<ul style="list-style-type: none"> ○ 校内における特別支援教育の推進 ○ 通級指導担当教員の指名 ○ 特別支援教育コーディネーターの指名
副校長・教頭	<ul style="list-style-type: none"> ○ 通級による指導に関わる支援体制の整備 ○ 外部の関係機関との連絡調整
通級指導担当教員	<ul style="list-style-type: none"> ○ 通級による指導における指導内容の検討・実施・評価 ○ 生徒への支援について、情報を提供 ○ 個別の教育支援計画, 個別の指導計画の作成 ○ 特別支援教育コーディネーターとの連携
特別支援教育コーディネーター	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学校内の関係者との連絡調整 ○ 生徒の実態把握と情報収集 ○ 通級による指導に関わる校内研修の企画 ○ 校内支援委員会, ケース会議等の開催 ○ 保護者との連携の窓口 ○ 外部の関係機関との連絡調整 ○ 個別の教育支援計画, 個別の指導計画の作成
教務主任	<ul style="list-style-type: none"> ○ 特別の教育課程の編成 ○ 研修会, 面談等の日程調整
進路指導主事	<ul style="list-style-type: none"> ○ 進路先との引継ぎ ○ 進路先について, 生徒や保護者に情報提供 ○ 在学中に身に付ける力について, 教員に情報提供
生徒指導主事	<ul style="list-style-type: none"> ○ 不適応行動の背景に発達障害等が関係していないか把握 ○ 生徒や保護者の相談
学年主任	<ul style="list-style-type: none"> ○ 教科担任, ホームルーム担任からの情報収集, 情報提供 ○ 中学校との引継ぎ ○ 保護者との面談に参加し, 情報提供
養護教諭	<ul style="list-style-type: none"> ○ 生徒の心身の健康状態を把握 ○ ホームルーム担任や学年主任と情報を共有 ○ 生徒や保護者の相談, 保健室での支援

4 校内支援体制を
整備する

2 通級による指導開始までのプロセス

生徒や保護者と合意形成を図ったり、校内委員会で指導内容を検討したりする等、通級による指導を開始する際には複数の教員が関わることになります。

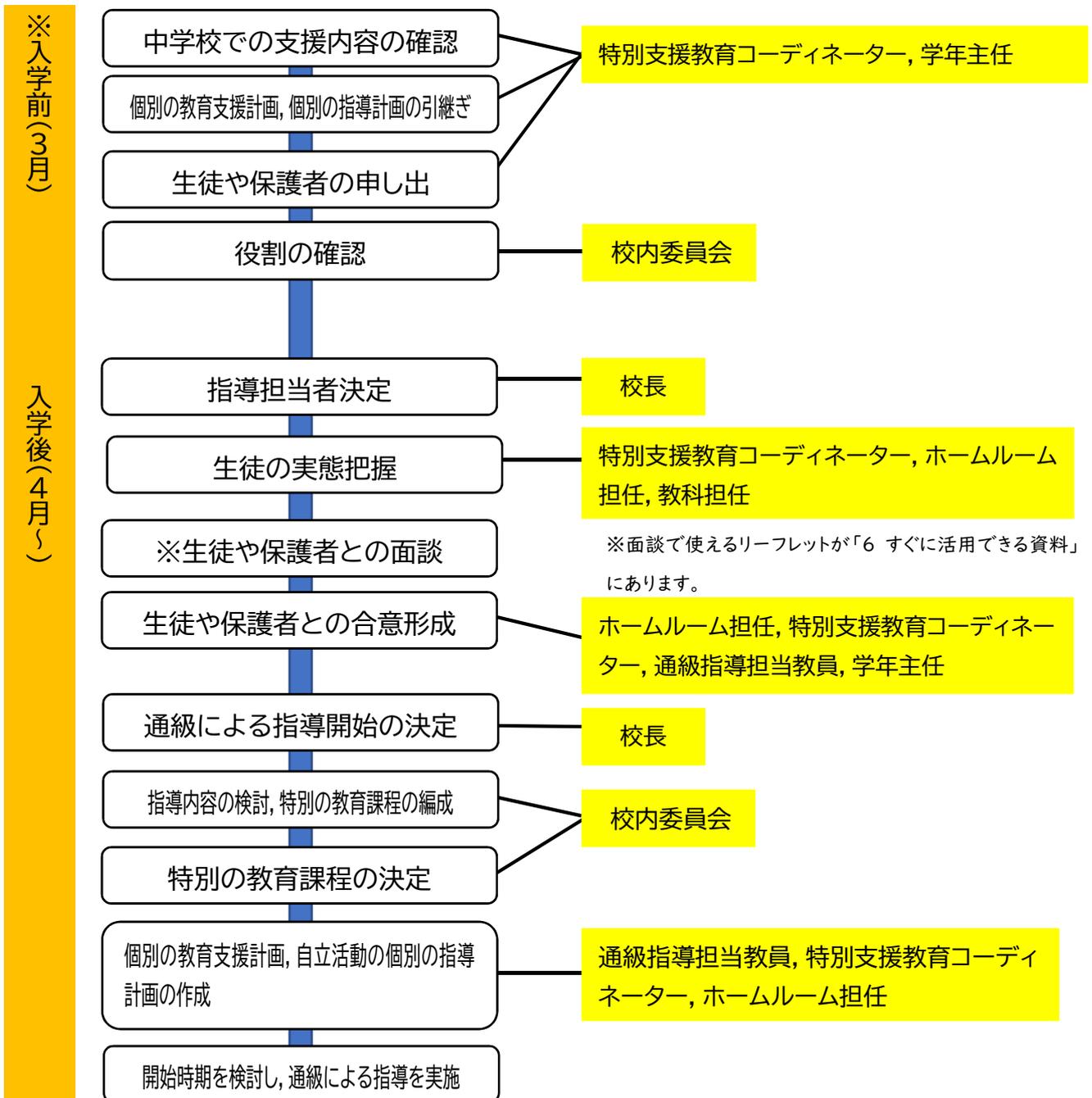
どの段階で、誰がどのような役割を担うかを明確にすることで、より組織的な指導や支援につなげることができます。

通級による指導を開始するに当たってのプロセスを示しましたので、一つの例として参考にしてください。

※入学前に中学校訪問などの機会を利用して支援が必要な生徒の情報が得られた場合を想定して作成しています。実際には入学後からスタートする場合があります。

(1) 中学校で支援を受けてきた生徒の例

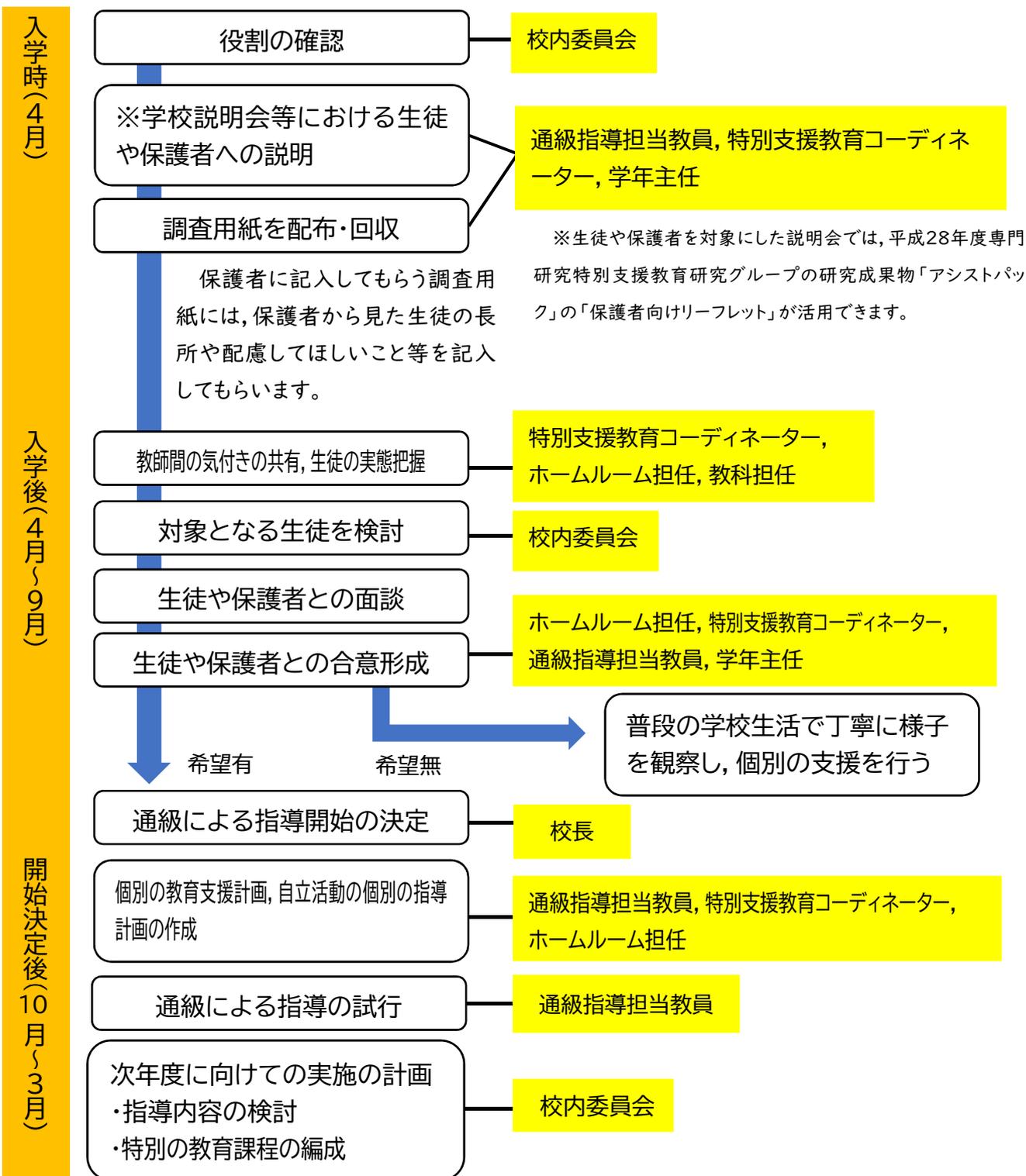
校内支援体制を整備する



(2)高等学校で通級による指導を開始する生徒の例(試行を行って翌年に指導を開始する場合)

高等学校で初めて通級による指導を開始する場合、校内委員会で対象生徒の検討を行います。支援の希望があった生徒や、実態把握を行い支援が必要とされた生徒が対象になります。まず、通常の学級の中で適切な指導と配慮を行い、それだけでは十分ではない場合に通級による指導を実施するという事を教員間で共通理解しておくことが大切です。

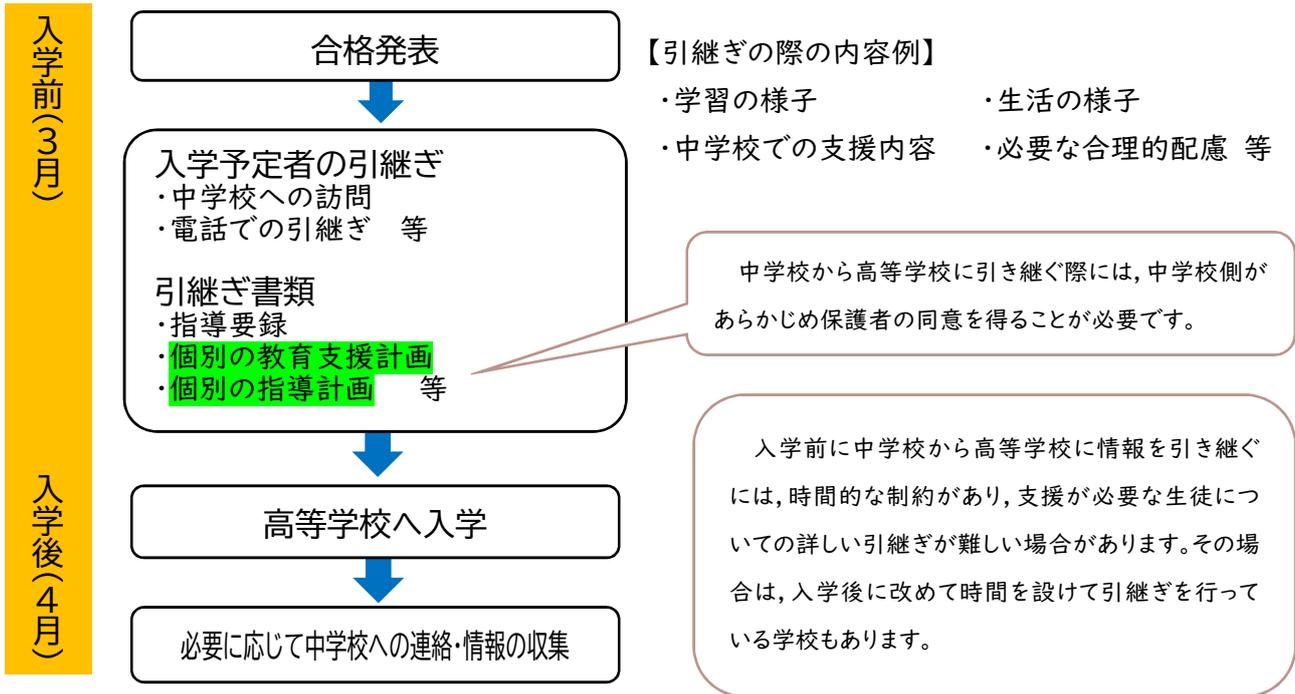
検討後、生徒や保護者との合意形成を行い、通級による指導を開始します。



校内支援体制を整備する

支援を必要とする生徒について、出身中学校と情報交換を行うことによって、通常の学級での適切な支援や、生徒の実態把握につなげます。中学校から個別の教育支援計画や個別の指導計画を引き継いだ場合には、生徒の状況やこれまで行われてきた支援、指導の成果や課題等が把握できるほか、高等学校で行う通級による指導の具体的な指導内容や支援方法を検討する際の材料の一つになります。

引継ぎの例



校内支援体制を整備する

全国の連携例

- 中学校及び高等学校の関係者による中高連携会議を開催し、学校間での共通理解や情報交換を行った。
- 中高引継ぎシートを作成し、進学時の引継ぎにおいて活用を図った。
- 保護者の希望により、高等学校入学後、中学校、高等学校それぞれの特別支援教育コーディネーターと担任、保護者で引継ぎを行った。

〔「発達障害の可能性のある児童生徒に対する連携支援事業(系統性のある支援研究事業)実践事例集」平成30年文部科学省〕より作成

宮城県の連携例

- 高等学校から中学校を訪問し、口頭で引継ぎを行った。
- 学校独自に引継ぎシートを作成し、引継ぎを行った。
- 仙台市内の中学校出身の生徒は「中高連携サポートシート」を活用して引継ぎを行った。
- 個別の教育支援計画や個別の指導計画の引継ぎを行った。

〔高等学校における特別支援教育に関するアンケート〕より作成

4 校内支援体制を整備する

4 通級指導担当教員とホームルーム担任、教科担任との連携

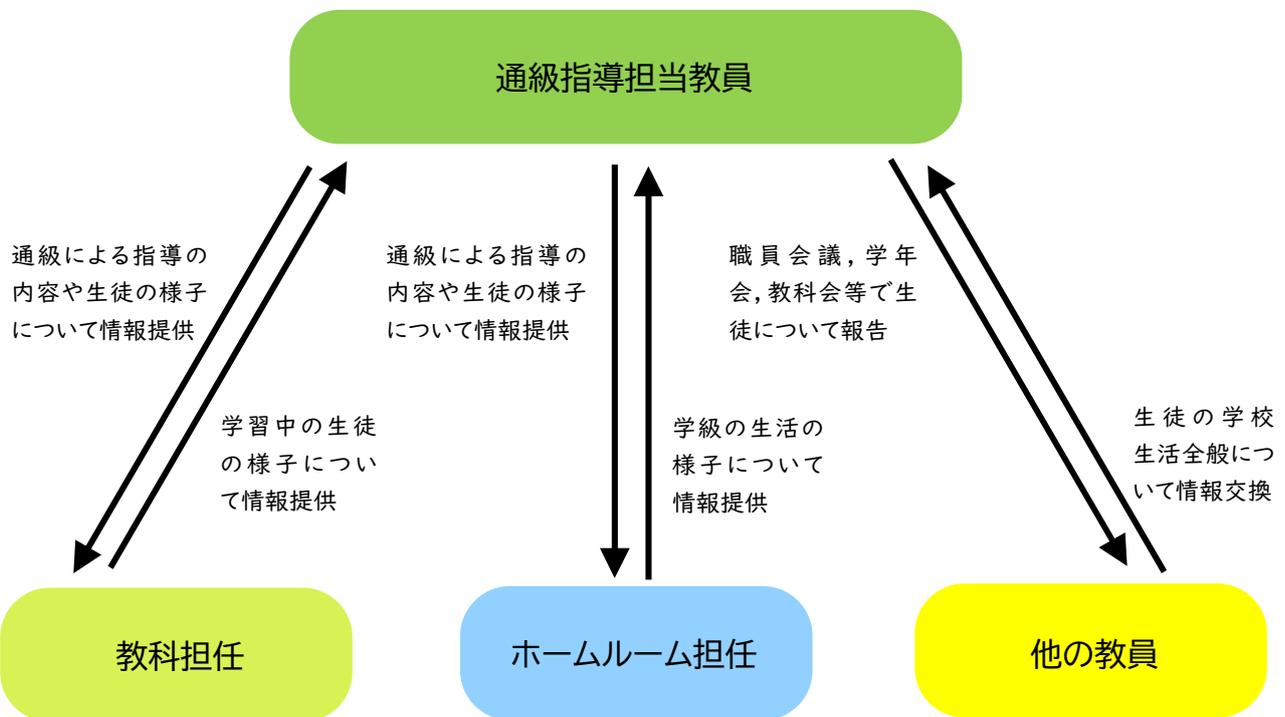
通級による指導と通常の学級における指導が共に効果的に行われるために、日頃から連携を図っていくことが大切です。

ホームルーム担任や教科担任に通級による指導の内容を伝えたり、通常の学級の様子を聞いたりする等、情報交換を行っていきます。

他の先生方との情報を共有する際には、「指導の記録シート」を活用することも有効です。

巡回指導や他校通級で、担任等との話合いの時間の確保が難しい場合、連絡の手段としても活用できます。

➡ 指導の記録シート 6「すぐに活用できる資料」



教科担任、ホームルーム担任との連携の工夫例

- 「指導の記録シート」に指導内容を記入し回覧する。
- 生徒が学習したプリント等をファイリングし、各教科担任に見てもらう。
- 通級指導担当教員が在籍学級を訪問して授業参観を行う。(事前に生徒の同意が必要)
- 各教科担任やホームルーム担任との連絡会を定期的を開催し、通級による指導の内容や通常の学級での取組について情報交換を行う。
- 各教科担任やホームルーム担任に通級による指導の指導場面を参観してもらう。

「発達障害を含む障害のある幼児児童生徒に対する教育支援体制整備ガイドライン」(H29.3 文部科学省)には、以下のように示されています。

〈第5部 保護者用〉

子供の教育で不安なことや子供が困っていることがあれば、学校と相談し、子供の教育のために学校と協力して取り組む(協働する)ことで、子供の困っていることや不安を軽減することにつながります。

通級による指導においても、保護者との継続した連携が大切です。通級指導担当教員が日頃から通級による指導の内容や経過等を保護者に伝え情報を共有していくこと、定期的に面談を行い、生徒の変容や今後の目標を伝えること等が考えられます。

保護者との連携の方法(例)

面談、
教育相談時

- 「保護者用リーフレット」を使って、通級による指導について説明する。



保護者用リーフレット 6「すぐに活用できる資料」

- 生徒についての聞き取りを行う。
(通級指導担当教員, 特別支援教育コーディネーター, 学年主任, ホームルーム担任)

【共通理解を図る内容例】

- ・保護者の願い
- ・生育歴
- ・相談歴
- ・診断名
- ・得意なこと, 苦手なこと
- ・必要な合理的配慮 等

通級による
指導実施時

- 「保護者連絡シート」を使って、通級による指導の内容や生徒の変容を伝える。



保護者連絡シート 6「すぐに活用できる資料」

- 面談等を利用して、保護者と情報の交換や共有を行う。

【面談の際の内容例】

- ・生徒の変容について
- ・今後の指導内容について
- ・協力をお願いする点について

通級による
指導終了時

- 面談等で終了の目安や生徒の状況を保護者に伝え、保護者との合意形成の上で指導を終了する。
- 終了後の通常の学級における支援の内容について知らせる。

【面談の際の内容例】

- ・生徒の学校や家庭で見られる様子の変化について
- ・通級による指導終了後の支援体制について

ここでは、通級による指導の導入に向けて校内支援体制をどのように整備しているのかについて、本県の高等学校で実際に行われている事例を紹介します。

(1) 通級による指導に関わる委員会を組織した例

通級による指導を導入している高等学校では、通級指導担当教員以外にも生徒に関わる教職員がそれぞれの立場から生徒を支援することで連携を図り、通級指導教室を運営しています。本県の A 校が通級による指導の導入の準備段階から校内支援体制をどのように整備していったのかを一例として紹介します。



通級指導担当教員

本県の A 校では、「通級指導準備委員会」を立ち上げ、通級による指導の導入に向けての準備を行っていました。そのメンバーと役割を図1に示しました。教務主任がメンバーに入ることによって特別の教育課程や評価規定等の見直しの作業をスムーズに進めることができました。

図1 A校における通級指導準備委員会のメンバーと主な取組

- 【構成メンバー】
 - ・特別支援教育コーディネーター ・1学年主任 ・教務主任
- 【主な取組】
 - ・自立活動の科目名の考案
 - ・自立活動を受講する生徒の決定までの手順の取決め
 - ・特別の教育課程の編成
 - ・教職員対象の校内研修会や生徒対象の講話等の実施計画の立案
 - ・授業のユニバーサルデザイン化の導入計画の立案

[A高等学校「通級による指導」実践報告]より

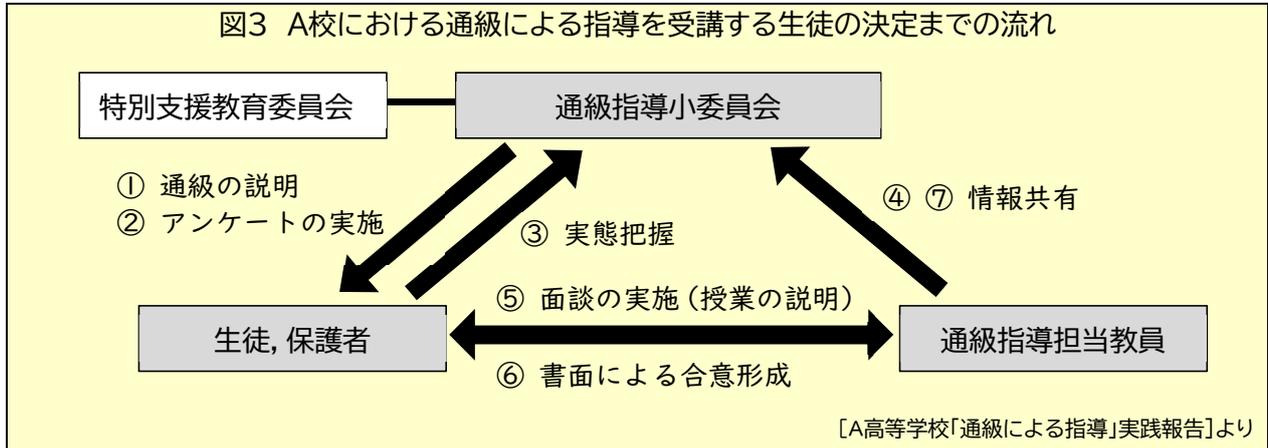
通級による指導を導入してからは「通級指導小委員会」を設置し、通級による指導に関わる協議や情報交換の場として活用していました。この委員会のメンバーと役割を図2に示しました。特別支援教育委員会の下部組織として編成し、機動性を重視するため、人数を最小限に抑えていました。進路指導主事をメンバーにし、大学等の受験における配慮や障害者雇用などを希望する生徒への対応を取りやすくすることができま

図2 A校における通級指導小委員会のメンバーと主な取組

- 【構成メンバー】
 - ・特別支援教育コーディネーター ・学年主任 ・教務主任 ・進路指導主事 ・通級指導担当教員
- 【主な取組】
 - ・通級による指導に関する生徒、保護者への説明および、アンケートによる実態調査の実施
 - ・自立活動を受講する生徒の決定までの情報共有
 - ・特別の教育課程の編成についての助言
 - ・教職員対象の校内研修会や生徒対象の講話等の実施計画の立案
 - ・授業のユニバーサルデザイン化に関する提案と教職員への助言
 - ・通級による指導を受講する生徒の進路に関する情報共有
 - ・「A高等学校『通級による指導』実施要綱」や各種書類の様式の作成及び必要な改正に関する提案

[A高等学校「通級による指導」実践報告]より

また、通級指導小委員会は図3に示す手順で通級による指導を受ける生徒を決定していました。実態把握の段階では生徒や保護者にアンケートを実施し、人間関係の形成やコミュニケーションに対する生徒や保護者が抱える困り感を把握していました。実態把握の結果を通級指導小委員会で共有し、困り感を抱えている生徒一人一人について通級による指導の必要性を検討し、候補者として選定していました。その後、生徒や保護者と面談を実施し、生徒や保護者の困り感の聞き取りや通級による指導の説明を丁寧に行い、合意形成を図っていました。その際、通級による指導の効果を考慮し、生徒本人が通級による指導の必要性を感じ、希望していることを大切にしていました。

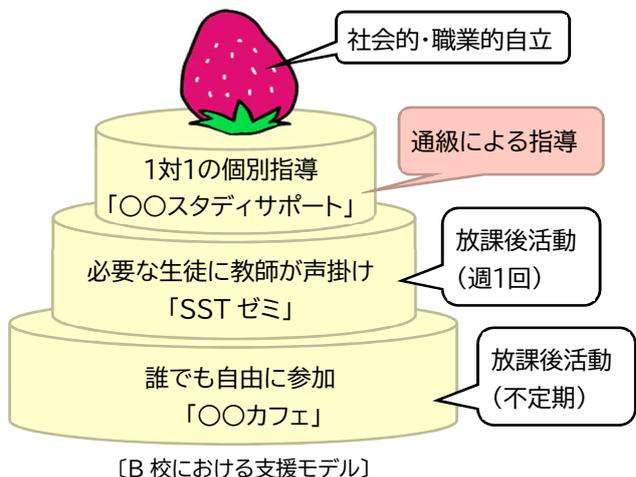


(2) 支援を必要とする生徒に対して3つの活動を通して支援を行っている例

支援を必要とする生徒が多く在籍している学校では、先生方が支援の必要性を実感し、通級による指導の対象生徒だけではなく、支援を必要とするすべての生徒に対して様々な取組を工夫しています。その工夫と通級による指導との関係について本県のB校が行っている取組を一例として紹介します。



本県のB校では、支援を必要とする生徒に対して3つの取組を行っています。1つ目は、生徒が誰でも自由に参加できる学校カフェです。放課後、不定期に学校図書館をカフェとして開放し、教師や生徒が一緒に好きな飲み物を飲んだりゲームをしたりしながら、生徒の居場所づくりを行っています。その中で生徒は自然にコミュニケーションスキルやマナーを身に付けていくとともに、対人関係やコミュニケーションに課題があることに気がきます。2つ目の「SST(ソーシャルスキルトレーニング)ゼミ」は、対人関係やコミュニケーションに課題のある生徒に教師が声を掛け、週1回放課後にグループでソーシャルスキルトレーニングに取り組んでいます。「SSTゼミ」を実施し、更に個別での支援を必要とする生徒に対して通級による指導として「〇〇スタディサポート」を実施しています。「〇〇スタディサポート」では、生徒の個別の課題に対応した指導を進路と関連付けながら行っていました。これらの活動を通して生徒が自分自身の課題に気付くことができます。



5

新たな道を拓く 進路指導

- 1 進学に向けての支援・・・・・・・・・・1
- 2 就職に向けての支援・・・・・・・・・・5

支援が必要な生徒が大学や専門学校等に進学を希望している場合、特別支援教育コーディネーター、通級指導担当教員、ホームルーム担任が、進路指導部と連携して支援を行います。

現在、大学においては、学生支援室を中心に支援体制が充実してきています。入学試験時に障害のある受験生に対して配慮を行ったり、入学が決定した後に、本人や保護者との面談を行い、合理的配慮等について合意形成を図ったりしている大学もあります。支援が必要な学生のための相談窓口がある大学が増えているので、生徒自身が相談窓口に行くことができるように指導したり、生徒と保護者の承諾を得て、情報の引継ぎをしておいたりすることが大切です。

(1)志望校決定や入学試験に向けての支援

○ 将来の目標の明確化

- ・進学の目的を持ち、学びたい分野を明確に持てるよう支援する。
- ・自分の興味や特性に合った分野は何か気付けるよう支援をする。

○ 学力の把握と自己理解

- ・学力の実態を客観的に示し、自分の学力を正しく認識できるように支援する。
- ・自分の得意・不得意について考えさせ、自分に合った進学先を決められるよう支援する。

○ 各大学の合理的配慮事項の確認

- ・志望大学の募集要項を集め、各大学で実施している配慮事項例と一緒に確かめる。
- ・大学説明会やオープンキャンパスに参加する前に、大学生活の相談窓口はどこにあるのか、どのようになれば相談できるのかを教師が生徒と一緒に確かめる。

○ 配慮事項の確認、申請

- ・大学入学共通テストや各大学の手続きに従って、配慮申請を進路指導部と連携しながら行う。

「将来の目標の明確化」や「学力の把握と自己理解」に関しては、専門学校等に進学する生徒にも必要な支援です。

(2)大学入試共通テストにおける「発達障害に関する配慮事項」

対象となるもの	全ての科目において配慮する事項(例)
学習障害、注意欠陥多動性障害、自閉症、アスペルガー症候群、広汎性発達障害等のため配慮を必要とする者	<ul style="list-style-type: none"> ・試験時間の延長(1.3倍) ・チェック解答 ・拡大文字問題冊子(14ポイント)の配付 ・拡大文字問題冊子(22ポイント)の配付 ・注意事項等の文章による伝達 ・別室の設定 ・試験室入口までの付添者の同伴 等

〔令和3年度大学入学共通テストにおける受験上の配慮事項〕独立行政法人大学入試センター〕より作成

必要書類

- ・受験上の配慮申請書
- ・診断書(当該障害に関するもの)
- ・状況報告書(高等学校が記載)

状況報告書には、配慮が必要である具体的理由や高等学校等でこれまで行った配慮等について記入します。

(3)大学進学に向けての支援の例

	大学入学共通テスト	個別試験	生徒への支援
7月	受験上の配慮案内を入手	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 国公立大学 一般入試や特別入試等,各入試の配慮事項や大学進学後の支援を事前に大学に相談 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 私立大学 一般入試や特別入試等,各入試の配慮事項や大学進学後の支援を事前に大学に相談 </div> </div>	募集要項を集め,各大学の配慮事項を教師と一緒に確認
8月	受験上の配慮の申請(出願前) (8月上旬から9月下旬まで)		
9月	受験上の配慮の申請(出願時) (9月下旬から10月上旬まで)	総合型選抜の配慮申請と配慮事項決定通知書受取の時期は,各大学の設定する出願と試験の日程により多岐にわたる。 (合格発表も11月以降,順次行われる)。	願書記入の指導
10月			
11月	受験上の配慮事項審査結果通知書の受取 ※出願前申請をした者のみ(11月下旬まで)	学校推薦型選拔出願(11月以降) 合格発表(12月以降)	願書記入の指導
12月	受験票および受験上の配慮事項決定通知書の受取(12月中旬まで)	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">前・中・後期試験配慮申請</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">配慮申請</div> </div>	共通テスト実施校との配慮事項に関する打合わせ(12月)
1月	共通テスト受験	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">前・中・後期試験願書受付</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">願書受付</div> </div>	願書記入の指導
2月		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 前期日程試験 合格発表・入学手続 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%; text-align: center;"> 一般選抜 (1月下旬~2月上旬) </div> </div>	
3月		<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;"> 中・後期日程試験 合格発表・入学手続 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: 45%;">合格発表 入学手続</div> </div>	進学先のオリエンテーションの日程や課題提出のスケジュールの確認 大学生生活の見通し 新生活の準備の仕方

通級による指導で取り組む支援の例

- ・返事や挨拶,時間を守ること,整理整頓をすること,身だしなみを整えること等について指導する。
- ・一人暮らしを始めることも考えられるので,金銭管理に関する指導や生活リズムを整える支援等を行う。

(4)県内の大学における支援の必要な学生への対応

(ホームページで公開されている情報を元に作成)

【A大学】

(1) 物理的環境への配慮の具体例

- ・障害の特性により、授業中、頻回に離席の必要がある学生等について、座席位置を出入り口の付近に確保すること。
- ・易疲労状態の障害者からの別室での休憩の申し出に対し、休憩室又は休憩スペースの確保に努めること。

(2) 意思疎通の配慮の具体例

- ・シラバスや教科書・教材等の印刷物にアクセスできるように、学生等の要望に応じて電子ファイルや拡大資料等を提供すること。
- ・聞き取りに困難のある学生等受講している授業で、ビデオ等の視聴覚教材に字幕を付与して用いたり、補足説明を加えたりすること。
- ・授業中教員が使用する資料を事前に提供し、事前に一読したり、読みやすい形式に変換したりする時間を与えること。
- ・事務手続きの際に、教職員や支援学生が必要書類の代筆を行うこと。
- ・障害のある学生等で、視覚情報が優位な者に対し、手続きや申請の手順を矢印やイラスト等で分かりやすく伝えること。
- ・口頭の指示だけでは伝わりにくい場合に、指示を書面で伝えること。
- ・授業でのディスカッションに参加しにくい場合に、発言しやすいような配慮をしたり、テキストベースでの意見表明を認めたりすること。
- ・入学試験や定期試験又は授業関係の注意事項や指示を、口頭で伝えるだけでなく紙に書いて伝達すること。

(3) ルール・慣行の柔軟な変更の具体例

- ・入学試験や定期試験において、個々の学生等の障害特性に応じて、試験時間を延長したり、別室受験や支援機器の利用、拡大文字の使用を認めたりすること。
- ・外部の人々の立入りを禁止している施設等において、介助者等の立入りを認めること。
- ・大学行事や講演、講習、研修等において、適宜休憩を取ることを認めたり、休憩時間を延長したりすること。
- ・障害のある学生等が参加している実験、実習等において、特別にティーチングアシスタント等を配置すること。
- ・ICレコーダー等を用いた授業の録音を認めること。
- ・授業中、ノートを取ることが難しい学生等に、板書を写真撮影することを認めること。
- ・感覚過敏等がある学生等に、サングラス、イヤーマフ、ノイズキャンセリングヘッドフォン等の着用を認めること。
- ・教室内で、講師や板書・スクリーン等に近い席を確保すること。
- ・入学時のガイダンス等が集中する時期に、必要書類やスケジュールの確認などを個別に行うこと。
- ・障害のある学生等の求めに応じて、事務窓口での同行の介助者の代筆による手続きを認めること。

【B大学】

(1) 修学に関する支援

- ・履修登録・事務手続きに関する配慮 ・教室や座席の配慮 ・教材の配慮
- ・コミュニケーションに関する配慮 ・公平な試験や成績評価 ・講義内容の情報保障
- ・講義担当教員への配慮依頼文章の作成・伝達

(2) 大学生活に関する支援

- ・施設整備 ・情報保障

(3) 本学教職員, 学生への啓発

- ・教職員会での研修会 ・リーフレット配布 ・ピアサポーターの養成と活動実施

【C大学】

(1) 修学上の支援

- ・授業・定期試験に関する合理的配慮の調整 ・授業担当教員へ配慮事項を文書で伝達
- ・教材の配慮 ・教室割の配慮調整 ・個別面談 等

(2) 学生生活支援

- ・事務手続きに関する配慮の調整 ・施設整備に関する配慮の調整 等

(3) 各部局との連携状況

- ・各学科, 各授業担当教員 ・事務局(学生課, 教務課, キャリアサポートセンター, 管理課)等

【D大学】

(1) 入学前相談

- ・事前相談 ・面談や施設見学 ・受験及び修学上の特別措置

(2) 個別面談

- ・学部担当教員, 事務課職員との面談, 修学上必要となる支援内容の検討

(3) 修学に関する支援

- ・教員への配慮事項の伝達 ・試験時の配慮

(4) 大学生活に関する支援

- ・学生生活上の悩みや相談事について, カウンセリング

(5) 進路・就職に関する支援

- ・希望する進路先や個々の状況の聞き取り ・インターンシップや会社見学

本県の高等学校における進学先との連携例

- 問い合わせがあった場合に保護者の了解のもと配慮事項や学校での生活の様子などを情報提供した。
- 担任・SC・SSWからの電話や文書による情報交換を行った。
- 本人, 保護者, 進路指導部と相談しながら, 情報共有が必要かどうか検討し, 必要に応じて進学先に情報を伝えた。
- 個別の教育支援計画を作成し, 大学側と情報を共有した。

[高等学校における特別支援教育に関するアンケート]より作成

支援が必要な生徒が就職を希望している場合、特別支援教育コーディネーター、通級指導担当教員、ホームルーム担任が、進路指導部や外部の相談機関、就労支援機関等と連携して支援を行います。

就労支援のポイント

- 本人の特性に応じて、自分に合った職業を見付けられるように支援する。
- 生徒や保護者の思いを傾聴し、就きたい仕事について一緒に考えていく。
- 相談機関や就労相談機関と情報交換を行いながら、生徒の支援にあたる。
- 就労体験実習や企業見学を複数実施し、体験的理解ができるようにする。
- 特別支援教育コーディネーターが中心となって、ホームルーム担任や進路指導主事と情報共有し、就労支援を行っていく。

(1)就労の方法

支援を必要とする生徒の就職については、一般雇用のほか「障害者雇用の促進等に関する法律」に基づく「障害者雇用枠」を利用した就労もあります。一般就労の他に、一般企業で働くことが難しい場合等に福祉サービスを受けながら就労する「福祉的就労」があります。

就労の方法を決める際には、生徒や保護者と十分に検討し、合意形成を図ることが大切です。

一般就労	<p>(1)一般雇用 一般の企業や役所などに、一般の従業員として雇用される。発達障害を開示せずに就労。</p> <p>(2)障害者雇用 障害者雇用の枠組みで雇用される。障害をあらかじめ開示して就労。</p>
福祉的就労	一般企業で働くことが難しい場合等に福祉サービスを受けながら就労。

障害者雇用の対象となるのは、障害者手帳を持っている人です。発達障害の場合は、「精神障害者保健福祉手帳」になります。障害者手帳を所持している人は、一般雇用枠、障害者雇用枠どちらにも応募することができます。障害者雇用によって、就職先の理解が得られ、労働時間の調整等の合理的配慮や支援を受けることができます。しかし、応募できる求人が限られたり正社員での採用が少なかったりする場合もあります。障害者手帳の取得を希望する場合には、発行に時間が掛かるので、できるだけ早い段階からの手続きが必要です。

	メリット	デメリット
障害者雇用	<ul style="list-style-type: none"> ・働きやすい環境が整っている。 ・就労定着率が高い。 ・就職先での理解が得やすい。 ・合理的配慮が受けられる。等 	<ul style="list-style-type: none"> ・応募できる求人が限られる。 ・正社員での採用が少ない。 ・給料が低くなる場合がある。等

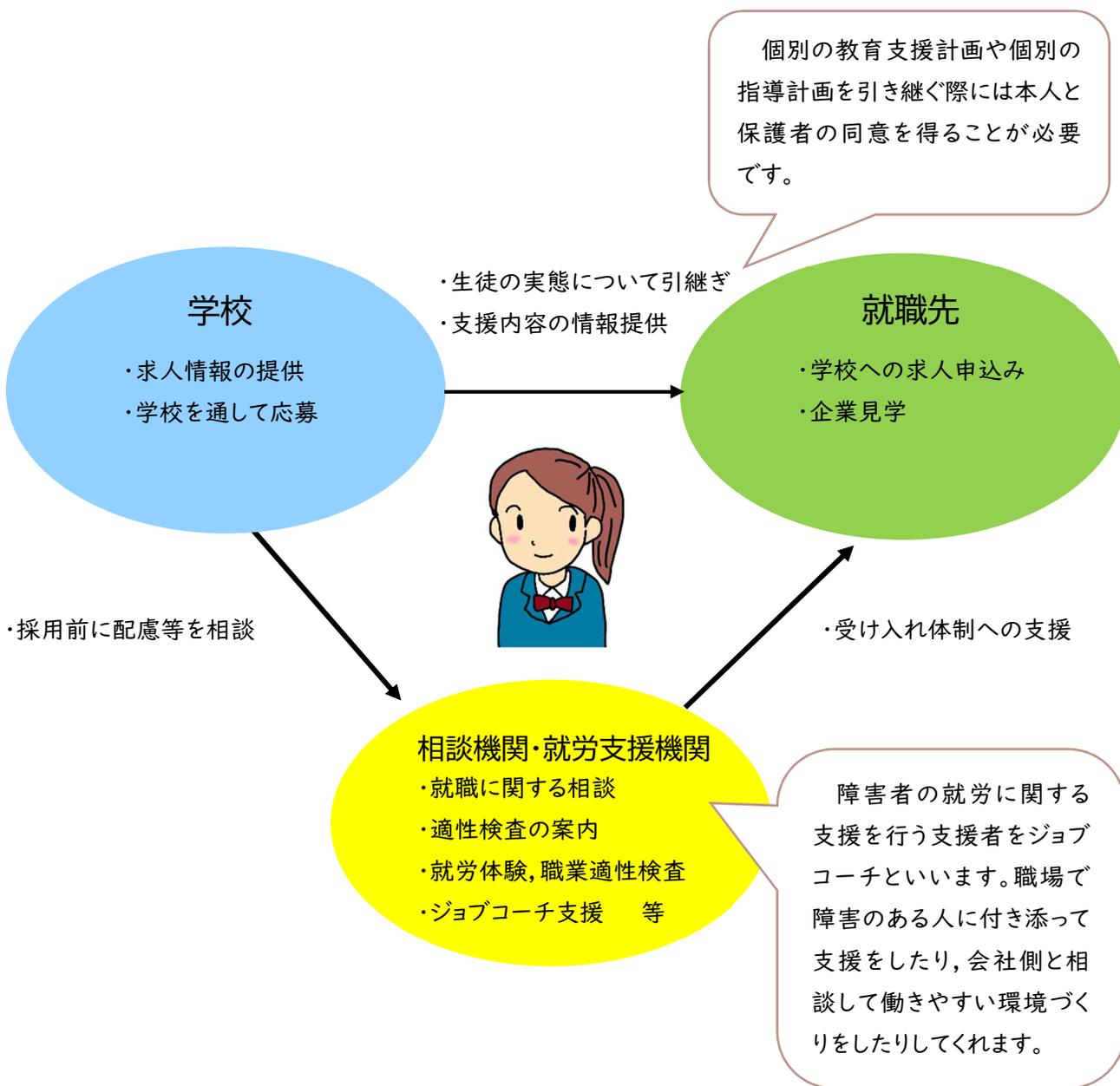
(2)相談機関, 就労支援機関との連携

支援を必要とする生徒は、就職に向けてのルールやマナーがなかなか身に付けられない場合があります。また、自分に合わない仕事に就いてしまい離職や退職をしたり、悩みながら仕事を続けたりすることもあります。

就職に向けた支援を行うに当たっては、就職することのみではなく、働き続けることを視野に入れた支援の視点が大切です。

必要に応じて専門機関や相談機関とも連携し、就職に向けての支援を行うことも考えられます。相談機関や就労支援機関では、生徒や保護者の相談を聞き、どんな仕事に向いているかといった具体的なアドバイスをしたり、適性に合った仕事を紹介したりします。

相談機関, 就労支援機関との連携例



主な相談機関

- 発達障害者支援センター
 発達障害等のある生徒や保護者をサポートする機関です。発達障害の診断を受けている人だけでなく、発達障害等の可能性がある人も窓口で相談することができます。就労支援機関を紹介してもらえます。
- 公共職業安定所(ハローワーク)
 就職に関する相談や就労支援サービスを行っています。発達障害等のある人に対する専用の相談窓口もあります。より専門的な支援が必要な場合には、発達障害者支援センターや障害者職業センター等の関係機関と連携した就職支援を行います。

主な就労支援機関

- 障害者職業センター
 発達障害等のある人の就労支援機関です。就労に関する相談に応じるとともに、職業能力等を評価したり、職業準備支援等を行ったりします。また、就労に関する支援者(ジョブコーチ)を就職先に派遣し、支援を行います。障害のある人を受け入れる企業への支援も行っています。
- 地域若者サポートステーション
 就労支援を行っている機関で、就労に関する相談や面談、面接指導など就労に向けて総合的な支援を行います。障害の有無に関わりなく相談や支援を行っています。
- 障害者就業・生活支援センター
 仕事と生活の両方をサポートする機関です。職場定着に向けた支援や健康管理、金銭管理、手続き等の日常生活に関する助言を行います。

県内の就労支援機関

○ 宮城障害者職業センター	022-257-5601
○ 仙台市障害者就労支援センター	022-772-5517
○ 仙台公共職業安定所	022-299-8829

就職先との連携例

- 生徒の特性や配慮事項など、就職先からの問い合わせに応じ、保護者の同意のもと情報を提供した。
- 「就労移行」や「就労継続」の障害福祉サービスを利用する場合は、3月に進路先、保護者、本人、教員、相談支援事業所等でケース会議を行った。
- 進路指導担当者より会社の人事担当者宛に電話で連絡し、保護者からの要望に添う形で説明した。また、現場責任者への情報共有を依頼した。
- 本人・保護者からの同意を得た上で、事前に職場訪問へ同行したり、企業側担当者と相談をしたりなど情報を共有した。

[高等学校における特別支援教育に関するアンケート]より作成

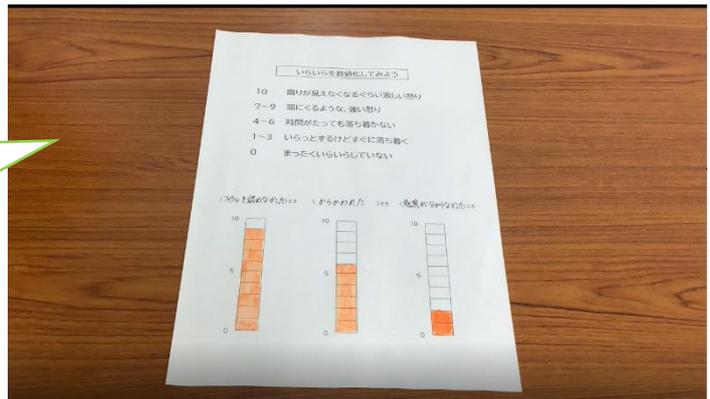
授業動画「感情のコントロールにつなげる学習」について

第3章「通級による指導の展開例」の「I 感情のコントロールが苦手な生徒」の「学習内容① 自分がどんなときに怒りを感じるのかを理解する学習」を授業動画にしました。展開例とは性別や状況は若干異なっており、50分間の授業を約8分間に短縮しています。生徒とのやり取りや意見の取り上げ方等を中心に通級による指導の様子をイメージしていただければと思います。

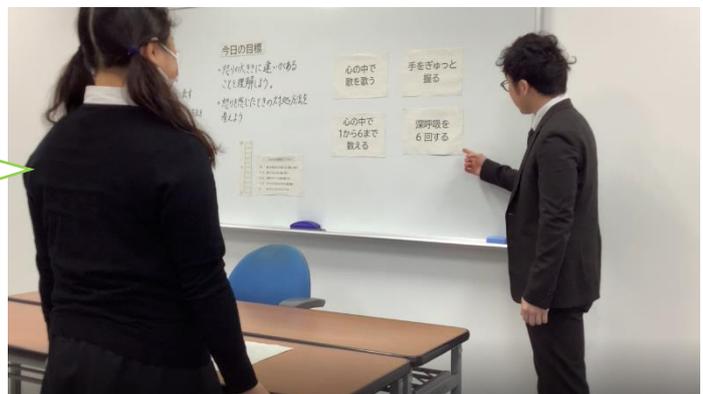
動画に登場する生徒は、感情のコントロールが苦手でかっとなりやすく、暴言を吐いたり物に当たったりしてしまいます。この行動の背景には、気持ちを言葉でうまく伝えられないことや気持ちを落ち着かせる方法が分からないことがあるのではないかと捉えました。気持ちが落ち着いた後には、自分の行動を振り返る力や、教師の指導を聞き入れる素直さがあります。この強みを生かすような指導を考えました。

本時は通級による指導を開始してから数ヶ月経った時期を想定しています。生徒自身がどんなときに怒りを感じるのかを理解し、怒りをコントロールするための具体的な対処方法を考える学習を行います。

怒りを数値化することで自分の感情を客観的に捉えさせ、同じ怒りでも場面や状況によって度合いが異なることを理解させています。



怒りを感じたときの対処方法を一緒に考え、自分に合った対処方法を練習させながら、実生活に生かせるようにしています。





宮城県総合教育センター

令和2年度 専門研究 特別支援教育研究グループ

高校通級 スタートパック



発行年月 令和3年3月

編集 宮城県総合教育センター

住所 名取市美田園2丁目1番4号

電話 022-784-3541